を必要とする場合にはこれらの用語を避け、明瞭に列擧すべきである。これらの用語が言ひ表さんと欲する區別に關する一般觀念は左の近似定義によつて窺ひ得る。

消費資本

消費資本は直接に欲望を滿す形態にある財から成る。即ち食物・衣服・住居その他勞働者に直接の生活支持資料を與へる財である。

補助資本或は要具資本

補助資本或は要具資本とは生産上に於て勞働を補助する一切の財から成るが故にかく呼ばれてゐる。この項目に屬するは道具・機械・工場・鐵道・船渠・船舶その他及び一切種類の原料である。

併し勿論或る人の衣服は作業上に於て彼を補助し彼の暖を保つ要具である。又彼は彼の工場から風雨を凌ぐ直接福利を受けること恰かも彼の住宅から直接福利を受けると同様である(4)。

(4) 上記第二編第三章一を見よ。

流通資本と固定資本

吾々はミルに從つて流通資本 circulating capital と固定資本 fixed capital とを區別していゝ。前者は『その用ひられる生産に於てたゞ一回の使用により生産任務の全體を完了するものであり、後者は耐久的形態に於て存しその收める收穫は之に相當する期間に亘つて持續するもの』である(5)。

(5) アダム・スミスも固定資本・流通資本を區別したが、この區別は、財が『持主を變更せずして利潤を生ずる』か否かの問題に繫つてゐた。リカードRicardoは財が『徐々に消費されるか或は頻繁に再生産を要する』かによつてこの區別を立てた。併し彼は實にこの區別をもつて『本質的に非ず、且つ精確に分界線を引き得ない』ものと言つてゐるミルの修正は一般に近代經濟學者によつて採用されてゐる。

四　社會的視點から見る資本と所得。

進んで所得を社會的視點から見る

財の市場生産とこれらの財の交換價値を支配する原因とを論究する場合には企業家の通例の視點は、即ち經濟學者の採る最も便利な視點である。併し全體としての社會共同體の物質的福祉を支配する原因を研究する場合には、經濟學者は元より企業家と雖もその採るべき視點は一層廣い視點でなければならぬ。日常談論に於ては視點の轉換を形式的に附言せずして一の視點から他の視點へ移つて差支ない。蓋し誤解が起つてもその誤解は即座に明かとなり、質

疑或は自發的說明によつて混同を防ぐからである。併し經濟學者はこの種の危險を冒さぬがいゝ。經濟學者は自己の視點の轉換或は用語の用法の變更を特記せねばならぬ。彼が無言の裡に用法を變更すればその時としては彼の通路は一層平坦であるかの觀を呈するかも知れぬ。併し結局に於ては總て疑はしい場合に一々の用語に與へる意味を明白に指示することそ進步を大ならしめる所以である(6)。

(6) 上記第二編第一章三參照。

實際的事項に於ては理論の完全を購ふため餘りに大なる代價を支拂ふことがある

然らば吾々は愼重に以下本章に於て個人的視點に對立する社會的視點を採り、全體としての社會共同體の生產と一切目的に用ひ得べき全部純所得 total net income とを考察しやう。卽ち吾々は略ぼ原始人の視點に歸らうとする。原始人は主として望ましい物の生產とその直接使用とに專らであつて殆んど交換・販賣を營まないのである。

この視點からすれば、所得は人類が自然資源を最善に利用せんとする—過去及び現在の—努力から或る時に於て受ける一切福利を包括するものと見る。虹の美或は新鮮な朝の空氣の爽快味から受ける快樂は計算外とする。その理由はそれが重要でないからでもなく、又之を包括すれば所得評定が不精確となるからでもない。たゞ之を算入しても少しも善い結果はなく、反つて著しく文が冗長となり論究が冗漫となるからである。又自ら服を着る如きは、殆んど總ての人が自身のために行ふ單純な奉仕であつて、時には之を他人になさしめて對價を仕拂ふ少數者がないではないが、右と同樣の理由によつてかゝる單純な奉仕を考慮に加へるも無益である。之が除外には別に何等の原理もない。一部の論爭的な著述家が之がための討論に費した時間は空費であつた。吾々は單純に『法は微細點を問はず』との格言に從ふのみである。馭者が路上の水溜りに氣付かずして通行人に飛沫を浴せても法律上の危害を加へたことにはならぬ。同樣の不注意によつて他人に重大な傷害を加へた者の行爲とこの馭者の行爲との間には原理上の區別は少しもない。

或る人が現在の勞働を自用のために投ずる場合には、この勞働は直接に所得を生ずる。彼がこの勞働を業務として他人のために投ずる場合には彼は何等

かの形態に於て之が對價を受けんことを期待する。同樣に彼が過去に於て製作し或は獲得した有用物或は原製作者・獲得者から現存財產制度の下に受け繼いだ有用物は、一般に彼にとつて直接或は間接に物質的福利の源泉となる。若し彼が之を業務に充用すればこの所得は一般に貨幣形態を採つて現れて來る。併しこの用語を一層廣義に用ふる要が場合によつて起つて來る。この廣義の所得は財產充用法の如何を問はず、財產所有によつて受ける一切種類の福利といふ所得の全部を包括する。例へばピアノ商がピアノを賃貸して收める福利をも自身のピアノの使用によつて受ける福利をも等しく包括する。日常生活の言語は社會問題を論ずる場合に於てさへ所得といふ用語をかく廣い意味に用ひてはゐないが、なほ慣用上貨幣所得以外の若干所得形態を包括してゐる。

所有者が自ら住む住宅は直接に快適といふ所得を生むものであつて、所得稅調査委員會 Income Tax Commissioners は之を課稅所得の一源泉に加へてゐる。之を加へるのは何等抽象的原理に基くのではない。一には住居が實際上重要であるからであり、一には家屋の所有が通常營業的に行はれるからであり、一にはそれに基く實質所得 real income を容易に分離し評定し得るからである。同委員會は課稅規定中に包括されてゐる物と同規定が除外してゐる物との間に種類上の絕對的區別を立てやうとするものではないのである。

ジェヴンスはこの問題を純粹に數學的見地から見るのであるが、消費者の手にある一切貨物を資本として分類したのは當を得てゐる。併し一部の著述家は極めて巧妙にこの提論を開展しつゝ之を一大原理の如く取扱つた。之は判斷上の誤謬のやうに思ふ。眞の輕重判斷力は第二義的細目を不斷に列擧して吾々の硏究を過重ならしめぬことを要求する。かゝる細目は通例の談論の考慮せぬ所であつて、之を記述してさへ通俗の慣例に反せざるを得なくなる程である。

五

所得と資本との相關關係

玆に於て吾々は全體としての社會の物質的福祉の探究といふ視點から資本といふ用語の用法を考察することゝなる。アダム・スミスの言つた所によると、

或る人の資本とは彼の資産中彼が所得を生ずると期待する部分である。又歴史上知られてゐる限り、資本といふ用語の殆んど總ての用法は所得といふ用語の平行的用法に多少とも密接に對應してゐた。殆んど總ての用法に於て、資本とは或る人の資産中彼が所得を生ずると期待する部分であつたのである。

社會的視點から見る資本及び土地といふ用語の本書に於ける意味

資本一般 Capital in general 即ち社會的視點から見る資本といふ用語を用ふる最重要の場合は、如何にして生産三要素たる土地(即ち自然的要素)・勞働・資本が國民所得 national income (即ち後に言ふ國民分配分 national dividend) の生産に寄與するか、又如何にしてこの所得が右三要素の間に分配されるかを研究する場合である。これ即ち吾々が資本及び所得といふ用語を個人的視點から相關せしめた如く社會的視點からも相關せしめる別個の一理由である。

從つて本書に於ては、土地以外の物であつて通常の談論に於て一般に所得として計算される所得を生ずる一切物と、更に官營工場の如く公有に屬する同様の物とを一括して社會的視點から見る資本の一部に入れる。土地といふ用語は鑛山・漁業場その他の如く所得を生む一切の自由(無償)の自然恩惠を包括するものとする。

即ち資本は營業の目的のために保有される一切物を包括するであらう。機械たると原料たると完成品たるとを問はぬ。劇場・ホテルもあり、自家居住農場も家屋もある。併し使用者によつて所有される家具或は衣服は之を包括しない。蓋し所得税調査委員會の慣行によつて明かな通り、一般世間は通常前者をもつて所得を生むものと見てをり、後者をもつて然らずと見てゐるからである。

この用語をかくの如く用ふるは、經濟學者が最初先づ社會問題の大體の輪廓を取扱つて微細な細目點を後の考察に留保する常例に調和してゐる。又經濟學者がこの廣義の所得を生ずる源泉と見るべき行爲を而してこの行爲のみを勞働の中に包括する常例とも調和してゐる。かくの如く定義された勞働・資本・土地は合體して國民所得の計算上通常考慮される一切所得の源泉を成すのである(7)。

(7) 實際的の目的のためには、毎朝帽子に刷毛をかける勞働から受ける福利といふ『所得』を一々擧げるは煩はしいから、之を省くに如かない。同様にこの刷毛に投ぜられ

てゐる資本といふ分子も度外視するに如かない。併し單なる抽象論究に於てはかゝる考察點は生じて來ない。從つてジェヴンスが消費者の手にある貨物は資本であると斷定した論理の簡潔は、經濟學說の數理的解釋を若干裨益するのであつて少しも之を害するものではない。

社會所得の分子中二重に計算され或は計算に漏れる恐れあるもの

六

社會所得 social income を評定するには、問題としつゝある社會—一國民たるとその以外の如何なる集合體たるとを問はぬ—の個人の所得を合計すればいゝ。さりながら同一物を二重に算入してはならぬ。若し敷物をその全幅價値で算入したとすれば、之が製作に用ひられた織絲及び勞働の價値は旣に算入してある。これらを二重に算入してはならぬ。なほ又若しこの敷物が年初の在品たりし羊毛で作られてゐるとすれば、その年の純所得を求めるには先づ右敷物の價値からこの羊毛の價値を差引かねばならぬ。同樣に之が製作に用ひられた機械その他の施設の消耗を差引かねばならぬ。之は吾々が最初に掲げた一般原則の要求する所である。その一般原則とは眞正所得卽ち純所得は總所得から所得產出に要する支出高を差引いて之を見出すとの原則である。

併し召使或は蒸氣洗濯屋がこの敷物を洗濯(クリーニング)したとすれば、この洗濯に投ぜられた勞働の價値は別個に計算せねばならぬ。蓋し然らざれば、この勞働の結果は國の實質所得を構成する新生產貨物及び便宜品の總目錄に全然漏れることゝなるからである。召使の作業は常に學術的の意味に於ける『勞働』として分類されてゐる。その價値は一々詳細に列擧せずともその報酬—貨幣拂及び實物拂—の價値によつて一括的に評價し得るものであるから、之を算入するも何等統計上の困難を生ずるものではない。さりながら召使を使用してゐない家計に於て女子その他の家族員の行ふ激烈な家庭作業を省くはやゝ一貫を缺く嫌がある。

更に一萬磅の年所得を有する土地所有者が俸給五百磅をもつて一人の秘書を雇ひ、後者が賃銀五十磅をもつて一人の召使を雇ふと假定する。この場合若しこれら三者の所得を悉く國の純所得中に算入すれば、或るものは二重にも三重にも計算されるかのやうに見えるかも知れぬ。併しさうでない。地主は土

地生産物から生ずる購買力の一部を秘書の助力の對價として之に移し、後者は更にその一部を召使の助力の對價として之に移すのである。地主の農場生産物、—その價値は地代として地主に歸する—地主が秘書の作業から受ける助力、秘書が召使の作業から受ける助力は、國の實質純所得の獨立部分である。從つて國の所得を評定する場合にはこれらの三つのものゝ貨幣測度たる一萬磅五百磅五十磅を總て算入せねばならぬ。併し若し地主がその子に年五百磅を支給するとすれば、之を獨立所得として算入してはならぬ。何となればこの高に對しては何等の奉仕も營まれてゐないからである。又この支給高には所得税は賦課されないであらう。

利子その他として個人に歸すべき純支拂高—純即ちこの個人が他に對して支拂ふべきものを差引いたもの—がその個人の所得の一部たると同樣に、一國民が他の國民から受ける貨幣その他の純受取高はその國民の所得の一部である。

國民所得は國民富よりも一般經濟繁榮の良測度である

七

富の貨幣所得或は流入量は一國民繁榮の測度となる。この測度は信據し難い測度であるが、なほ一國民の富保有高の貨幣價値による測度よりも或る點に於て勝つてゐる。

蓋し所得は主に直接快樂を與へる形態にある貨物から成つてゐるからである。之に對して國民富の大部分は生産手段から成つてをり、この手段は消費貨物の生産に寄與する限りに於てのみその國民に奉仕する。なほ又重要點ではないが、消費貨物は運送し易いが故に、全世界を通じて消費貨物生産用の物よりも均一に近い價格を有する。マニトバ Manitoba とケント Kent とに於ける優等地一エーカーの價格の差は兩地に於ける小麥一ブッシェルの價格の差よりも大である。

併し主として一國の所得を考究する場合には、所得發生源泉の減價を差引かねばならぬ。家屋から生ずる所得の中から差引くべき高は、木造家屋の場合に

は石造家屋の場合よりも大でなければならぬ。石造家屋は之と同等設備を有する木造家屋よりも一國の實質的富裕に多くを加へる。更に鑛山は一時は巨額の所得を生むこともあるが、數年を出でずして廢鑛となることもある。この場合には年所得は之よりも遙かに少ないながら永遠にこの小所得を生ずる耕地或は漁業場と等價なるものとして計算せねばならぬ。

八

生產性と期望性とはそれぞれ資本の需要と供給とに關する資本屬性であつて兩者對等である。第五附錄を見よ。

期望性と生產性とは資本の需要供給を統制する

純粹抽象推理殊に數理的推理に於ては資本及び富といふ用語は殆んど已むを得ざるものとして同義に用ひられてゐる。たゞ本來の『土地』を若干目的のために資本から除外する點は例外である。併し傳統上次の點は明白である。卽ち物を生產要素として考察する場合には資本と言ふべきこと、及び物を生產結果として卽ち消費對象たり且つ所有快樂を與へるものとして考察する場合には富と言ふべきこととこれである。卽ち資本需要は主として資本の生產性 productiveness から起り、資本が致す奉仕から起る。例へば資本は單に手をもつて行ふよりは羊毛の紡績・製織を容易ならしめ、或は苦しんで手桶をもつて水を運ぶ代りに必要に應じ何時にても自由に水を出すを得せしめる等の奉仕を致すのである。(但しこの以外になほ資本の用途がある。例へば浪費者に貸附ける如きである。かゝる資本はこの項目中に入れるは容易でない)。之に反して資本供給は次の事實によつて制せられる。卽ち人は資本を蓄積するために期望的 prospectively に行動せねばならぬとの事實である。人は『待望』wait し『貯蓄』save せねばならぬ。將來のために現在を犧牲とせねばならぬ。

本編の初めに論じた通り、經濟學者は完全な一類の學術用語の助けを借りることを斷念せねばならぬ。經濟學者は普通用ひられる用語を用ひ、之に限定形容詞を付し或は別に之れを文脈中に指示して、精確な思索を表明する目的に用ひねばならぬ。若し彼が市場地に於て多少とも漠然と二三の意に用ひられてゐる一語をとつて恣意的に固定的に精密に用ふるならば、企業家を混惑せしめ、

自らも亦た窮地に陥る若干の危険を有する。從つて所得・資本の如き用語の正常用法の選定は實際に之を研究に用ひて檢證せねばならぬ(8)。

(8) 今玆にこの研究の一部を簡單に豫論しておきたい。即ち以下資本をその使用より生ずべき福利の體現總體及びその生産に要せる努力・貯蓄の費用の體現總體の兩者に關して考察する所以が明かとなるであらう。又如何にしてこれら二つの總體が平衡するかゞ明かとなるであらう。即ち第五編第四章は或る意味に於て本章の續論と見ていゝのであるが、この章に至つて個人たるロビンソン・クルーソーの豫想中に於てこの二つが直接に平衡すること、及び近代企業家の豫想中に於て—少なくもその大部分が—貨幣に言ひ表されて平衡することが明かとなるであらう。何れの場合にも計算上の二つの側は同時日のものを取らねばならぬ。その時日以後の分は『割引して』discounted その時日に引戻し、その以前の分はその時日迄『積算して』accumulated おく。

資本一般の福利と費用とについても同樣の平衡があるが、この平衡は社會經濟の主要基石たることが分るであらう。但し富の不平等分配の結果として社會的視點からは、一個人—ロビンソン・クルーソーたると近代企業家たるとを問はぬ—の場合に於ける如く、鮮明な輪廓をもつて計算を立てることは出來ない。

吾々は生産資源の蓄積・充用を支配する諸原因を論究するが、この論究の諸所に次の諸點が明かとなるであらう。即ち迂回的生産方法の使用は必ず直接方法よりも能率大なりとの普遍原則はない。又機械を求め未來欲望に對して高價な準備を行ふためにする努力の投下が結局に於て經濟的なるは、或る條件の下に於てゞあつて、他の條件の下に於ては必ずしもさうでない。又資本は一面に於て人の期望性に比例して蓄積され、他面に於て採用を利とする生産的な迂回的生産方法の資本吸收に比例して蓄積される。殊に第四編第七章八・第五編第四章・第六編第一章八・第六編第六章一を見よ。

資本一般の生産及びその國民所得への寄與を支配する廣大な諸力は第四編第七章・第九—十一章に論ずる。福利と費用との貨幣測度がその實質的大さと完全に適合せぬことは主として第三編第三—五章・第四編第七章・第六編第三—八章に論じてある。資本と勞働とが自然資源の助力によつて全部生産物を生み、その結果この全部生産物中から資本に歸すべき取得分は、主として第六編第一章・第二章・第六—八章・第十一章・第十二章に論じてある。

資本定義の歴史に現れた主要附帶事項の若干は第五附錄に收めた。

第三編　欲望とその滿足

第三編　欲望とその滿足

第一章　開題

一　本編と以下三編との關係。

本編と本書の殘部との關係

經濟學の古い定義によると、斯學は富の生產・分配・交換・消費を取扱ふ科學とされてゐる。その後の經驗によると、分配・交換問題は極めて密接に關聯し、ために此の二者を分離して果して何等か得る所ありや否や疑はしくなつて來た。さりながら需要・供給に關しては一般推理が多い。この一般推理は實際的價値問題の基礎として必要であり、經濟推理の重要部分に統一性と一貫性とを與へ之を貫く中軸たる役目を勤める。この推理には廣汎性と一般性とがあり、之によつてこの推理とこの推理を用ひて解くべき具體的分配・交換問題とは截然明別されてゐる。從つてこの推理は『需要供給一般理論』に關する第五編に一括し、之

を『分配・交換或は價値』に至る道程の準備とする。

併し先づ玆に第三編をおく。本編は欲望とその滿足との研究即ち需要・消費の研究である。その次に第四編をおく。この編は生產要素の研究である。この要素は即ち欲望滿足手段たる要素であり、この中に生產の主要要素たり唯一の目標たる人間自身をも含める。過去二代に亘つて一般經濟學に關する殆んど總ての英吉利書は生產の論究に多大の部分を割いたが、右第四編は一般性質に於てこの生產論に該當する。但し舊來は生產論と需要・供給問題との關係が未だ十分鮮明でなかつた。

二　最近に至る迄需要と消費とには十分な注意が拂はれなかつた。

數多の原因に基き消費研究は重要となりつゝある

最近に至る迄需要或は消費の題目はやゝ輕視されてゐた。蓋し吾々の資力を如何にして最善に利用するかの研究は重要には相違ないが、この研究は一私個人の經費に關する以上―經濟學の方法を裨益するやうなものではなかつたからである。かゝる事項については多大の生活經驗を有する人の常識の方が精細な經濟分析よりも多くの指針を與へるであらう。事實經濟學者は常識豐かな人々の總ての共有財產たるもの以上には多くを言はなかつたから、最近に至る迄この題目について殆んど言ふ所なかつた。併し最近數多の原因が集つてこの題目は經濟學的論究の上で重要となるに至つた。

第一の原因

これら原因の第一は、交換價値決定原因の分析に當つて生產費の側を過當に高調するリカードの習性を有害であつたとする信念が強くなりつゝあることにある。蓋しリカード及びその主要追隨者は價値決定上に於て需要條件が供給條件と同樣に重要な力を持つを知りながら、なほ彼等の意味する所を十分鮮明に言ひ表さず、最も細心な讀者を除き總ての人に誤解されるに至つたからである。

第二の原因

第二に經濟學上に於ける精密思考の習性が發達したため、人々は推理の前提を明確に叙述することに一層注意深くなりつゝある。かく注意深くなつたのは一には一部學者が數學用語及び數理的思考習性を應用したことに基因する。

元より複雜な數學式を用ひて果して多く得る所あり否やは疑問である。併し數理的思考法の應用には多大の功績があつた。蓋しこの應用によつて學者は何が問題であるかを十分確かめる迄は問題の考察を肯ぜぬに至り、又推理を進める前に先づ何が假定されてをり何が假定されてをらぬかを知悉せねば止まなくなつたからである。

之が又逆に經濟學上の一切主要概念殊に需要概念の一段細心な分析を爲さゞるを得ざらしめるに至つた。蓋し一物に對する需要を如何にして測定するかを明白に叙述しやうとする單なる企圖も、既に經濟學上の諸主要問題の新方面を開いてくれるからである。尤も需要理論は未だ依然幼年期にあるが、消費統計の蒐集整理が發達して、公共福祉に極めて重要な難問題に光明を投ずることが可能となるべきは既に認め得るのである。

第三の原因

最後に時代精神は、增加しつゝある吾々の富が果して現在以上に一般福祉を增進せぬものであるかの問題に更に一層周到な注意を向けつゝある。之が更に吾々を强ひて、富―共同的に使用されると個人的に使用されるとを問はぬ―の何れかの分子の交換價値が之によつて生ずる幸福・福祉の增進を如何なる程度迄精確に表すかを檢せざるを得なくするのである。

先づ欲望と努力との關係の研究から始める

吾々は先づ本編の初めに、人間欲望の多樣性を人間の努力・活動に關聯せしめて簡單に研究するであらう。蓋し人の進歩的本性は一の全體を成すからである。研究のために人間生活の經濟面を便宜遊離せしめ得るは單に一時的・暫定的に過ぎない。吾々は必ずこの面の全體を一視野の下に總觀する用意を有すべきである。この點を今茲に切論する特殊の必要がある。何となればリカード及びその追隨者が比較的に欲望研究を輕んじたに對して反動が起り、この反動が反對の極端に走らんとする兆があるからである。彼等は左の大眞理を聊か偏重したが、之を固守するは依然として重要である。その眞理とは即ち、欲望は下等動物間に於ける生活支配者ではあるが、人類歷史の基調の探究に當つては努力・活動形式の變化に著目せねばならぬとの眞理である。

第二章　欲望と活動との關係

一　多樣願望。

野蠻人の欲望は少ない

人間の欲望・願望は數に於て無數であり種類に於て甚だ多樣であるが、これらは一般に有限であり滿し得るものである。元より非文明人は野獸以上に餘り多くを持たぬ。併し非文明人が一步一步進步するに從つて、その必要の多樣性とこの必要を滿す方法の多樣性とは增大する。彼は單に慣例上消費し來つた物の量の增加を欲求するのみならず、その質の優良を欲求する。彼は物の選擇範圍の擴大を欲求し、彼の裡に發生しつゝある新欲望を滿すべき物を欲求する。

併し文明の進步と共にそれ自體のための多樣の願望が生ず

即ち野獸も野蠻人も共に品質優等な少量物を愛好するが、何れもそれ自體のための多樣を餘り念としない。さりながら人の文明が高まるに從ひ、その精神が發達するに從ひ、又その獸的慾情さへも心性的活動と結び付くに從つて、その欲望は急速に纖細となり多樣となり、慣習の絆を意識的に脫却する久しい以前に生活上の微細事項に於ては變化のための變化を欲求し始める。この方向に進む大なる第一步は火を作る術である。人間は漸次多種の料理法による多種の食物・飲料に慣れるに至り、程なく單調に厭き初め、偶然の事故によつて長い間全然一種或は二種の食物のみによつて生活せざるを得ぬ場合には甚だ苦痛を感ずるに至るのである。

人の食物受容力には限度がある

人の富が增加するに從ひその食物・飲料は一層多樣となり高價となる。併し人の食慾は自然によつて制限されてゐる。その食物の經費が巨額に達してゐる場合には、自己の感覺に耽溺するためよりも寧ろ歡待誇示の願望を滿すための方が多いのである。

併し卓越欲には限りがない

茲に於て吾々はシーニオルと共に言ひたい。『多樣願望 desire for variety は強いには強いが卓越願望 desire for distinction に比すればなほ弱い。その普遍性と永續性とを考へ、又それが一切人・一切時に働くこと、搖籃の中から吾々に付き絡つて墓の中に入る迄決して離れぬことを考へれば、この感情は正に人間慾情中の最强力者と斷じていゝ』。之は大なる一部眞理であつて、優良・多樣の食物に對

する願望と優良・多様の衣服に對する願望との比較は良く之を例證するのである。

二　卓越願望。

卓越欲は高價衣服に對する欲望の主要源泉である

衣服の必要は自然的原因の結果であり、氣候と季節とによつて相違し、人の職業の性質によつても少しく相違する。併し衣服については慣例的欲望は自然的欲望を壓倒する。即ち多くの初期文明階段に於ては法律・慣習は奢侈禁制を命じて嚴に各世襲階級(カスト)或は各産業等級の所屬員の衣服樣式を指定し、衣服の失費標準を定めてそれ以下及びそれ以上を禁じた。これらの禁制は急變しつゝもその實體はなほ今日に殘つてゐる。例へば蘇格蘭に於ては今日もはや靴及び靴下を著けずに外出せぬ人々もアダム・スミスの時代には慣習上之を著けずに外出するを許されてゐた者が多い。今日に至つても、英蘭に於ては之を用ひながら蘇格蘭に於ては之を用ひぬ者も多い。更に英蘭に於ては、今日裕福な勞働者は日曜に黑服(ブラック・コート)を著け、場所によつてはシルクハットを用ふる例となつてゐる。然るに少し以前迄はかゝる服裝をすれば嘲笑されたのである。慣習が最小限として要求し最高限として默許する多樣性と高價性とは共に不斷に增大し、服裝によつて卓越せんとする努力は英吉利社會の下層を通じて普及しつゝある。

併しその上層に於ては―婦人の服裝は依然多樣・高價であるが―男子の服裝は少し以前の歐洲に於けるよりも、又今日の東洋に於けるよりも質素・安價である。蓋し自己の力量による眞の最卓越者は、服裝などによつて注目を引くかに見られることを自然に忌避し、それがやがて一般の風潮を成すに至つたからである(1)。

(1) 婦人は服裝によつて富を衒示していゝが富のみを衒示してはいけない。然らざればその目的を破壞して了ふからである。婦人は富の卓越を暗示するのみならず性格の卓越をも暗示せねばならぬ。蓋しその服裝は婦人自身よりも寧ろ洋服屋に負ふ所多いには違ひないが、なほ婦人は家庭外の事務を有する男子程に多忙でなく、自身の服裝を考へる上に一層多くの時間を投じ得るものと傳統上看做されてゐるからである。近代流行の勢力の下に於てさへ、『良き服裝』―『高價な服裝』に非ず―を露

すは、自己の才幹・能力によつて人に卓越せんと欲する者の微細目的として許し得る。若し流行の奔放な粋狂の及ぼす有害な力が消滅したならばなほ一層さうであらう。蓋し服裝を服裝として優美に取合せ多様ならしめその目的に良く適應せしめるは、高級な努力に價する對象である。　それは名畫の製作と同種中の同級に屬せずとも同種に屬するものである。

三

住居

住居は雨露を凌ぐための要請的必要を滿すものであるが、この必要は住居に對する實效需要 efficient demand の上に殆んど力を持たぬ。　蓋し小さいながらに建築のいゝ小屋は雨露を凌ぐにはいゝが、その息詰る空氣、その必然的な不潔又その生活の高雅・安靜の缺如は大害惡だからである。　これらの害惡が生理的不快適を來す點もさることながらそれよりも寧ろ人の才幹を阻害し人の高級活動を限局する點が重大である。　これら活動の増加するに從つて廣濶な住居の需要は愈々切迫的となるのである(2)。

(2) 活動的精神を有する多數の勞働者が田舍の廣濶な邸宅を探らずして都市の狭隘な借屋を採るは眞である。　併し之は彼等が田舍生活の殆んど提供せぬ活動を強烈に愛好するからである。

從つて相對的に整つた大住居は社會最下層に於てさへ『能率必要品』 necessary for efficiency (3) たると同時に、社會的卓越を求める要求權を最も便利且つ明白に強める物質的基礎である。　一部の社會等級に於ては既に各人は自己及び家族の高級活動のために十分の住居を持つてゐるが、これらの等級に於てさへ、一層高級の社會活動の多くを發揮する要件として、更に一層否殆んど無限に住居を増大するのが望ましいのである。

(3) 第二編第三章三を見よ。

四　それ自體のための卓越願望。　經濟學上に於ける消費理論の地位。

活動の結果たる欲望

更に總ての社會層を通じて活動を發揮・發展せしめんとする願望がある。　人が科學・文學・藝術をそれ自體のために追求するのみならず、又之を職業として追

求する者の作業に對する需要が迅速に增加しつゝあるは、この願望から來るのである。人は餘暇を以前のやうに單なる安逸の機會として用ふること次第に少なく、體育競技・旅行等官能慾に耽溺せしめずして活動を發展せしめる娛樂に對する願望が增加しつゝある(4)。

(4) 玆に細目點として注意すべきは、心性的活動を刺戟する飮料が單に官能を滿足せしめる飮料に著しく代りつゝあることである。茶の消費高は非常に急速に增大しつゝある。之に對して酒精飮料の消費高は靜止的であり、酒精飮料中直接昏醉性ある惡烈な種類に對する需要は一切社會層を通じて減少しつゝある。

優秀願望の段階

蓋しそれ自體のための優秀願望 desire for excellence は元よりその範圍に於て低級卓越願望と殆んど同樣に廣いからである。卓越願望には種々の段階がある。上は遠國と後世とに名を走せたいと希望する者の抱負から、下は復活祭に新調のリボンをつけて隣人の目に立ちたいと思ふ田舍娘の望み迄ある。これと同樣にそれ自體のための優秀願望にも種々の段階がある。上はニウトン或はストラディヴリウスの如き人物の優秀願望から、下は漁夫の優秀願望迄ある。漁夫は誰一人見る人もなく別に急ぎもせぬ場合に於てさへ漁船の操縱の輕妙を喜び船がよく出來てゐて思ひの儘に動く事實を喜ぶのである。この種の願望は最高才幹と最大發明との供給上に多大の影響を及ぼし、その需要の側に於ても必ずしも重要でないのではない。蓋し最高級の熟練自由職業者の奉仕と機械技術工の最優秀作業とに對する需要の大部は、人が自己の才幹を訓練し、又最も微妙に適應し最も目的に應ずる道具の助けを借りて、この才幹を用ふる歡喜から起り來るものだからである。

健全な狀態に於ては新活動は新欲望の道を開く

從つて大體について言へば、最初期の發展階段に於て人間活動を引起すものは人間欲望であるが、その以後に踏み登る一步一步は、寧ろ新欲望を引起す新活動の發展と見るべきであつて新活動を引起す新欲望の發展と見るべきではない。

若し吾々が、新活動の絕えず發展しつゝある健全な生活狀態から目を轉じて他を見るならば、この點は明白に分るのである。西印度の黑奴を見よ。彼等はその新たに得た自由と富とを新欲望の滿足手段を得るために用ひずして、休息

にもならぬ無性な安逸に用ひてゐる。或は更に英吉利勞働階級の―急速に減少しつゝある―一部を見よ。彼等は何等の抱負を持たず、才幹・活動の發達に何等の誇り或は歡喜をも持たず、忌はしい生活の最低必要品を求めて殘る賃銀を悉く飲酒に費してゐるのである。

欲望理論は努力理論に對して上位たり得ない

從つて『消費理論は經濟學の科學的基礎である』(5)と言ふは眞でない。蓋し欲望科學上に於て多大の興味ある事柄は多く努力・活動科學から借り來つたものだからである。この二者は互に他を補ふものであつて、一なければ他は不完全である。併し若しその何れかゞ他に勝つて人間歷史―その經濟面たるとその他如何なる面たるとを問はぬ―の解釋者をもつて任じていゝとすれば、それは活動科學であつて欲望科學ではない。マカロックが『人の進歩的本性』(6)を論ずるに當つて言つた所はこの兩者の眞の關係を指示したものである。『一の欲望或は願望の充足は單に何等かの新追求に至る一歩に過ぎぬ。彼はその進歩の各階段に於て工夫し發明し新企業に從事すべく運命づけられてをり、これら企業の完成後は精力を新たにして他の企業に入るべく運命づけられてゐる』。

(5) この學說を立てたのはバンフィールド Banfield であつてジェヷンスは之を採用して自己の立場の鍵とした。不幸にしてジェヷンスは玆に於ても亦た他の場合に於ける如く好んで自身の立場を述べるに急であつてために其の到達した結論は不正確なるのみならず、恰かも昔の經濟學者が眞實然りし以上に誤つてゐるかの意を藏して人を誤るものである。バンフィールドは言ふ―『消費理論上の第一命題は(欲望)表中の各低級欲望の滿足は性質高級な願望を創造するといふ命題である』と。若し之が眞ならば、彼がこの上に立てた上記の學說も亦た眞であらう。併しジェヷンスの指摘する通り(Jevons, Theory, 2nd Ed. p. 59.)之は眞でない。彼はこの命題に代ふるに、一低級欲望の滿足は一高級欲望の出現を許すとの敍述をもつてした。之は眞なる命題であり實に自同命題である。併し之は消費理論上位論の主張の擁護とはならぬ。

(6) McCulloch, Political Economy, ch. II.

以上によつて、吾々のこの研究程度に於て可能な需要論は殆んど純粹に形式的な種類の初歩分析に限らねばならぬことゝなる。一層程度の高い消費研究は經濟學的分析の主要部分の後に來らねばならぬのであつてその前に來るべきではない。かゝる消費研究は經濟學本來の領域内にその發端を有してゐるとは言へ、この領域内にその結論を見出し得ない。更にそれ以上に遠く及ばね

ばならぬものである(7)。

(7) 欲望の形式的分類は興味のない事でもないが吾々の目的には不要である。この方面に於ける大多數の近代業績の基礎はヘルマンの『國家經濟研究』第二章 Hermann, Staatswirtschaftliche Untersuchungen, ch. II. にある。この章に於ては欲望は『絕對的・相對的、高級・低級、切迫的・延期可能的、積極的・消極的、直接・間接、一般・特殊、恒久的・一時的、通常・非常、現在的・未來的、個人的・共同的、私人的・公共的』と分類されてゐる。

欲望・願望に關する若干分析は吾々の前の時代の佛國その他大陸諸國の經濟學書の大多數にさへも見える。併し英吉利學者は斯學の範圍を嚴重に限定してかゝる論究を除外した。ベンタム Bentham が『道德・立法諸原理』Principles of Morals and Legislation 及び『人間行爲動源表』Table of the Springs of Human Action で行つた深い欲望分析が廣く影響したにも拘らず、その『政治的經濟學提要』Manual of Political Economy では少しも之に論及してゐないのは特記すべき事實である。ヘルマンはベンタムを研究した。他方バンフィールドの講義は恐らく英吉利大學に於て直接獨逸經濟思想の著しい感化を受けた最初の講義であつて、氏はヘルマンに殊に負ふ所あるを自ら認めてゐる。英蘭に於て欲望理論に關するジェヴンスの優秀な業績の道を準備しておいたのはベンタム自身であり、この題目について深遠な暗示に富む簡單な所說を爲したのはシーニオルであり、バンフィールドであり、又濠洲の學者ハーンである。ハーンの『理財學』Hearn, Plutology or Theory of the Efforts to satisfy Human Wants は簡單であつて同時に深奧である。この書は細密な分析を應用して青年に對し非常に高級な訓練を與へ、青年をして生活の經濟狀態に親炙せしめ、而かも未だ獨立判斷を下し得ざる如き難問題の特定解決を青年に强ひぬやうにする方法を示すものであつて、かゝる方法の絕好の例である。ジェヴンスの『理論』が出ると略ぼ同時に、カール・メンガー Carl Menger は墺太利學派の精緻にして興味ある欲望・利用研究に多大の刺戟を與へた。かゝる研究は本書序文中に指示した如く、既にフォン・テューネン von Thünen の創始したものである。

第三章　消費者需要の段階

一　欲望飽滿法則或は利用遞減法則。全部利用。限界增量。限界利用。

消費者需要は商人需要を支配する

商人或は工業家が生産用或は轉賣用として何物かを買ふ場合に、彼の需要は之によつて收め得る利潤の豫想に繫つてゐる。これらの利潤はその時々の投機的危險その他の諸原因によるものであつて、これら原因は更に後に至つて考察を要するであらう。併し商人或は工業家が一物の對價として支拂ひ得る價格は、結局に於て消費者がこの物の對價として或はこの物の補助によつて作られる物の對價として支拂ふべき價格に繫る。從つて一切需要の終極調節者は消費者需要である。本編に於て吾々の取扱ふは殆んど全くこの消費者需要のみである。

利用と欲望

利用 Utility は願望 Desire 或は欲望 Want と相關的であると解する。既に論じた通り、願望は直接に測定し得ないものであつて、之から起る外部的現象によつて間接にのみ測定し得るものである。又經濟學が主として取扱ふ場合に於ては、その測度は人が自身の願望の充實或は滿足の對價として支拂はんと欲する價格にある。人は意識的には何等の滿足をも期求せぬ願望・憧憬を持つこともある。併し當面の問題としては、吾々は滿足を期求する願望・憧憬を主として取扱ふのであつて、結果として生ずる滿足が一般に購入に際して豫想した滿足に相應よく一致するものと假定する(1)。

とは相關用語として用ひられ倫理的或は道義的内包を有せぬ

(1) 願望にせよ或は願望充實の結果たる滿足にせよ、何れも直接に即ちそれ自體として測定するは思考し得ぬではないが不可能である。この點は呉れ呉れも力說しておく。若し之が出來るとすれば、願望の側と他方實現された滿足の側との兩面の精算を行ふべきである。この二面は著しく相違するかも知れぬ。蓋し高級な憧憬は言ふ迄もなく、經濟學が主として取扱ふ願望殊に競勵心に關聯する願望の若干は衝動的であり、多くは習性の力の結果であり、或るものは病的であつて單に危害を來すのみであり、多くは斷じて實現されない期待に基いてゐるからである(上記第一編第二章三・四を見よ)。勿論多くの滿足は普通の快樂に非ずして高級な人間本性の發展に屬し、或は適切な古い言葉を用ふれば人の冥福に屬し或るものは部分的に自己否

定の結果として生ずるものもある(第一編第二章一を見よ)。然らば右の二つの直接測定は相違するかも知れぬ。併し右は何れも不可能であるから、吾々は經濟學の與へる測定即ち行爲の動機或は原動力の測定に頼らねばならぬ。この測定には缺點も多いが吾々は行爲を促成する願望にもその結果たる滿足にも共に之を用ふる。(Prof. Pigou, Some remarks on Utility, Economic Journal March 1903 參照)。

欲望飽滿法則或は利用遞減法則

欲望は無限に多樣であるが、個々別々の欲望には限度がある。人間本性上のこの卑近な基本的傾向は欲望飽滿法則 law of satiable wants 或は利用遞減法則 law of diminishing utility として次の如く敍述していゝ――何人かにとつての一物の全部利用 total utility (卽ちその物がその人に與へる快樂その他の福利の全部)はその人の該物保有量の增加する每に增加するが、その保有量の增加と同一速度には增加しない。若し彼の該物保有量が均一率をもつて增加するとすれば、之から生ずる福利は遞減率をもつて增加する。言ひ換へれば或る人が一物保有量の一定增加から受ける福利增加分は、旣有量の增加する每に遞減する。

全部利用

限界購入

その物の中彼が辛うじて購入せんと欲する only just induced to purchase 部分は限界購入 marginal purchase と言つていゝ。何となれば彼はこの部分の取得に要する支出を行つて收支償ふか否かに迷ふ限界に立つからである。又彼の限界購入の利用は彼にとつての該物の限界利用 marginal utility と言つていゝ。或は彼が該物を購入せずして自ら製作するとすれば、この場合には該物の限界利用は彼が製作しても辛うじて收支償ふのみと考へる部分の利用である。卽ち右の法則は左の如く言ひ表していゝ――

或る人にとつての一物の限界利用は彼の該物旣有量の增加する每に遞減する(2)。

(2) 卷末數學附錄註解一を見よ。時の上から見れば土地收穫遞減法則 law of diminishing return は右の利用遞減法則に對して優先性を持つてゐるが、地位から言へば利用遞減法則が優先性を持つてゐる。何故かと言へば半數學的性質を帶びた嚴密な分析は先づ最初利用遞減法則に用ひられたからである。若し茲に豫めその若干用語を借り來るならば次の如く言つていゝ。卽ち或る人が一貨物の各增加分 additional dose から受ける快樂の收穫 return は遞減して、遂にもはやこれ以上該貨物を取得するも收支償はぬといふ限界に達する。

限界利用 (Grenznutzen) といふ用語をこの點に關聯して最初に用ひたのは墺太利學者ウィーザー Wieser 敎授である。ウィックスティード Wicksteed 敎授は之を採用し

た。　この用語はジェヴンスの最終 Final といふ用語に該當し、ウィーザーはその序文でジェヴンスに負ふ所あるを述べてゐる(英國版序文二三頁)。ジェヴンスは自己の學說に先鞭をつけた人々を列擧してゐるが、その先頭はゴッセン Gossen(1854)である。

消費者性格不變の意を含む

さりながらこの法則の中には暗默の一條件があるから、之を明白にしておくべきである。その條件は卽ちその人自身の性格或は嗜好に何等かの變化が起るだけの時の介在を許すと推定せぬことこれである。從つて人が良い音樂を聞けば聞く程その音樂趣味が愈々强くなり勝ちである如き、貪慾・野心が往々飽滿せぬ如き、或は淸潔の美德と亂酒の惡德とが共に愈々昂進する如きは、該法則の例外ではない。蓋しかゝる場合には吾々の觀察は若干期間に亘るのであつて、その人はこの期間の最初と最後とに於てもはや同一人でないからである。若し人の性格の變化を來す時の介在を許さずして人を現に在るが儘に見れば、その人にとつての一物の限界利用は彼の該物保有量の增加する每に着々と遞減するのである(3)。

(3)　實際的意義こそ殆んどないが玆に注意したい事實がある。卽ち貨物の少量が或る特殊の欲望を滿すに不充分なことがある。この場合には消費者がその欲する目的を達し得るに足る分量を得れば、快樂は比例以上に增加するであらう。卽ち例へば室内の壁全部を貼るに十二枚の壁紙を要し十枚では十分でないとすれば、或る人が十枚から受ける快樂は十二枚から受ける快樂に比して比例以下に小であらう。或は更に非常に短かい演奏或は一日の休暇は休養・慰安の目的を達せぬことがあり、その二倍の長さの演奏或は休暇は二倍以上の全部利用を有することがある。この場合は吾々が收穫遞減傾向に關聯して研究すべき次の事實に該應するものである。卽ち或る面積の土地に既に充用されてゐる資本・勞働は土地の全幅力を開發するに甚だ不十分なことがあつて、この場合には土地に投ずる經費を若干增加すれば現存農業技術をもつてしてさへなほ比例以上の收穫を生ずるであらう。又農業技術の改良がこの傾向を阻止することもあるとの事實には、利用遞減法則に含意されてゐるものとして右本文に記載した條件に類同する點があるのを知るであらう。

二　需要價格。

この法則を價格の用語に言ひ改める

さてこの利用遞減法則を價格の用語に言ひ改めやう。それには茶の如く恒常的需要があつて、少量づゝ購入し得る貨物の場合をもつて例解しやう。例へば或る品質の茶は一封度二志(シリング)であると假定する。今或る人があつて、全然茶を用ひぬに比すれば寧ろ年一回一封度を十志で買ひたいと思ふかも知れぬ。他

限界需要價格

方若し無代で茶を何程でも求め得るとしても、恐らく年三十封度以上は用ひやうとはせぬであらう。併し事實としては彼は年十封度を買ふ。即ち彼が九封度を買つて受ける滿足と十封度を買つて受ける滿足との差額は彼をして之がために二志を支拂はんと欲せしめるに十分である。」他方彼が第十一封度を買はぬといふ事實は、彼が第十一封度をもつて二志の追加に償するものと考へないのを示してゐる。」即ち一封度二志は彼の購入の限界或は極點或は最後に在る茶の彼にとつての利用を測定する。」それは彼にとつての限界利用を測定する。若し彼が何れかの封度の對價として辛うじて支拂はんと欲する價格を彼の需要價格 demand price と呼ぶとすれば、二志は彼の限界需要價格 marginal demand price である。よつて右の法則は次の如く言ひ改められる―

或る人の一物保有量が多ければ多い程、他の事情等しい限り（即ち貨幣の購買力及び彼の支配の下にある貨幣額の等しい限り）彼がその小增加量の對價として支拂はんと欲する價格は愈々低くなる。或は言ひ換へれば之に對する彼の限界需要價格は遞減する。

彼の需要が實效的 efficient となるは、たゞ彼の提供せんと欲する價格が賣手の欲する價格　之ならば賣つてもいゝとする價格―に達する場合に限る。

右最後の文章は、吾々が未だ貨幣即ち一般購買力の限界利用の變化を考慮してゐない一事を想起せしめる。全く同一の時に於ては、或る人の物質的資力には變化なく、彼にとつての貨幣の限界利用は一固定量であるから、彼が二貨物に對して辛うじて支拂はんと欲する價格は互にこれら二貨物の利用と同一比率を保つのである。

三　貨幣の利用の變差を考慮せねばならぬ。

貨幣の限界利用は富者よりも貧民に大である

人をして一物を購入せしめるにも、彼が貧しい場合にはその富める場合よりも大なる利用を要するであらう。既に明かにした通り、年收百磅の事務員は年收三百磅の事務員が到底徒歩を欲せぬやうな豪雨にも徒歩通勤するであらう(4)。この貧しい人の心中で二片によつて測定される利用或は福利はこの富める者の心中で二片によつて測定される利用或は福利よりも大である。併しそ

れにしても若しこの富者が年百回乘車し貧民が二十回乘車するとすれば、富者が辛うじて乘車を欲するのみなる第百回目の乘車の利用は彼にとつては二片によつて測定され、貧民が辛うじて乘車を欲するのみなる第二十回目の乘車の利用は彼にとつては二片によつて測定される。兩者何れにとつても限界利用は二片によつて測定されるが、この限界利用は貧民の場合には富者の場合よりも大である。

(4) 第一編第二章二を見よ。

言ひ換へれば人が富めば富む程彼にとつての貨幣の限界利用は愈々小となり、彼の資力の增加する每に彼が一定福利の對價として支拂はんと欲する價格は增加する。同樣に彼の資力の減少する每に彼にとつての貨幣の限界利用は大となり、彼が何等かの福利の對價として支拂はんと欲する價格は減少する(5)。

(5) 數學附錄註解二を見よ。

四　一個人の需要表。『需要增加』といふ用語の意味。

個人需要の一層明確な表現

或る物に對する需要を完全に知るには如何にすべきか。それにはその物が種々の價格に於て提供されるであらうから、彼がその一々の價格に於てその物を何程購入せんと欲するかを確定せねばならぬ。茶假りにに對する彼の需要狀態は、彼の支拂はんと欲する諸價格の表、卽ちその物の大小各量に對する彼の數多の需要價格によつて最も良く表示し得る。この表は彼の需要表 demand schedule と稱していゝ。卽ち例へば彼の購入高を左の如く見ていゝ。

一封度五〇片の場合	六封度
四〇	七
三三	八
二八	九
二四	一〇
二一	一一
一九	一二
一七	一三

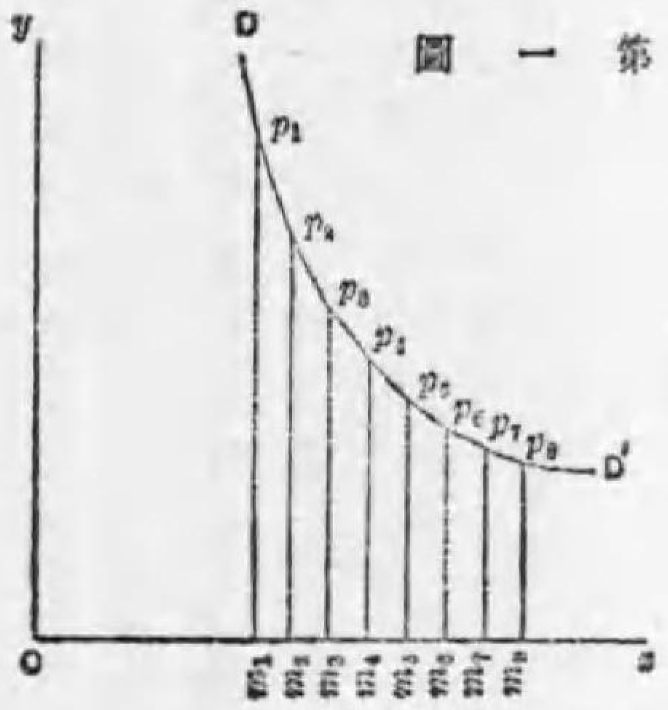
若し右表の購入高の中間に位する一切中間高に對して當該價格を補入すれば彼の需要の精密な明細表を得る筈である(6)。吾々は一物に對する個人需要はたゞ單に『彼の買はんと欲する高』により或は『彼が或る高を買はんとする熱望の强度』によつて言ひ表し得ない。卽ち彼がその高及びその他の高を何程の價格で買はんとするかを無視し得ない。個人需要は彼が何程の價格に於て大小各量を買はんと欲するかを示す表によらなければ精密には表し得ないのである(7)。

(6) かゝる需要表は今日次第に慣用されつゝある考案に基いて、一曲線に改め表していゝのであつて、この曲線は彼の需要曲線demand curveと稱していゝ。Ox及びOyを一は水平に他は垂直に引く。Ox上に測定した一吋をもつて茶十封度を表しOy上に測定した一吋をもつて四十片を表すとする。

一吋の十分の一	一吋の四十分の一
$Om_1=6$ として	$m_1P_1=50$ を引く
$Om_2=7$ 〃	$m_2P_2=40$ 〃
$Om_3=8$ 〃	$m_3P_3=33$ 〃
$Om_4=9$ 〃	$m_4P_4=28$ 〃
$Om_5=10$ 〃	$m_5P_5=24$ 〃
$Om_6=11$ 〃	$m_6P_6=21$ 〃
$Om_7=12$ 〃	$m_7P_7=19$ 〃
$Om_8=13$ 〃	$m_8P_8=17$ 〃

m_1はOx上にありm_1P_1はm_1から垂直に引いたものであつて、以下同樣である。すればP_1 P_2……P_8は茶に對する彼の需要曲線の上にある諸點である。或は需要點demand pointsとも言ふべきである。若し同樣に茶の一切可能量について需要點を見出し得るとすれば、右圖に示すやうな全連續曲線DD′を得べきである。玆に與へた需要表及び需要曲線に關する說明は暫定的であつて、之に關聯する二三の困難は第五章に讓る。

第一圖



(7) 卽ちミルは言ふ。吾々は『需要といふ言葉をもつて需要量を意味せねばならず、たゞこの需要量が固定量に非ずして一般に價値に從つて變動することを記憶せねばならぬ』と(Principles, III. II.4)。この說明は實質に於ては科學的であるが明瞭に言ひ表されてをらず、著しく誤解されて來た。ケアンズCairnesは『需要は貨物・奉仕に對する願望であつて一般購買力の提供によつて目的を達せんとするもの』とし、供給は一般購買力に對する願望であつて特定貨物或は奉仕の提供によつて目的を達せんとするもの』とするを宜しとする。彼がかくするは需要・供給の比率或は均等といふことと

を言ひ得るやうにするためである。併し二人の人の二つの願望の量は直接比較し得ない。その測度は比較し得やうが、それ自體は比較し得ない。事實に於てケアンズ自身既に供給は『販賣のために提供される特定貨物の量によつて制限される』と言はざるを得なかつたのである。併し賣手は價格の如何に拘らずして無條件に販賣のために提供する貨物の一固定量を持つてゐるものでなく、買手も支拂ふべき價格の高きを問ふことなくたゞ特定貨物に費さんとする購買力の一固定量を持つてゐるものではない。然らばケアンズの説明を完全ならしめるには右何れの場合にも量と價格との關係を考慮せねばならぬ。之を考慮する時は卽ちミルが追隨した説に歸着して了ふ。元よりケアンズは言つてゐる—『ミルの定義した需要は私の定義が要求する所と違ひ、貨物に對する願望を支持するために提供される購買力の量によつて測定されるものと解してはならず、かゝる購買力が提供される相手方たる貨物の量によつて測定されるものと解すべきである』。『私は卵十二個を買はうとする』といふ叙述と『私は卵一志を買はうとする』といふ叙述との間には大差がある。併し『私は一個一片ならば十二個ゞ買はうが、一個一片半ならば六個だけ買はうとする』といふ叙述と『私は一個一片ならば卵に一志を費すが、一個一片半ならば九片を費さうとする』といふ叙述との間には何等實質的差異はない。併しケアンズの説明は之を完全ならしめれば實實上ミルの説明と同じになり、その在りの儘の形式ではなほ更ら誤謬に導き易い。

（著者の論文 Mill's Theory of Value, Fortnightly Review, April 1876 を見よ）。

需要增加といふ用語の意味

「吾々が或る物に對する一個人の需要が增加すると言ふ場合には、彼が同一價格に於ては以前よりも多くその物を買ふであらうこと、及び價格騰貴の場合にはその物を以前と同量だけ買ふであらうことを意味する。」彼の需要の一般增加はその物の大小各量の購入高に對して彼が支拂はんと欲する諸價格を表す表の全體を通じての增加であつて、單に現行諸價格に於てその物を多く買はんと欲すると言ふに止まらぬのである(8)。

(8) 時には之を彼の需要表の引上げと言ふのが便利であることもあらう。幾何學的には彼の需要曲線を高めて之を表す。或は同じ結果となるが同曲線を右に動かすのである。但し多少その形狀を變形することゝならう。

五　市場の需要。需要法則。

多數人の集合體卽ち市場の需要に移る

以上は單獨個人の需要のみを論じた。茶の如き物の特定の場合には、單獨人の需要は市場全體の一般需要を相應よく代表するものである。蓋し茶の需要は恒常的であり又茶は少量づゝ購入し得るものであつて、茶の價格の各變動は

若干の物に

對する個人の需要は非連續的である

彼の購入高を左右し勝ちだからである。併し恒常使用品の中にさへ、單獨個人の需要は價格の一々の小變動に伴つて連續的に變動し得ずしてたゞ大飛躍によつて變動し得るのみなるものが少なくない。例へば帽子或は懷中時計の價格の僅かな低落は各人の行爲を左右せぬであらう。併し帽子或は懷中時計を新たに求めやうか否かに迷つてゐた少數者をして之が購入を決せしめるに至るであらう。

多くの部類の物の場合には、個人にとつてのその物の必要は中斷的・發作的・不規則的である。結婚式の菓子或は專問外科醫の奉仕に對しては個人需要價格表はあり得ない。併し經濟學者は個人の生活に於ける特殊附帶事項に係ること殆んどない。寧ろ行爲の動機が貨幣價格によつて測定し得る限りに於て『或る條件の下に一產業集合體の體員から期待してい丶行爲方向』を研究するのであつて、これらの廣汎な結果に於ては個人行爲の多樣性・不定性は消滅し多數人の行爲の比較的規則的な總和となつて現れるのである。

併し多數人

然らば大市場―貧富・老弱・男女、一切種類の趣味・氣質・職業の人々が共に混在する場所―に於ては個人の欲望に現れる特異性は互に相殺して、比較的規則的な全部需要の段階となるであらう。一般使用貨物の價格の一々の低落は例へ如何に微かな低落でも、他の事情等しい限り、その貨物の全部販賣高を增加するであらう。恰かも秋の氣候が不健康なときは、之によつて健康を害せぬ人も多いには違ひないが、なほ一大都市の死亡率が增加する如くである。從つて若し吾々が所要の知識を有するならば、一の價格表を作成して、一定の場所に於て一年間(假りに)に該貨物の大小各量が買手に買取られる際のそれぞれの價格を示し得べきである。

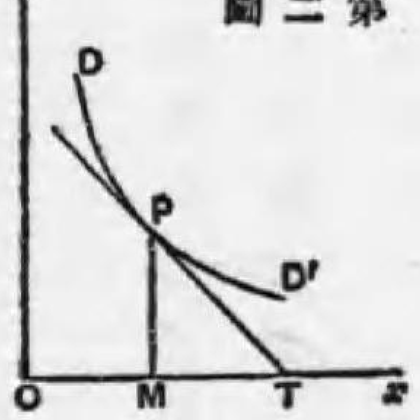
の總體需要は量の增加する每に需要價格の低落を示す

その場所に於ける茶(例りに)に對する全部需要 total demand はその場所に於ける一切個人の需要の合計である。その個人中には右に述べたやうな需要を有する個人消費者よりも富める者もあり貧しい者もあり、茶に對する嗜好も右の個人よりは强い者もあり弱い者もあらう。今右の場所に茶の購入者百萬人ありとし、彼等の平均消費高は各價格に於て右個人の消費高に等しいと假定する。すればその場所に於ける需要は前と同じ價格表によつて表される。たゞ一封

度と書かずして百萬封度と書けばいゝ(9)。

(9) 需要は前と同じ曲線によつて表される。たゞOx上に測定する一吋はこの場合には十封度を表さずして百萬封度を表すのみである。よつて一市場についての需要曲線の形式的定義は次のやうに與へていゝ―一定時間單位內の一市場に於ける或る貨物についての需要曲線はこの貨物についての需要點の軌跡である。即ちそれは次のやうな曲線である。即ちその曲線上の任意の點Pから Ox に垂直に直線PMを引けばPMはOMの表す貨物量が買取られる際の價格を表すのである。

第二圖



需要法則

然らば一の普遍的需要法則 law of demand がある―賣らるべき量が大なれば大なる程この量の買手を求めるために附ける價格は愈々低落せねばならぬ。或は言ひ換へれば需要量は價格の低落に伴つて增加し價格の騰貴に伴つて減少する。價格低落と需要增加との間には一樣の關係は存せぬであらう。價格の十分の一の低落は販賣量を二十分の一增加し、或は四分の一增加し、或は二倍せしめるかも知れぬ。併し需要表の上欄の數字が增大すると共に下欄は常に減少するであらう(10)。

(10) 即ち若し一點がOyから遠ざかつて曲線上を動けばその點は絕えずOxに接近するであらう。從つて若し直線PTを引いてPに於て曲線に接せしめTに於てOxに交らしめれば角PTxは鈍角である。この事實を簡潔に言ひ表す途があれば便利であらう。それはPTは負にnegatively傾くと言へばいゝのである。即ち需要曲線が從ふ一普遍的原則は、需要曲線がその全長を通じて負に傾くといふことである。

その價格は各購入者にとつての該貨物の限界利用を個人的に測定するであらう。吾々は價格が限界利用一般を測定するものとは言ひ得ない。何となれば人々の欲望・境遇は一樣でないからである。

競爭貨物の發達が需要に及ぼす影響

六 競爭貨物の需要。

前掲需要表中の需要價格は一定時期・一定條件の下に於ける一市場に於て一物の大小各量を賣り得る際の價格である。若しこの條件が何れかの點に於て變化するならば、この價格も亦た恐らく變更を要するであらう。慣習の變遷により或は競爭貨物の安價な供給により或は新貨物の發明によつて或る物に對する願望が著しく變化した場合には、絕えずこの價格を變更すべきである。例

へば茶の需要價格表は珈琲の價格を既知とするとの假定の下に作られるものであるが、珈琲の不作は茶の價格を高めるであらう。瓦斯の需要は電燈の改良によつて減少し易い。同様に特定種の茶の價格が低落すればこの種類はそれよりも下等・安價な種類に代用されるに至るかも知れぬ(11)。

(11) 一切の茶の價格の同時的・比例的低落が茶の若干特定種の需要を減少せしめるとも―有り得べからざることであるが―考へ得ないではない。若し茶の價格が低落したため上等茶をこの種類に代用する人の數が、この種類をそれよりなほ下等の茶に代用する人の數よりも多ければ即ち右の結果が生ずる。各種貨物の間の分界線を何處に引くべきかの問題は、特定論究上の便宜によつて決せねばならぬ。目的によつては支那茶・印度茶或は更に小種・白毫迄も別種の貨物と見て、これらの一々について各別の需要價格表を作るを最善とすることもある。他方或る目的のためには牛肉・羊肉或は茶珈琲の如く明かに別種をなす貨物迄も同類中に合併して、この二種を合せたものに對する需要を表す單一の表を作るに如かぬ場合もある。併しかゝる場合には勿論茶何オンスをもつて珈琲一封度に當るものとすべきかについて何等かの約束を設けねばならぬ。

更に一貨物は同時に數用途のために需要されることがある(例へば靴及び旅行鞄の製造のために革に對する『合成需要』composite demandがあることがある)。又甲物に對する需要は乙物の供給がありこの乙がなければ甲は大なる效果を持たぬといふ條件附きのこともある(即ち原棉と綿絲紡績工の勞働とに對する『結合需要』joint demandがあることがある)。更に單に轉賣の目的を有する商人の一貨物に對する需要は、背後にある終極消費者の需要に支配されるものであるが、なほ獨特の若干特異性を持つ。併し總てこれらの點は後に論究することゝする。

次章と前章との關係

次に進んで考察すべきは、若干の重要な直接消費貨物の場合に於ける需要の一般性質である。之によつて吾々は欲望の多様性と飽滿性とに關する前章の研究を續行することゝなるであらう。併し吾々は之を少しく違つた視點即ち價格統計の視點から取扱ふことゝなるであらう(12)。

(12) 現在に於て經濟思索の様式に一大變化を來した事情は二つである。一つは半數學的用語の一般的採用であつて、之は一方一貨物の小增量と他方之が對價として支拂はれる總體價格の小增量との間の關係を表すに用ひられる。他の一つはこれらの小價格增量をもつて之に對應する小快樂增量を測定するものとして形式的に記述するに至つたことである。前者に―而かも後者に於けるよりも遙かに重要な―一歩を進めたのはクールノー Cournot, Recherches sur les Principes Mathématiques de la Théorie des Richesses, 1838. であり、後者に一歩を進めたのはデュプュイ Dupuit, De la Mesure d'utilité des travaux publics (Annales des Ponts et Chaussées, 1844)及びゴッセン Gossen, Entwickelung der Gesetze

des menschlichen Verkehrs, 1854. であつた。併し彼等の業績は忘却されてゐた。ジェヴンス Jevons とカール・メンガー Carl Menger とは一八七一年殆んど同時に、ワルラス Walras は少しく後れて、その一部を初めからやりなほし開展して發表した。ジェヴンスはその輝かしい明快さと興味ある表現樣式とによつて殆んど一擧にして學界の注目を集めた。彼は最終利用 final utility といふ新名稱を誠に巧妙に使用したから、全然數理科學を知らない者も因果的に相互關聯して徐々に變化しつゝある二物の小增量の間の一般關係について明白な觀念を得ることが出來た。彼の誤謬さへも彼の成功を助成した。蓋し彼はリカード及びその追隨者が欲望飽滿法則を力說しなかつたために彼等の價値決定原因論は絕望的に誤つてゐると端的に信じて疑はなかつたから、多數の人はジェヴンスが重大な誤謬を訂正しつゝあるものと思ふに至つたが、實は彼は單に極めて重要な說明を追加しつゝあつたに過ぎないからである。彼が次の事實を主張したのはその優秀な業績である。その事實とは一市場に於て需要される一物の量の減少は、個人消費者の欲望が飽滿の域に達してこの物に對する願望の强度の減少せるを示すものであるとの事實である。この事實はジェヴンス以前の學者はクールノーでさへも係りに明白で明言の要なしと考へてゐた事實ではあるが、決して重要でない事實ではない。併しジェヴンスは彼の愛用句の適用を誇張し、何等の制約を加へずに、一物の價格は個人にとつてのその物の最終利用を測定するのみならず——之は測定し得る——なほ「交易團體」trading body にとつてのその物の最終利用をも測定し得る——之は測定し得ない——と言つたため(Theory, 2nd Edn. p. 105.)彼の讀者の多くは快樂學 Hedonics の領域と經濟學の領域とを混同するに至つた。これらの點は後にリカードの價値理論に關する第九附錄中に開展してある。なほ附記すべきは、ロイド W. F. Lloyd 教授の一八三三年オクスフォードに於ける講義は永く人に忘れられてゐたが、現時の利用學說の中心觀念の多くに先鞭を着けてゐたのをセリグマン Seligman (Economic Journal, 1903, pp. 356—363.) が明かにしたことである。

クールノーの『研究』Researches のベーコン Bacon 譯には附錄としてフィッシァー Fisher 教授の作成した優秀な數理經濟學書目がある。古い數理經濟學書並びにエヂウォース Edgeworth パレート Pareto ウィックスティード Wicksteed アウスピッツ Auspitz 及びリーベン Lieben その他の學者の著作の詳細についてはこの書目を參照ありたい。パンタレオーニの『純粹經濟學』Pantaleoni, Pure Economics には幾多の優れた點があるが、中にもゴッセンの推理を初めて一般に近づき易からしめる功がある。ゴッセンの推理はやゝ抽象的であるが非常に獨創的で力强い。

第四章　欲望の彈力性

一　需要の彈力性の定義。

既に明かにした通り、一貨物に對する一個人の願望についての唯一の普遍的法則は、他の事情等しい限り、この願望が彼の該貨物保有量の增加する毎に遞減するといふ法則である。併しこの遞減は遲い場合もあり速かな場合もある。その遲い場合には、彼の貨物保有量が著しく增加しても、その結果として彼がその貨物の對價として支拂はんとする價格は餘り低落せぬであらうし、價格の僅かな低落も彼の購入高の比較的大なる增加を來すであらう。之に反してその速かな場合には價格の僅かな低落は彼の購入高をたゞ僅かに增加せしめるのみであらう。前の場合には彼の貨物購入欲は僅かな誘因の作用によつて著しく伸長する。之を稱して彼の欲望の彈力性は大であると言ふ。後の場合には價格低落による新たな誘因も彼の購入願望を殆んど伸長しない。彼の需要の彈力性は小である。若し茶一封度の價格が(假りに)十六片から十五片に低落する場合に彼の購入高が大いに增加するとすれば、價格が十五片から十六片に騰貴する場合には彼の購入高は大いに減少するであらう。即ち價格低落の場合に需要が彈力的であれば騰貴の場合にも亦た彈力的である。

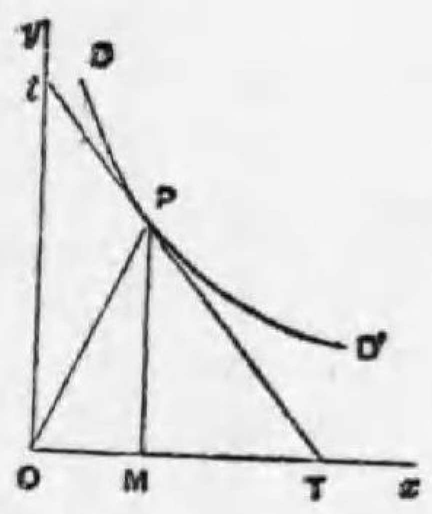
需要の彈力性の定義

一個人の需要に於て然る如く一市場全體に於ても亦た然りである。よつて一般的に次のやうに言つてい〻―一市場に於ける需要の彈力性(感應性)elasticity (or responsiveness) of demand は、價格の一定低落の場合に需要量が大いに增加するか僅かに增加するか、又價格の一定騰貴の場合に需要量が大いに減少するか僅かに減少するかによつて、或は大であり或は小である(1)。

(1) 價格の小低落が需要量の比例的同等增加を來す場合には需要の彈力性は一であると言つてい〻。或は粗雜に言つて、價格の一パーセントの低落が販賣高を一パーセント增加せしめる場合には、需要の彈力性は一であると言つてい〻。又價格の一パーセントの低落が需要量を二パーセント或は二分の一パーセント增加せしめる場合には需要の彈力性は二或は二分の一であると言つてい〻。以下之に準ずる。(この敍述は粗雜である。何となれば九八の一〇〇に對する比例は一〇〇の一〇二

に對する比例と精密に同じでないからである）需要の彈力性は左記方式の助けを借り需要曲線をもつて檢すれば最も明白である。任意の點Pに於て該曲線に接する直線を引きTに於てOxに、tに於てOyに交らしめる。すれば任意の點Pに於ける彈力性の測度はPTのPtに對する比率である。

第三圖



若しPTがPtの二倍ならば價格の一パーセントの低落は需要量を二パーセント增加せしめ、需要の彈力性は二となるであらう。若しPTがPtの三分の一ならば價格の一パーセントの低落は需要量を三分の一パーセント增加せしめ、需要の彈力性は三分の一となるであらう。以下之に準ずる。別の方法を用ひても同一の結果に到達する——即ちP點に於ける彈力性はPTのPtに對する比率即ちMTのMOに對する比率によつて測定される（PMはOMに垂直に引いたのである）。從つて角TPMが角OPMに等しい場合には彈力性は一に等しく、角TPMが角OPMに比して相對的に增大すれば彈力性は常に增大する。反對の場合は之に準ずる。數學附錄註解三を見よ。

二　富者にとつて相對的に低廉な價格も貧民にとつては相對的に高いことがある。

需要の彈力性の差異に關する一般法則及びその結果として需要の彈力性が價格の變動に對する感應性

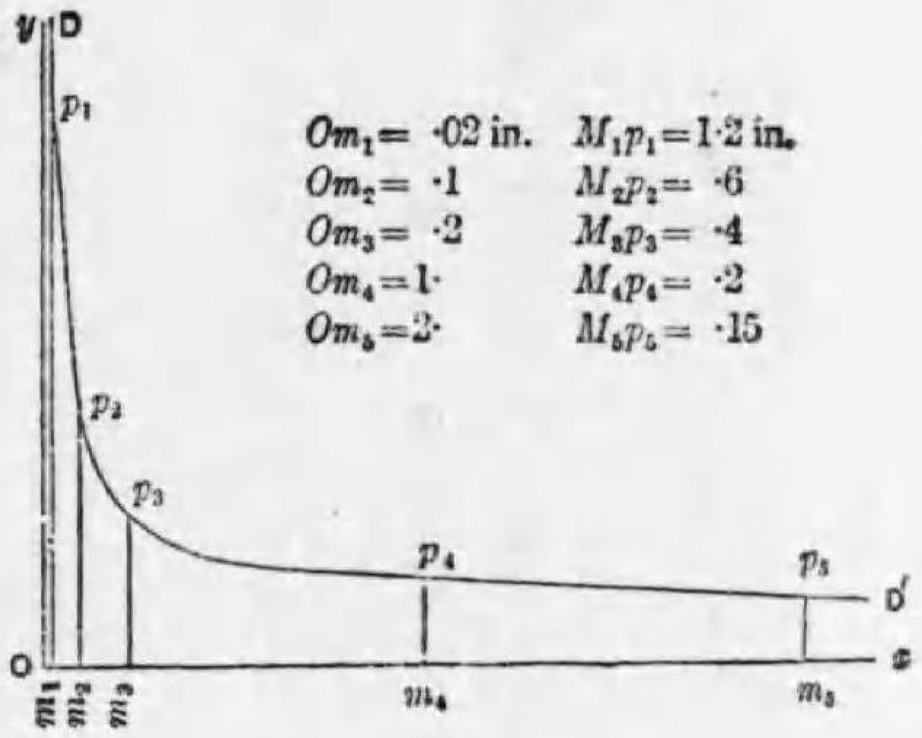
貧民にとつては相對的に非常に高くて殆んど禁止的價格たらんとする價格も、富者は殆んど意に介せぬことがある。例へば貧民は決して葡萄酒を味ふことがないが、大富豪はその費用を少しも考へず思ふに任せて飲用することがある。從つて一回に一社會階級を考察すれば、需要の彈力性の法則について最も明白な觀念を得るであらう。勿論富者の富裕の度にも貧民の貧困の度にも多くの程度はあるが、今暫くこれらの細別は問はずともいゝ。

一物の價格が何れかの階級にとつて相對的に非常に高い場合にはその階級はその物の極く少量を購入するのみであり或る場合にはその價格が著しく低落した後に於てさへ慣習・習性がその自由使用を妨げることがあらう。その物は依然として特殊少數の場合のため、或は重患用その他のために特殊扱を受けることがある。併しかゝる場合は必ずしも稀でないには違ひないが、一般原則をなすものではない。兎も角その物が常用品となるや否やその價格の著しい低落はその需要の大增加を來すのである。需要の彈力性は價格の高い場合には大であつて價格が中位の場合には大或は少なくも著しい。併し價格の低落

と共に彈力性は減少し、その低落が續いて遂に飽滿水準に達すると共に漸次消滅する。

この原則は殆んど一切の貨物について又凡ゆる階級の需要について妥當する。たゞ如何なる水準をもつて高い價格の極點とし低い價格の起點とするかは階級の異なるに從つて同じくない。同樣に如何なる水準をもつて低い價格の極點とし極めて低い價格の起點とするかも亦たさうである。さりながら微細點には多くの不同がある。この不同は主として、容易に人を飽滿せしめる貨物と殆んど無限に欲求される貨物—主として外見用の物—とがある事實から來る。後者の場合には價格が如何に低落しても需要の彈力性は依然著しく、之に對して前者の場合には一旦低廉な價格に達すれば、直ちに需要は殆んど全く彈力性を失つて了ふ(2)。

(2) 一都市の一切野菜類が一市場に於て賣買されるとして、この都市の(假りに)青豌豆の需要の場合をもつて例解しやう。先づ季節の初期では恐らく一日百封度が市場に入つて來て一封度一志で賣られるであらう。その後は五百封度入つて來て一封度六片で賣られ、更に後には四片で千封度となり更に後には二片で五千封度、更に後には一片半で一萬封度となるであらう。即ち需要は第四圖に表れてゐる。Ox上の一吋は五千封度を表しOy上の一吋は十片を表す。すれば前に示した通りに見出したP_1 P_2…P_5を通過する曲線は全部需要曲線 total demand curve であらう。併しこの全部需要は富者・中產階級・貧民の需要から成つてゐるであらう。彼等が別々に需要する量は恐らく左の表によつて表されるであらう—

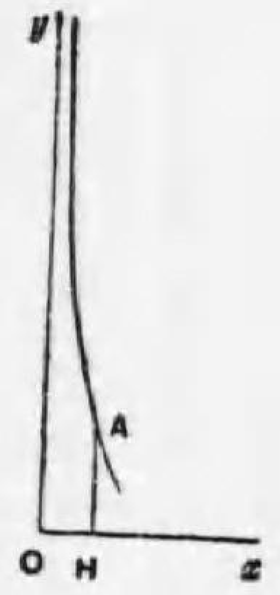


第四圖

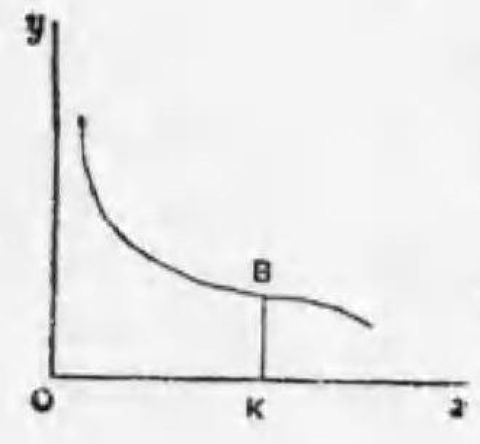
一封度の價格	買入封度數			
	富者	中產階級	貧民	全部
一二片	一〇〇	〇	〇	一〇〇
六	三〇〇	二〇〇	〇	五〇〇
四	五〇〇	四〇〇	一〇〇	一、〇〇〇
二	八〇〇	二、五〇〇	一、七〇〇	五、〇〇〇
一・五	一、〇〇〇	四、〇〇〇	五、〇〇〇	一〇、〇〇〇

これらの表を第五圖・第六圖・第七圖の諸曲線に轉形すると、第四圖と同一の目盛りによつて富者・中産階級・貧民の需要を示す。

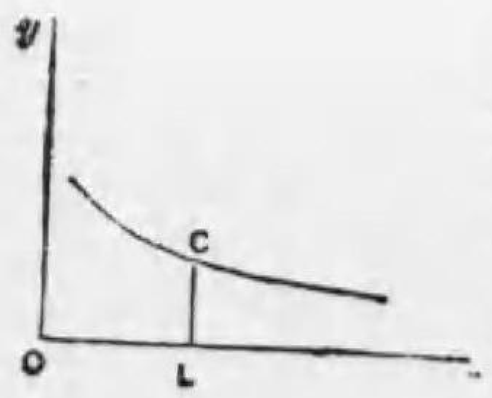
第五圖



第六圖



第七圖



即ち例へばAH BK CLは各々二片の價格を表し長さ〇・二吋である。OH=・16吋で八百封度を表し、OK=.5で二千五百封度を表し、OL=.34吋で千七百封度を表す。他方OH+OK+OL=1吋即ち=Cm（第四圖）であつて當然かくあるべきである。同一の目盛りによる數多の部分需要曲線を相互水平に重ねれば、部分需要の總體を表す全部需要曲線を求め得るのであつて、右はその方法の一例としていゝ。

三

特定貨物の需要をもつて例解する

英國に於ては若干の物の現行價格が貧民階級にとつてさへ相對的に非常に低い場合がある。例へば食鹽、幾多の種類の香味料及び安價藥品の如きである。これらの物の價格低落がその消費の著しい增加を來すや否やは疑問である。

肉類・牛乳及びバタ・羊毛・煙草・輸入果物及び普通醫療の現行價格の狀態に於ては、價格の各變動は勞働階級及び中產階級下半の消費高に大變化を來す。之に反し富者はこれらの價格が如何に低落しても自身の個人的消費高を餘り增加せぬであらう。言ひ換へればこれら貨物に對する直接需要 direct demand は富者階級に在つては彈力的ではないが、勞働階級及び下級中產階級に在つては非常に彈力的である。併し勞働階級は甚だ多數であつて彼等の力に及ぶ消費高は富者の消費高に比して著しく大である。從つてこの種の一切物に對する總體需要は非常に彈力的である。少し以前迄砂糖はこの部類の貨物に屬してゐたが、英蘭に於けるその價格は今日著しく低落して勞働階級にとつても相對的に低廉なるに至り、從つて之に對する需要は彈力的でない(3)。

(3) さりながらこゝに記憶せねばならぬことがある。それは或る貨物に對する需要

表の性質はその競爭品の價格を固定的と見るか變動的と見るかによる所大なることである。若し牛肉の需要を羊肉の需要から引離し、牛肉價格が引上げられても羊肉價格は固定的であると假定すれば牛肉需要は極度に彈力的となるであらう。蓋し牛肉價格が少しでも低落すれば牛肉は羊肉代用品として大いに用ひられるに至り、之がためその消費高は非常に增加し、他面に於て牛肉價格が少しでも騰貴すれば多くの人は殆んど牛肉の使用を全廢して羊肉を食用とするからである。併し一切種類の獸肉全體に對する需要表は中位の彈力性を示すに過ぎない。但しその價格の相互の關係は常に略ぼ同じであるとし、又その價格は現在の英國に普通の價格と大差なしと假定する。甜菜根と甘蔗糖とに於ても同樣の言が當嵌まる。二〇八頁註(11)原著一〇〇頁脚註(第三編第三章六)參照。

塀果[ウオール・フルート]、上等魚類その他中位の高價奢侈品の現行價格に於てはその價格の一々の低落は中產階級のこれらの物の消費高を著しく增加する狀態にある。言ひ換へればこれらに對する中產階級の需要は非常に彈力的である。之に對して富者及び貧民階級の需要は之よりも著しく彈力性が弱い。前者に於ては需要は既に飽滿に近いからであり、後者に於ては價格はなほ餘りに高いからである。珍奇の葡萄酒、季節外の果物、高度の熟練ある醫療及び法律的助力の如きものゝ現行價格は甚だ高くて富者から來る需要の外には殆んど需要がない。併し需要があればその需要は往々著しい彈力性を持つ。高價な種類の食料品の需要の一部は、實質的には社會的卓越の手段に對する需要であつて殆んど飽滿不可能である(4)。

(4) 上記第二章一を見よ。例へば一八九四年四月、季節の走りであつた千鳥[プラヴァー]の卵六個は倫敦に於て一個十志六片で販賣された。その翌日には卵の數も增加して價格は五志に低落し、その翌日には一個三志に低落し、一週間後には四片に低落した。

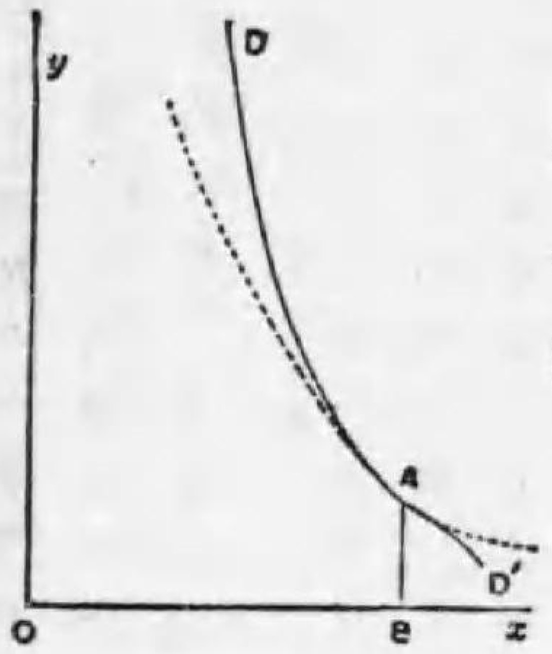
四　彈力性を左右する一般原因。

必要品の需要

必要品の場合は例外である。小麥價格が非常に高い場合、更にその非常に低い場合に於ては需要は殆んど彈力性を持たない。兎も角小麥がその稀少な場合に於てさへ最も安價な人間食物であるとし、又その最も潤澤な場合に於てさへ食用以外には消費されないと假定すればさうである。吾々の知る通り、四英斤のパン一個の價格が六片から四片に低落しても、パンの消費を增加せしめる

效果は殆んどない。その反對の場合については確言することと一層困難である。「何となれば穀物條例撤廢以來、英蘭に於ては小麥が稀少の域に近づいたことがないからである」。併し餘り幸福でなかつた時の經驗によつて見ると、十分の一・二・三・四或は五の供給不足は、それぞれ十分の三・八・十六・二十八或は四十五の價格騰貴を來すものと推定してゐる(5)。元よりこれ以上の價格激變は決して珍しくなかつた。卽ち倫敦に於ける小麥價格は一三三五年には一ブッシェル十志であつたが翌年には十片であつた(6)。

第八圖



(5) 右の評定は通常グレゴリー・キングGregory Kingの評定とされてゐる。この評定と需要法則との關係について名論を爲したのはローダーデール卿Lord Lauderdale, Inquiry, pp. 51―3.である。第八圖の曲線DD′は之を表はしてゐる。A點は通常價格に該當する。小麥價格が非常に低廉な場合には、例へば一八三四年に於けるが如く、小麥は牛・羊・豚の飼料及び醸造用として用ひられることがある。若しこの事實を考慮に入れるとすれば、右曲線の下部は上圖の點線のやうな形をとるであらう。若し又價格が非常に高い場合に安價な代用品を用ひ得ると假定すれば、曲線の上方は上部點線に似た形をとるであらう。

(6)『クロニコン・プレチヲスム(西暦一七四五年)Chronicon Preciosum (A. D. 1745)に言ふ所によれば、倫敦の小麥價格は一三三六年には低廉で一クォーター二志であり、又レスターLeicesterでは或る土曜日に四十志で販賣され次の金曜日には十四志で販賣された。

一部分必要品として消費される貨物

必要品に非ざる物が滅失性を有し且つその需要が非彈力的な場合にはその價格變動は右の場合よりも更に一層激烈なことがある。卽ち魚類は或る日には非常に高價に販賣され、二三日後には肥料用に販賣されることがある。

最高の價格から全然無價格に至る一切の價格について消費を觀察し得るといふ物は少數であるが、水はその一である。中位の價格に於ては水の需要は非常に彈力的である。併し水を用ひ得る諸用途は完全に滿すことが出來、その價格が零に近づくに從つてその需要は彈力性を失ふ。食鹽についても殆んど同じことが言へる。英蘭に於ける食鹽價格は非常に安く、一食料品としての食鹽に對する需要は非常に非彈力的である。併し印度に於けるその價格は比較的高く需要は比較的彈力的である。

他面に於て住居の價格は住民が或る地方から撤去した場合の外非常に低落

したことはない。社會狀態が健全で一般繁榮に何等の障害がない場所に於ては、住居の需要は彈力的である。之は住居が實質的便宜と社會的卓越との兩者を供するからである。外見用として用ひられない種類の衣服に對する願望は飽滿可能である。その價格が低廉な場合には之に對する需要は殆んど彈力性を持たない。

受感性と後天的嗜好嫌惡との影響

品質高級な物の需要は著しく受感性に左右される。一部の人は葡萄酒の多量を得ることさへ出來ればその淸い香氣は殆んど意に介せぬ。一部の人は高級の品質を望むが容易に飽滿して了ふ。通常勞働階級區域に於ては上等大肉片(ジョイント)も下等大肉片も殆んど同一價格で販賣されてゐる。併し英蘭北部の一部高級技術工は最上肉を好むやうになり、略ぼ倫敦西端(ウエストエンド)に於けると同じ高い價格を拂ふであらう。倫敦西端と言へば、下等大肉片を他區域に出す必要上價格が人爲的に高く釣上げられてゐる區域である。使用も亦た後天的嗜好を生ずると同じく後天的嫌惡をも生ずる。書物の挿畫は多くの讀者をこの書に引付けるが、良書に慣れてかゝる挿畫を好まぬ讀者を反撥するであらう。高級な音樂的受感性を持つ人は大都市に於ては劣等な演奏を避けるであらう。たゞ彼が小都市に住む場合にはこの劣等の演奏にも喜んで行くかも知れぬ。何となれば小都市に於ては優良の演奏の費用を償ふに要する高價を支拂はんと欲する人が十分ないからである。一流の音樂に對する實效需要は大都市に於てのみ彈力的であり、二流の音樂に對しては大小何れの都市に於ても彈力的である。

用途多樣性の影響

一般的に言へば幾多の異なる用途を有する物は最も彈力的な需要を持つ。例へば水は先づ飮用として必要であり、次には料理用として、次には各種洗濯用その他に必要である。格別の旱魃がなくて水を桶賣りする場合には、價格は低廉であつて貧民階級と雖も欲するに任せて何程でも飮用し得る。他方彼等は料理用としては極く僅かを用ふる。中產階級は恐らく料理用に同じ水を二度使用することはあるまい。併し一桶の水を洗濯の目的に用ふるには、無限に水の供給を受け得る場合よりも遙かに之を節用するであらう。水が水道管で供給され之に對しメートル制による非常に低率の料金が課せられる場合には、多くの人々は洗濯用としても欲するに任せて之を使用する。又水がメートルに

よらず定額の年料金によつて供給され要所には到る處水道が敷設されてゐる場合には、水は一切目的のために完全に飽滿限度迄使用される(7)。

(7) 即ち富の程度に差ある人々の集合體が單一用途を有する一貨物に對して有する需要は、その集合體各員の需要の總和である。同樣に水の如き物に對する或る一人の一般需要は、水の各用途に對する彼の需要の總和(或は合成 compound 第五編第六章三を見よ)である。更に豌豆に對する富者の需要は非常の高價に於てさへ著しいが、貧者が消費するには未だ相對的に高いといふ價格に至つても全く彈力性を失つて了ふ。同樣に飲用水に對する個人需要は非常の高價に於てさへ著しいが、邸宅掃除用に之を需要するには未だ相對的に高いといふ價格に至つても全く彈力性を失つて了ふ。又豌豆に對する各種階級の多數需要の總和は或る一個人の需要の場合よりも廣い價格變動範圍に亘つて彈力性を保有する。同樣に水に對する個人需要も多數用途のための需要は或る一用途のための個人需要よりも廣い價格變動範圍に亘つて彈力性を保有する。クラークの論文 J. B. Clark, A Universal Law of Economic Variation (Harvard Journal of Economics, Vol. VIII.)參照。

非彈力的需要

他面に於て、需要は一般的に言へば第一、絕對必要品(慣例必要品・能率必要品と區別して)の場合、第二、富者の奢侈品中、彼等の所得を多額に奪ひ去らぬ物の場合に非常に非彈力的である。

五　時といふ要素に關聯する困難。

統計的研究の困難、時といふ要素

以上吾々は精密な需要價格表を求め之を正しく解釋する困難を少しも考慮しなかつた。吾々が第一に考察せねばならぬ困難は、時といふ要素から來るのであつて、之は經濟學上の諸最大困難の多くのものゝ源泉である。

一貨物を如何なる價格で賣却し得るかは該貨物の販賣提供量の變化の結果として變化する。即ち一需要價格表はこの價格の變化を他の事情等しい限りに於て表すものである。然るに事實の問題としては、信據すべき詳密な統計を蒐集するに十分な長い期間に亘つて、他の事情等しいことは稀である。常に妨害的原因が起りつゝあつて、これら原因の結果は、吾々が遊離せしめんと欲する特定原因から來る結果と混在して容易に分離し得ない。之に加へて經濟學上に於ては一原因の全幅結果は、卽時に現れること稀であつて、その原因が消滅し去つた後に至る迄結果が及ぶこと往々であるから、この事實は右の困難を增大するのである。

貨幣購買力の變化

先づ初めに貨幣購買力は不斷に變化しつゝあつて、貨幣が一樣の價値を保持するものとする吾々の假定の下に得た統果は修正を必要とする。さりながら吾々は貨幣購買力の全般的變化を相當精密に確定し得るが故に、この困難は相當に克服し得るのである。

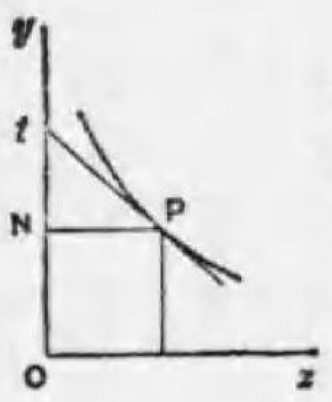
その永久的なると一時的なると

次に一般繁榮及び社會共同體全般の有する全部購買力の變化がある。これら變化の影響は重大であるが、恐らく一般に想像されてゐる程ではない。蓋し繁榮の波動が下降しつゝある場合には價格は低落し、この低落は企業利潤によつて所得を得る者を犧牲として定額所得者の資力を裕かにするからである。繁榮の下降的變動は通俗には殆んど全くこの前者の階級の蒙る顯著な損害のみによつて測定されてゐる。併し茶・砂糖・バタ・羊毛その他の如き貨物の全部消費高統計の證する所によれば、社會の全部購買力はその間に餘り速かには減少しないのである。さは言へ低減することはするのであるから、能ふ限り多くの物の價格と消費高とを比較し之によつて右の減少のために する斟酌の度を確定せねばならぬ。

次に人口及び富の漸次的發達に基く變化がある。之に對しては事實を知つてさへゐれば容易に數字的修正を加へ得る(8)。

(8) 一統計表が長年月に亘つて一貨物消費高の漸次的增加を示す場合には、吾々は異年度增加割合の比較を欲することがある。この比較は少し練習すれば可成り容易に出來る。併しその數字が統計圖の形式で表されてゐる場合には、その圖を更に逆に數字に改めなければこの比較は容易に出來ない。多くの統計學者が圖形的方法を好まぬ一原因は玆にある。併し單純な一方式を知りさへすれば少なくもこの點に關しては長所・短所が逆轉して圖形的方法に有利となる。その方式は次の如くである―消費された貨物(或は行はれた取引或は徵收された租稅)の高を第九圖のOxに平行な水平線によつて測定し、他方之に該應する年數を通例の如くOy上に順次下方へ同間隔にて表す。任意の點Pに於ける增加率を測定するため定規を當て、Pに於て曲線に接せしめる。之をtに於てOyに交らしめ、Nをもつて Pと同じ垂直的高さにあるOy上の點とする。すれば距離Ntが Oy上に割する年數は、右の高の年々の增加を示す分數の逆數である。即ちNtが二十年ならばこの高の增加率は年二十分の一即ち五パーセントである。Ntが二十五年ならば增加率は年二十五分の一即ち四パーセントである。以下之に準ずる。著者が Journal of the London Statistical

第九圖



Society, June 1885 (Jubilee number) に掲載した論文を見よ。なほ數學附錄註解四を見よ。

嗜性の漸次的變化及び新物品とその新用法との親しみの漸次的變化

六　流行の變化。

次に流行・嗜好習性の變化を斟酌せねばならず(9)又一貨物の新用法の發生、之と同一用途に用ひ得る他物の發見或は改良或は價格低落を斟酌せねばならぬ。これら總ての場合に於て、經濟原因とその結果との間に經過する時を斟酌するは非常に困難である。蓋し一貨物の價格騰貴が消費の上にその全幅の影響を現し得るには時を要するからである。消費者が之に代へて用ひ得る代用品に親しむに至るにも時を要し、生産者がその十分の分量を生産する習性を得るにも恐らく時を要する。なほ新貨物に親しむ習性の發達にも、之を節約する方法の發見にも亦た時を要することがある。

(9) 流行の影響の例解についてはフォリー Foley 孃の Economic Journal, Vol. III 誌上の論文及びヒーザー・ビッグ Heather Bigg 孃の Nineteenth Century, Vol. XXIII 誌上の論文を見よ。

例解

例へば英蘭に於て薪及び木炭の價格が騰貴した際に、燃料としての石炭の親しみは緩慢に發達し、竈がその使用に順應したのも極く緩慢であつて、水運の便ある場所に於てさへ石炭の系統的運輸は迅速には起らなかつた。之を木炭代用品として工業上に用ひ得るための過程の發明はなほ更ら緩慢であつて、實に今なほ完成したとは言へない程である。更に近年石炭が非常に高價となつた際には石炭使用節約法の發明に多大の刺戟を與へた。殊に鐵及び蒸氣の生産に於てさうであつた。併しこれらの發明中、石炭高價時期の過ぎ去らぬ以前に多大の實際的效果を擧げたものは甚だ僅かであつた。更に新市內電車或は新郊外電車が敷設された場合には、その線の近邊に住む者さへ直ちに之を極力利用する習性を得來るものではない。その線の一端に近く營業所を有する者がその他端に近く住居を移すには之よりも非常に長い時が經過する。更に石油が初めて豐富となつた際に、直ぐ樣之を多量に用ひやうとした者は少數であつて、石油及び石油ランプは漸次に一切社會階級に親しみを持つて來たのである。從つてその時以後の石油消費高增加の原因は悉くそれ以來の價格低落のみにありとするならば、それは價格低落の影響を過重視することにならう。

需要には容易に延期し得るものと然らざるものとがある

之と同種の一困難がある。それは購入には短期間に於ては容易に延期し得ても長期に亘つては容易に延期し得ないものが多いといふ事實から起つて來る。之は衣服その他漸次に磨損し價格騰貴の壓迫の下に於ては平素よりも少しく長く使用し得る物について往々見る所である。例へば棉花饑饉の當初に於ては英蘭の棉花消費記錄高は非常に少なかつた。その理由は一には小賣商が保有高を減少したことにあるが、その主な理由は社會一般が新綿絲製品を買はずして能ふ限り永く都合してゐたことにある。さりながら一八六四年にはこれ以上持ち耐へ得ない人が多く出て來た。同年はそれ以前の諸年の何れに比しても棉花價格は遙かに高かつたにも拘らず、同年棉花國內消費記錄高は著しく增加した。然らばこの種の貨物については、突發的稀少性は供給減退に當然該應する水準に完全に達する迄卽時に價格を引上げないのである。同様に一八七三年北米合衆國商業大沈滯の後、製靴業は一般衣料業よりも早く復活するを見た。何となれば衣服・帽子の場合には好景氣時代に磨損品として投げやりにされてゐた豫備が多量に存するが、靴の場合にはかゝる豫備が左迄多くなかつたからである。

統計の不完全

七 所要の統計を得る上の困難。

右の諸問題は基本的困難であるが右の外になほ諸困難がある。これらの困難は吾々の統計報告に多少とも避け難い缺點から來るものであつて、別に深い所に原因があるのではない。

一貨物の大小各量は一連の諸價格に於て購買者を求め得るのである。吾々は能ふならば一市場に於ける一定期間內のこの一連の諸價格を求めんことを欲する。一完全市場とは大なり小なり一の地域であつて、多數買手と多數賣手とが總て鋭敏に相互の事情を注視熟知し、ために一貨物の價格は實際上常にこの地域全體に亘つて同一である。併し交易の目的をもつてせず自己消費のために買ふ者は、この市場の一々の變動に常に必ずしも注意せぬといふ事實がある。之を別にしても、なほ多くの取引に於て如何なる價格が支拂はれるかは精密に確定する途がない。更に一市場の地理的限度は、海洋或は關稅境界線によ

つて劃されてゐる場合以外殆んど明白でない。又如何なる國と雖も内地消費のための自國生産貨物の精密な統計を持つてゐないのである。

取引商保有高の増加は消費の増加と誤まられる

更に現在存する統計にさへ一般に曖昧な點が若干ある。通常これらの統計は財が取引商の手に入るや否や之を消費高に記入して示してゐる。その結果取引商保有高の増加は容易に消費の増加と區別し得ない。併しこの二者は全く違つた原因に支配される。價格騰貴は消費を阻止する傾があるが、その騰貴が繼續する見込があれば、既述の如く取引商は恐らくその保有高を増加するに至るであらう(10)。

(10) 課税の結果を檢するには租税賦課の直前と直後とに於ける消費記入高を比較する慣例である。併し之は信據し難い。蓋し取引商は租税を見越して課税の直前に多大の仕入を爲し、その以後暫くは殆んど買入を要せぬからである。租税輕減の場合にはこの反對である。更に高率の租税は報告を誤らしめる。例へば一七六六年ロッキンガム Rockingham 内閣が糖蜜課税を一ガロン六片から一片に輕減した結果、ボストンの糖蜜公稱輸入高は五十倍に増加した。併しこれは主として、一片の租税ならば密輸入を行ふよりも租税を支拂ふ方が安價であるといふ事實から來てゐる。

品質の變化

次に所論の貨物が常に同一品質を有することを保證するは困難である。乾燥した夏の後では小麥といふ小麥は例外的に品質優等であつて、次收穫年度の小麥價格は實質上然るより以上に高いかに見える。之に對して斟酌を加へるは可能である。特に乾燥カリフォルニア小麥が一標準品たる今日に於て然りである。併し多くの種類の工業品の品質の變化を適當に斟酌するは殆んど不可能である。この困難は茶の如き物の場合に於てさへ起る。近年强い印度茶が弱い支那茶に代用されたため、消費の實質的増加は統計の示す増加よりも大となつた。

八　消費統計附言。商人帳簿。消費者家計。

需要法則の歸納的研究は困難であるが商人は自己の勘定を分析して大いにこの研究を助成し得る

多くの政府は若干種の貨物に關して一般消費統計を發表してゐる。併し一には前記の理由によりこれらの統計は、價格變動と人々の購入高の變動との間の因果關係を辿るにも、或は價格變動と社會共同體の各種階級間に於ける各種消費の分配の變動との間の因果關係を辿るにも殆んど用をなさない。

これら二目的の前者卽ち價格變動の結果たる消費變動に關する法則の發見については、ジェヴンス Theory, pp. 11, 12 が小賣商人帳簿について與へた暗示を遂行すれば得る所大なる如くである。工業都市の勞働者區域に於ける小賣商人或は消費組合支配人は往々大多數の顧客の財政的地位を相應精密に確知する手段を持つてゐる。彼は操業中の工場數、その一週間の作業時間數を知り得べく、賃銀率の主要變化を悉く聞知し得る。事實に於て彼はかくするをその任としてゐる。又原則として彼の顧客はその常用品の價格の變化を探知すること迅速である。從つて往々彼は、一貨物の價格低落がその消費增加を來す場合の如く、原因が迅速に作用し且つ何等妨害原因の混在なくして單獨に作用する場合を見出すであらう。妨害原因の存する場合に於てさへ彼は往々その影響を斟酌し得るのである。例へば彼は冬が近づくに從つてバタと野菜との價格の騰貴することを知るであらう。併し寒冷な天候は人をして以前よりもバタを多く野菜を少なく欲求せしめる。從つて冬に近づいてバタと野菜との價格が共に騰貴するときは、彼は野菜については正に價格低落のみに歸すべき消費減退よりも以上の減退を豫期し、バタの場合にはそれ以下の消費減退を豫期するであらう。さりながら假りに二冬續いて彼の顧客が略ぼ同數であり彼等が略ぼ同一の賃銀率を受け、又その一年の冬に於けるバタの價格が他の一年の冬に於けるよりも著しく高かつたとする。すればこの二冬の彼の帳簿を比較すれば價格變動が消費に及ぼす影響を極めて精確に示すであらう。他の社會階級に供給する小賣商人も場合によつてはその顧客の消費に關し同樣の事實を供する地位にあるものと言はねばならぬ。

貧民の行ふ安價品の消費はその物品が非常に騰貴した場合に於て富者の消費に起り得べき變動を暗示することがある

若し社會の各部分の需要表を十分の數だけ集め得るならば、これらの表は極端な價格變動の結果たる全部需要の變動を間接に評定する手段を供し、かくて他の如何なる途によつても達し得ない目的を達するであらう。蓋し一般原則として一貨物の價格は極く狹い限度內に於て高下し、從つて價格が現實の價格の五倍或は五分の一となる場合にその消費高果して何程となるかを推測する直接手段は統計の與へてくれない所である。併し吾々はその價格が非常に高ければ、その消費が殆んど全く富者にのみ限られる事を知り、その價格が非常に低廉なればその消費の大部分は大多數の場合勞働階級に屬するを知る。然らば若し現在の價格が中產階級或は勞働階級にとつて相對的に甚だ高ければ、吾々は現在の價格に於ける彼等の需要法則から推論して、價格が非常に騰貴して富者の資力にとつてさへなほ相對的に甚だ高價となつた場合に富者の需要果して如何なるべきかを推論し得ることがある。他面に於て現在の價格が富者の資力にとつて相對的に中庸ならば吾々は富者の需要から推論して、價格が低落して勞働階級の資力にとつても相對的に中庸となる水準迄下る場合に勞働階級の需要果して如何なるべきかを推論し得ることがある。非常に差のある價格に關して精確に近い法則を求めるのは希望であるが、かゝる希望を有し得るは

他の一方法は各種階級の個人の家計を蒐集することである

たゞかくの如く斷片的需要法則を接ぎ合せる外ない。(卽ち各社會階級の一貨物についての斷片的需要曲線を接ぎ合せて一般需要曲線を得る迄は、該貨物についての一般需要曲線は現行價格の近接點以外に於ては確信をもつて引き得ないのである。本章二參照)。

直接消費貨物に對する需要を明確な法則に還約することが若干進歩するに至れば(その時に至つて初めて、併しその時に至る迄は決してさうでないが)これら直接消費貨物に依存する第二次需要―卽ち販賣品の生產に參加する技術工その他の勞働の需要及び更に機械・工場・鐵道材料その他の生產要具の需要に關しても亦た右と同樣の事を企圖するも有益であらう。醫師・召使その他消費者に對して直接に奉仕を致す一切者の作業の需要は、直接消費貨物の需要と性質類似し、その法則も同樣に硏究していゝ。

各種社會階級が如何なる割合にその支出を必要品・快適品・奢侈品の間に配分するか、又單に現在快樂のみを與へる物と肉體的・德性的强固性を增進する物との間に配分するか、又最後に低級欲望を充足する物と高級欲望を刺戟育成するものとの間に配分するかを確知するは甚だ肝要であるが同時に困難である。過去五十年間大陸に於てはこの方面に幾多の努力が行はれ、近時に至つては大陸に於てのみならず米英に於ても亦たこの題目は愈々熱心に調査されて來た(11)。

(11) 玆には偉大な統計學者エンゲル Engel が一八五七年サクソニーの下級・中產・勞働階級の消費について作成した一表だけを引用しておく。何となればこの表はその以後の諸硏究の指針となり比較の標準となつたからである。それは左の如きものである―

支出項目	家族支出の割合 一 年所得四五—六〇磅の勞働者	二 年所得九〇—一二〇磅の勞働者	三 年所得一五〇—二〇〇磅の中產階級者
一、食物のみ	六二・〇%	五五・〇%	五〇・〇%
二、衣服	一六・〇	一八・〇	一八・〇
三、住居	一二・〇	一二・〇	一二・〇
四、燈火・燃料	五・〇	五・〇	五・〇
五、敎育	二・〇	三・五	五・五
六、法律的保護	一・〇	二・〇	三・〇
七、保健	一・〇	二・〇	三・〇
八、快適・娛樂	一・〇	二・五	三・五
合計	一〇〇・〇%	一〇〇・〇%	一〇〇・〇%

勞働者家計は屢々蒐集比較されて來た。併しこの家計は同種の他の數字と同樣

不完全な點を有する。それは好意的にかゝる報告をなす勞を惜しまぬ者が平均人物に非ずといふ事實、綿密な計算を記憶する者が平均人物に非ずといふ事實、及び記憶を辿つて計算を補充せねばならぬ場合にはその記憶は貨幣を如何に使用すべかりしかの觀念によつて片寄り易いこと、殊に特別に他人に見せるために計算を立てる場合に於て然りといふ事實によつて生じて來る。家庭經濟の領域と公共經濟の領域との間にあるかゝる境界地域は、一般的抽象的思索に向つて傾向を有せぬ多數學徒が優秀な業績を擧ぐべき一地域である。

この題目に關する資料は古くハリソン Harrison ペティー Petty カンティヨン Cantillon (その紛失した附錄中には若干の勞働者家計が載せてあつたやうである)アーサー・ヤング Arthur Young マルサス Malthus その他によつて集められた。勞働者家計は十八世紀末葉イーデン Eden によつて集められた。又その後の救貧・工場その他に關する調査委員報告書中には勞働階級の支出に關する種々雜多の資料が多い。實にこの題目に關する重要資料は公共或は私的方面から殆んど年々增加しつゝある。

玆に附記したいのはル・プレーの不朽の名著『歐洲勞働者』Le Play, Les Ouvriers Européens の方法は、嚴選した少數家族の家庭生活の一切細目に關する收約的研究たることである。之を適切に行はんには、採るべき場合を取捨する判斷力と之を解釋する識見と同情とを兼備する非凡の才能を要する。その最適任者を得るときはこの方法は最も優れてゐる。併し凡庸の手で之を行へばこの方法は粗放的方法によつて得べき一般結論よりもなほ信賴し難い一般結論を暗示し易い。粗放的方法とは擴速的に無數の觀察を集め、能ふ限り之を統計の形式に還約して廣汎な平均を求め、この平均の內に不精確と特殊性とが或る程度迄互に相殺するものと信じていゝとする方法である。

第五章　一物諸用途の選擇　卽時使用と延期使用

一　一個人の資力を適宜各種欲望充足の間に配分し、各種購入の限界に於て同一價格が均等の利用を測定するやうにすること。

各種欲望充足の間に於ける個人資力の配分

原始的家婦は一年の羊毛收穫から僅か數ハンク（譯者―一ハンクは五百六十ヤード一卷）の糸を得たのを知つて、家庭に於ける衣服の欲望を悉く考慮しこの糸をこれらの欲望に配分して能ふ限り家族の福利を助長しやうとする。その配分を行つた後に若し（假りに）肌着を少なくしてもつと靴下に用ひればよかつたと悔むやうならばこの家婦は失敗したと思ふであらう。之は何を意味するかと言へば、この家婦が靴下及び肌着のそれぞれの製作を止める點を誤算したこと、家婦が肌着の場合には製作の度を過し靴下の場合には製作の度が足りなかつたこと、從つて家婦が事實上製作を止めた點に於ては靴下に化した糸の利用は肌着に化した糸の利用よりも大なりしことを意味するであらう。併し若し之に反して正に止むべき點で止めてゐるとすれば、靴下と肌着とを作る數は丁度その宜しきを得て、靴下に用ひた最後の糸束と肌着に用ひた最後の糸束とから等量の善利を得たことになるのである。右は一の一般原理を例解するのであつて、この一般原理は次のやうに言ひ表していゝ。

或る個人が數用途に充て得る一物を有するならば、彼はその物をこれら用途の間に適宜配分してその物が一切用途に於て均等の限界利用を有するやうにするであらう。蓋し若しその物が甲用途に於て乙用途に於けるよりも大なる限界利用を　するならば、彼は乙からその物の若干を取り去つて之を甲に充用するを利とするからである(1)。

(1) 元より右の例解は本來寧ろ家庭生產に屬するものであつて家庭消費に屬してゐない。併し之は殆んど避け難かつた。蓋し諸用途に用ひ得る直接消費物は極めて少ないからである。又諸用途間に於ける資力配分に關する學說の應用は、供給科學に於て重要且つ興味多いのであつて、需要科學に於ては左迄重要でなく興味も少ない。例へば第五編第三章三を見よ。

併し個人は甲物をその一切用途に對して餘りに多く乙物を餘りに少なく有することがある

自由交換の殆んどない原始經濟の一大短所は、或る個人が動もすると一物(假りに)羊毛を非常に多く持ち易く、ために之をその一切可能用途に充用する場合にその各用途に於ける限界利用が低くなることである。同時に彼は何等かの他物(假りに)木材を僅かしか有せぬことがあり、ために彼にとつてのその限界利用は甚だ高い。他方彼の隣人中の或る者は羊毛を非常に必要し、有利に用ひ得る以上に木材を有することがある。若し彼等が各々自身にとつて低い利用を有する物を與へて高い利用を有する物を受けるならば、各々交換によつて利するであらう。併し物々交換によつてかゝる調節を行ふは廻り諄く且つ困難であらう。

物々交換は部分的救濟となる

元より貨物が少數單純であり、家内作業によつてその各々を數多の用途に適應せしめ得る所に於ては物々交換の困難は左迄大でない。機を織る妻と糸を紡ぐ娘とは羊毛の諸用途の限界利用を正しく調節し、他方夫と息子とは木材について同様の調節を行ふ。

二

貨幣はその各用途に於て均等の限界利用を有するやうに配分し得る

併し貨物が非常に多數となり且つ高度に特化した場合には、貨幣卽ち一般購買力の自由使用を切迫的に必要することゝなる。蓋し無限多様の購入に容易に充用し得るは貨幣あるのみだからである。貨幣經濟 money economy に於ては、支出の各費目について支出停止の限界を適宜調節し、もつて各費目に於ける一志分の財の限界利用を均等ならしめるやうにするのが卽ち理財に長ずる所以である。各人がこの結果を得るには何れかの物に對して餘りに多くを費し過ぎてはをらぬか、從つて甲支出費目から若干を削除して之を乙支出費目に充てる方が利益ではないかを不斷に注視すればいゝであらう。

例解

卽ち例へば事務員が電車に乘つて市街に出やうか、或は徒歩して晝食に若干餘分の美味を採らうかに迷ふときには、彼は二つの異なる貨幣費消方法の(限界)利用を互に秤量しつゝあるのである。

家計計算の主なる效用

又經驗ある家政者が若夫婦に家計簿の細心の記帳の肝要なるを戒める場合に、この忠告の主要動機は衝動的に家具そ

の他の物に多額の貨幣を投ずるを避けしめんとするにある。蓋しこれらの物の若干量は眞實必要ではあるが、無駄に之を購入すればこれらの費用に比例する高い(限界)利用を與へないからである。この若夫婦が年末に至つて一年の家計を通覽して恐らく何れかの點に於てその支出を削減する必要ありと認める場合には、彼等は甲費目から一磅の支出を削除して生ずる利用の損失と、乙費目から一磅の支出を削除して生ずる利用の損失とを秤量しつゝ、各種費目の(限界)利用を比較するのである。彼等はこの削除額を適宜調節して利用の總體損失を極小ならしめ、自ら保有する利用の總體を極大ならしめやうと努めるのである(2)。

(2) 第四章八に掲げた勞働階級家計は、人々が自己の資力を賢明に諸用途に適宜配分し、もつて各目的のための限界利用を均等ならしめる上に非常に重要な稗益を與へることがある。併し家庭經濟の死活問題は賢明な費消に關すると同樣に賢明な行爲に關する。英米の主婦は一定限の資力を欲望滿足に利用すること佛國主婦に及ばぬ。その理由は英米の主婦が如何に買ふべきかを知らないからではなくて、安價な大肉片(ジョイント)・野菜類その他の原料から佛國主婦の如く優良な完成貨物を生產し得ないからである。家庭經濟は往々消費科學に屬するものと言はれてゐるが、之は半面の眞理に過ぎない。家庭經濟上の最大缺陷は、少なくもアングロ・サクソン勞働階級中の謹嚴な部分の間に於ては、消費上の缺陷に非ずして寧ろ生產上の缺陷である。

三　現在必要と未來必要との間の配分。未來福利の割引。

未來福利對現在福利の平衡

一貨物は諸用途間に配分されるが、これら諸用途は必ずしも全部現在用途たるを要せぬ。現在用途たるもあり未來用途たるもある。思慮分別ある人は自身の資力をその現在・未來の一切諸用途間に適宜配分し、もつてその資力が各用途に於て均等の限界利用を有するやうに努めるであらう。併し遠い未來の一快樂源泉の現在限界利用を評定するには二重の斟酌を加へねばならぬ。第一その不確實性(之は事情に通じた人々が總て同様に評定する客觀的屬性である)を斟酌し、第二、遠い未來の一快樂を一現在快樂に比較した價値時差(之は人がその個人的性格とその時の境遇とによつて各々異様に評定する主觀的屬性である)を斟酌する。

未來福利は種々の率をもつて『割引』される

若し人が未來福利を現在に於ける同樣の福利と等しく望ましいものと見るとすれば、彼等は恐らく全生涯を通じて一樣に快樂その他の滿足を配分しやうと努めるであらう。從つて彼等は未來快樂を確實に求め得るに於ては、一般に一現在快樂を棄てゝ之と等しい一未來快樂を採らうと欲するであらう。併し事實としては人間本性の構成上、多くの人は一未來福利の『現在價値』present value を評定するに當つてその未來價値 future value から第二の控除を爲すを一般とする。この控除は吾々の『割引』discount と呼ぶ形式で行はれ、この割引は福利の延期期間に從つて增大する。甲は遠い未來の一福利をそれが現在にあると略ぼ同じ價値をもつて計算するであらう。他方乙は將來を實感する力が甲に劣つてゐて忍耐力・克己心も弱く、手近にない福利には比較的冷淡であらう。又同一人にあつても氣分が變る。時には焦燥して現在享樂を貪り、時にはその精神は將來を思ひ便宜上待ち得る享樂は一切延期しやうと欲する。時にはその以外には何事にも冷淡のやうな氣分にあり、時にはプディングの中から梅を撮み出して直ちに口に入れる小兒の如く、時には梅を殘しておいて最後に食する者の如くである。又如何なる場合に於ても一未來福利の割引率を計算する場合には、期待の快樂を斟酌する注意を忘れてはならぬ。

耐久的享樂源泉及び所有に對する願望

人が將來を割引く率は通常解せられる言葉の意味に於ての貯蓄の傾向を左右するのみならず、なほ耐久的快樂源泉購入の傾向をも左右する。この購入とは、强烈な一時的享樂を與へる物よりも寧ろ耐久的快樂源泉たるべき物を購入することであり、一度の酒宴に耽るよりも寧ろ一著の新調服を購入することであり、或は直ちに破損し去るべき見映良き家具よりも寧ろ持ちの良い質素の家具を選ぶことである。所有の快樂が現れ來るは殊にこれらの物に關してゞある。多くの人は狹義の通常快樂から受けるよりも强い滿足を單なる所有感情から得てゐる。例へば土地所有の愉快があるため人は往々之に非常に高い價格を支拂ひ、この價格はその投資に對して極く僅かな收穫を與へるに過ぎぬことがある。所有の愉快にはそれ自體のための所有の愉快があり、又所有が與へる卓越の爲めの愉快もある。時には後者が前者より强いこともあり、時には弱いこともある。恐らく人はこの兩者の間に極く確實に分界線を引き得る程に

良く自己自身或は他人を知るものではない。

四　未來快樂の割引と將來快樂し得べき事件の割引との區別。

併し吾々は一未來福利の量を眞實に評定し得ない

既に切論した通り、吾々は、同一人にあつてさへ彼が時を異にして享樂する二つの福利の量を比較し得ない。或る人が快樂を與へる一事件を延期する場合にはその快樂を延期するのではない。一現在快樂を棄てゝその代りに別の一快樂或は將來に於て別の一快樂を得べき期待を得るのである。その場合の一切事情を知悉せぬ限り、吾々は彼がこの未來快樂をもつてその棄てんとする快樂よりも大なりと期待するか否かを言ひ得ないのである。從つて吾々は例へ彼が卽時滿足に一磅を費すといふ如く、將來快樂し得べき事件 future pleasurable events を割引く率を知るとしてさへ、なほ彼が未來快樂 future pleasure を割引く率は知るに由ないのである(3)。

(3) 快樂を分類して甲快樂が乙快樂よりも切迫的であるとするに當つて往々忘却されるる一事がある。それは快樂し得る一事件の延期が該事件の生起する際の周圍の事情を變じ、從つてその快樂自體の性質をも變ずることがあるとの一事である。例へば一靑年が財產を作つてから自己の資力でアルプス旅行を試みやうと希望する場合に、彼はこの旅行の快樂を非常な高率で割引くと言つてゐる。彼は寧ろ今之を試みんことを遙かに強く望んでゐる。その理由は一にはこの旅行が今遙かに大なる快樂を與へるからである。

實に快樂し得べき一事件の延期は或る種の財の時の上に於ける不均等の配分を來し、又この特定財の場合に限界利用遞減法則 Law of Diminution of Marginal Utility が強く作用することがあるかも知れぬ。例へば飮食の快樂は殊に切迫的であると時に言はれてをり、若し或る人が一週間中の六日間夕食を取らずして七日目に七度分の夕食を一度に取るとすれば彼が非常に多くを失ふことは疑なく眞である。何となれば六夕食を延期する場合には六度の別々の夕食を取る快樂を延期するのではなく、六度の夕食に代へて一日の過食の快樂を取るものだからである。更に或る人が雞卵を冬季用として貯藏する場合には、彼は卵が冬になつて今よりも味を增すとは期待せぬ。冬になつて卵が稀少となり從つて利用が今よりも高くなることを期待するのである。之は一未來割引の快樂と、一貨物の一定量の未來享樂から生ずる快樂の割引とを明白に區別するの重要なるを示すものである。蓋し後の場合には二つの時に於ける該貨物限界利用間の差を別々に斟酌せねばならぬが、前の場合にはそ

の快樂量を評定する際に一度限り之が斟酌してあるのであつて再び之を斟酌してはならぬからである。

未來福利割引率の人爲的測度

さりながら吾々は二個の假定を爲すことによつて、彼の未來福利割引率の人爲的測度を求め得る。その假定とは、第一、彼が將來に於ても略ぼ現在に於けると同樣の富裕の度を豫期すること、第二、彼が貨幣をもつて購入するものから福利を受ける力量は方向によつて多少の増減はあつても全體に於て不變であることこれである。これらの假定の下に於て、彼が今から一年後に（自身或は相續者の自由處分のために）一ギニー（譯者―二十一志）を確實に收め得るとして、今の支出中から一磅を割愛しやうと欲し而かも辛うじて之を欲するのみであるとする。この場合には彼は（人間死亡性の條件に從ふのみで）完全な保障ある未來福利を年五分の率をもつて割引くものと言つていゝ。又これらの假定の下に於ては、彼の未來（確定）福利割引率は彼が貨幣市場に於て貨幣を割引く率であらう(4)。

(4) これらの假定を下さなければ貨幣貸附の割引率と未來快樂割引率との間に直接關聯の存せざるを記憶することと肝要である。或る人は非常に性急で猶豫し兼ね、十年後の一快樂の確實な約束も、彼がその四分の一と見る手近な一小快樂を棄てしめないことがある。而かもなほ彼が十年後に自己の貨幣が稀少となり（從つてその限界利用が著しく高まり）十年後の半クラウンは今の一磅よりも彼に大なる快樂を與へ或は大なる苦痛を除くべきを慮るに於ては、彼は例へ死藏の已むなきに於てさへ將來のために何程かを貯蓄するであらう。冬季用として卵を貯藏すると同じ原理に基くのである。併しこの點に於ては吾々は既に需。要。よりも寧ろ供。給。に密接に關聯する問題に外れつゝある。吾々は富。の。蓄。積。に關聯し、後更に利。率。決定原因に關聯し、別個の視點から改めてこの問題を考察するであらう。

さりながら茲には如何にして一未來快樂の現在價値を數學的に測定するかを考察したい。但し（一）未來快樂の量（二）抑もこの快樂が來るものならばその來るべき時日（三）その來るべき蓋然性及び（四）問題の人の未來快樂割引率を知るとの假定の下に於てゞある。

若し一快樂の享樂さるべき蓋然性が一に對する三であつて四の機會中三回は享樂されるものとすれば、その期待の價値は之を確實なものとした場合にその有すべき價値の四分の三である。若しその享樂される蓋然性が僅かに五に對する七に過ぎなくて十二の機會中僅かに七回のみ享樂されるものとすれば、その期待の價値はその事件を確實なものとした場合にその有すべき價値の十二分の七に過ぎぬ。以下之に準ずる。〔之はその保險數學的價値 actuarial value である。併し一不確定利得の或る人にとつての眞正價値は一般にその保險數學的價値よりも少ないといふ事實

を斟酌せねばならぬであらう(第三編第六章六註(11)、原著一三五頁註、譯書二八〇頁註、譯者―原著は舊版の頁を引く)」若しその豫想快樂が不確實であつて而かも遠い將來にあるならば、吾々はその全幅價値から二重の控除を行はねばならぬ。例へば一滿足が現在にあつて而かも確實な場合には或る人はこの一滿足の對價として十志を與へるが、この滿足は一年後の滿足であるとし、この滿足が一年後に起る蓋然性は一に對する三であると推定する。なほ彼は年二十パーセントの率で將來を割引くと推定する。すればこの滿足の期待の彼にとつての價値は $\frac{3}{4} \times \frac{80}{100} \times 10s.$ 即ち六志である。ジェヴンス『理論』Jevons, Theory of Political Economy の序論の章參照。

耐久貨物の所有から期待される未來快樂

以上吾々は各快樂を單獨に考察し來つた。併し人々の購入する物の大多數は耐久的卽ち單に一回の使用によつて消費し盡されぬ物である。ピアノの如き耐久財は多少とも遠い將來に於ける幾多の快樂の蓋然的源泉である。購入者にとつてのその價値はこれら一切快樂の彼にとつての用益或は當價の總體であつて、之にこれら快樂の不確實性と遠隔性とを斟酌したものである(5)。

(5) 勿論この評定は粗雜な本能によつて行はれるのであつて、之を數學的に精確ならしめやうと企てる場合には(附錄註解五を見よ)必ず本節及び前節に述べた所を記憶せねばならぬ。卽ち同時に起らぬ快樂或はその他の滿足を正確に比較するは不可能なること、及びなほ未來快樂の割引が指數法則に從ふとの推定中には一樣性の假定を含むこととこれである。

價格と利用

第六章　價値と利用

一　價格と利用。消費者餘剩。時運。

さて轉じて、一物の對價として現實に支拂はれる價格が如何なる程度にその物の所有から生ずる福利を表すかを考察したい。之は廣汎な題目であつて、經濟科學がこの題目について言ふべきことは甚だ僅かであるが、この僅かなものがやゝ重要である。

既に明かにした通り、或る人が一物の對價として支拂ふ價格は、彼がその物を求めずにをるよりは寧ろ支拂はんと欲する價格を超過すること斷じてなく、之に達することも稀である。故に彼がその購入から受ける滿足は一般にその價格支拂のために犧牲とする滿足を超過し、かくて彼はその購入から滿足の餘剩を收める。彼がその物を求めずにをるよりは寧ろ支拂はんと欲する價格は彼が現實に支拂ふ價格に超過するが、この超過部分は卽ち右餘剩滿足 surplus satisfaction の經濟學的測度である。之を消費者餘剩 consumer's surplus と呼んでいゝ。

消費者餘剩は

貨物から生ずる消費者餘剩が貨物によつて大小の差あるは明白である。多くの快適品・奢侈品の價格は、多數の人々が全然之を求めずにをるよりは寧ろ支拂ふに如かずとする價格よりも遙かに低廉であり、從つてかゝる快適品・奢侈品は多大の消費者餘剩を與へる。その適例は燐寸・食鹽・一片(ペニー)新聞或は郵便切手である。

人がその環境或は時運から收める福利の一部である

かくの如く彼は求めずにをるよりは寧ろ高い價格を支拂つても求めたいとする物を安い價格で購入して福利を收める。この福利は彼がその機會 opportunities 或は環境 environment 或は數代前に常用された言葉を借用すれば彼の時運 conjuncture から收める福利と呼んでいゝ。本章の目的は或る人が彼の環境或は時運(1)から收める福利の一部を大凡評定するに當つて、右消費者餘剩の概念を一助として適用せんとするにある。

(1) この用語は獨逸經濟學の用語であつて、英吉利經濟學の痛切に感ずる必要に應ずる用語である。蓋し之が唯一の代用語たる『機會』と『環境』とは時にやゝ

誤解に導くからである。ワーグナー Wagner (Grundlegung, Ed. III, p. 387.)の言ふ所によれば、時運 Conjunctur とは『技術的・經濟的・社會的・法律的條件の總計を意味する。この時運は分業と私有財產—殊に土地その他の物質的生產手段たる私有財產—とに基礎をおく國民經濟 Volkswirtschaft に於て、財の需要供給に從ひその價値を決定する。この決定は原則として、或は少なくも大部分は、所有者の意思に關係ない彼の活動と不活動とに關係ない』。

る。

二　消費者餘剩と個人需要との關係。

吾々の觀念を明確にするため、家庭消費のために購入する茶の場合を考察しやう。今或る人の場合をとる。この人は茶の價格が一封度二十志ならば辛うじて年々一封度を買はうとし、價格が十四志ならば辛うじて二封度を買はうとし、價格が十志ならば三封度、價格が六志ならば四封度、價格が四志ならば五封度、價格が三志ならば六封度を買はうとし、事實としては價格は二志であつて彼は七封度を買ふものとする。吾々は一封度二志の場合に彼がその茶を購入する力から收める消費者餘剩を考究すべきである。

消費者餘剩と個人需要との關係

價格が二十志ならば彼が辛うじて一封度を買はうとするとの事實は、彼がこの封度から收める全部享樂或は全部滿足が、この二十志を他物に投じて受け得る全部享樂或は全部滿足と大さを同じくするを證する。價格が十四志に低落する場合には彼はその選擇により依然單に一封度だけを買ふことも出來やう。然らば彼は彼にとつて少なくも二十志に當るものを十四志で得ることゝなり、彼にとつて少なくも六志に當る餘剩滿足、言ひ換へれば少なくも六志の消費者餘剩を得るであらう。併し事實としては彼は自己の自由選擇に基いて第二封度を買ふ。之は卽ち彼が第二封度をもつて彼にとり少なくも十四志に當るものと認めること、及び之は第二封度の彼にとつての利用增加分を表すことを示す。彼は二十八志を投じ彼にとつて少なくも 20s.+14s. 卽ち三十四志に當るものを得る。兎に角彼の餘剩滿足は第二封度の購入によつて減少せず、反對に彼にとつて少なくも六志に當る餘剩滿足が殘る。これら二封度の全部利用は少なくも三十四志に當り、彼の消費者餘剩は少なくも六志である(2)。各購入增加分は彼がその以前に決した購入分の利用の上に反作用するのであるが、この事

實は既に表の作成に當つて斟酌してあるから二重に計算してはならぬ。

（2）この叙述についてなほ少し說明を加へておきたい。尤も事實としては既に述べた所を言ひ換へて繰返す以上に出ない。本文では彼が自己の自由選擇に基いて第二封度を買ふといふ條件を附したが、この條件の意義は次の點を考察すれば明かである。卽ち若し彼が二封度を買ふといふ條件の下に彼に對して十四志の價格が提供されてゐたとすれば、彼は二十志で一封度を買ふか或は二十八志で二封度を買ふかの何れかを選ばねばならなかつたであらう。すれば彼が二封度を買ふといふことは、彼が第二封度を彼にとつて八志以上に當ると考へたことを證明しなかつたであらう。併し今の問題としては彼は無條件に十四志を支拂つて第二封度を買ふ。之は第二封度が彼にとつて少なくも十四志に當ることを證明する。（若し彼が饅頭を一つ一片（ペニー）、七つ六片（ペンス）で買ひ得るとし、七つを買ふ方を選ぶとすれば、吾々は彼が第六片を第六及び第七の饅頭のために投じやうと欲することを知る。併し第七の饅頭のみについて彼が全然之を求めずにをるよりは寧ろ支拂ふを辭せぬとする價格如何は吾々の言ひ得ない所である）。

時にはかういふ反對がある。卽ち彼が購入分を增加するにつれて、以前の購入分の必要の切迫度が遞減してその利用も低減し、從つて吾々の需要價格表中の低い價格の方へ降つて行くにつれて、絕えず同表の前の方の水準を低めて改作して行かねばならぬ（卽ち需要曲線の右方へ移行するにつれて曲線の水準を低めて引き改めねばならぬ）と。併しこの反對は右の價格表作成案を誤認してゐるのである。若し茶の各封度數に對記した需要價格がその封度數の平均利用 average utility を表してゐるならばこの反對は妥當であるかも知れぬ。蓋し若し彼が一封度の對價として丁度二十志を支拂ひ第二封度の對價として丁度三十四志卽ち平均一封度十七志を支拂ふものとすれば、彼はこの二封度の對價として丁度十四志を支拂ふこととなるは眞だからである。又若し吾々の表が彼の支拂ふ平均價格 average price によつて作成されてをり第二封度に對して十七志と對記してゐるものとすれば、低い價格に移行するにつれて表を改作し行かねばならぬは勿論である。蓋し彼が第三封度を買つた場合には、この三封度の各々の彼にとつての平均利用は十七志の平均利用よりも小となるべきだからである。卽ち吾々が依然假定して行く通り、若し彼が第三封度の對價として丁度十志を支拂ふとすれば平均利用は事實に於て十四志八片である。併し玆に採用した需要價格作成案はこの困難を全然避けてゐる。この作成案によれば彼の第二封度は二封度の一封度當り平均價値を表す十七志に當るものとせずして、第二封度が彼にとつて有する利用增加分を表す十四志に當るとしてある。蓋し彼が第三封度（その利用增加分は十志によつて測定される）を買つても右には變化がないからである。

第一封度は恐らく彼にとつて二十志以上に當つてゐた。吾々の知る總ては第一封度が彼にとつて二十志以下に當つてゐなかつたといふ一事のみである。從つて

彼はこの段に於て旣に少なくも六志、恐らくは之より少しく多い餘剩滿足を得るであらう。この種の粗大な出入は數學者の知悉する所であるが、一封度二十志から十四志へといふやうな著しい變化の結果を檢する場合には常に存してゐる。今一封度につき一ファージング(譯者―一片の四分の一)づゝ變化せしめるとすればこの變化は實際的には無限小的變化であり、彼の消費も一回に一封度の一小分數づゝ變動し、この變動は無限小的變動であらう。卽ち若し吾々が非常に高い價格から始め、價格の無限小的變化によつて漸次下降して行き、彼の消費の無限小的變動を檢するものとすれば、かゝる粗大な出入は消滅するであらう。

價格が十志に低落する場合には彼はその選擇によつて依然單に二封度だけを買ふかも知れぬ。この場合には彼は二十四志を投じ彼にとつて少なくも三十四志に當るものを得、少なくも十四志に當る餘剩滿足を收めることゝなる。併し事實としては彼は寧ろ第三封度を買ふに如かずとし、彼は自由にさうするのであるから、吾々は彼が之を買つても餘剩滿足を減少せぬことを知る。今や彼は三十志を投じて三封度を得、內第一封度は彼にとつて少なくも二十志に當り、第二封度は少なくも十四志、第三封度は少なくも十志に當る。これら三封度の全部利用は少なくも四十四志に當り、彼の消費者餘剩は少なくも十四志に當る。以下之に準ずる。

價格が遂に二志に低落した場合には、彼は七封度を買ひその各封度はそれぞれ少なくも二十志・十四志・十志・六志・四志・三志・二志であつて、合計五十九志である。この合計は彼にとつての七封度の全部利用を測定するものであつて、彼の消費者餘剩は(少なくも)この合計が彼の現實支拂額だる十四志に超過する額卽ち四十五志である。彼はこの十四志を他の貨物の購入の小增加のために投ずることも出來るが、彼はこの貨物の現行價格に於ては購入を增加しても收支償ふとは思はず、この價格に於ての購入增加は彼にとつて少しも消費者餘剩を生ぜぬ狀態にあるとする。すれば茶の購入によつて受ける滿足はかゝる貨物に十四志を投じて得べき滿足に超過するのであつて、右四十五志は卽ちこの超過價値である。言ひ換へれば彼は彼の時運から、卽ち茶といふ特定事物について環境が彼の欲望に順應してゐることから、右四十五志に當る餘剩享樂を收めるのである。若しこの順應がなくなり如何なる價格をもつてしても茶を求め得なくなれば、彼は滿足の損失を蒙ることゝなるであらう。卽ち彼は彼にとつて辛う

じて支拂高にしか當らぬ物の購入增加に更に四十五志を投じても滿足を得るのであつて、彼は少なくもこの滿足に等しい滿足を損失するのである(3)。

(3) ニコルソン教授 Nicholson (Principles of Political Economy, Vol. I.及び Economic Journal, Vol. IV.)は消費者餘剩の觀念に反對を唱へ、エヂウォース Edgeworth 教授は同一誌上で之に答へた。ニコルソン教授は言ふ―『年(假りに)百磅の所得の利用が年(假りに)千磅に當ると言つたとて何の益する所があるか』と。然り、かく言つたとて何の益する所もないであらう。併し中央阿弗利加の生活と英蘭の生活とを比較するに、中阿で貨幣の購買する物が平均して英蘭に於けると同樣に安價であるとしても、中阿では全然買ひ得ない物が多い。故にこの兩地を比較する場合に中阿の年千磅の所得者も、英蘭の年三百乃至四百磅の所得者程に安樂な生活を送つてゐないと言ふは無益ではあるまい。或る人が一片(ペニー)の橋錢を拂ひ之によつて一志を要すべき乘車增加分を節約する場合に、吾々はこの一片(ペニー)が一志に當るとは言はない。この一片と橋が彼に與へる利益(橋が彼の時運中に於て演ずる役目)とを合せたものが、その日の一志に當ると言ふのである。若し彼が橋を要する日にこの橋が流れてゐたならば、彼は少なくも十一片を奪はれたと同樣の不利の地位に立つであらう。

三　消費者餘剩と市場との關係。多數人の平均を考察する場合には性格上の個性的差異は無視していゝ。

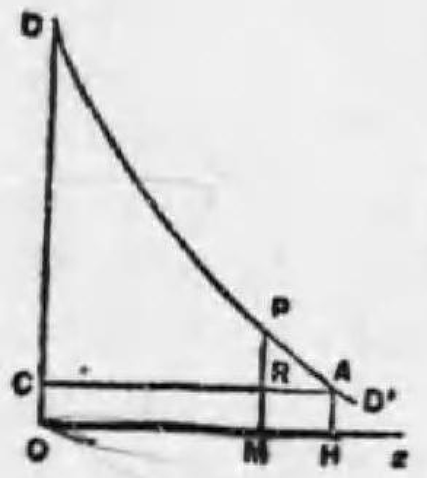
若しこの多數人中に同一割合の富者・貧民を含むならば價格は利用の相應の測度となる。

同一貨幣額も人によつて異なる快樂量を表すが、暫くこの事實を度外視するものとするすれば右と同樣に茶の販賣が(假りに)倫敦市場に於て與へる餘剩滿足は、完全な茶需要價格表中に示されてゐる價格がその販賣價格に超過する合計の總體によつて測定していゝのである(4)。

△

(4) 然らば何れかの大市場に於ける茶の需要曲線 DD′ を考察しやう。

第十圖



一年を時間單位とし價格 HA に於けるその市場年販賣高を OH とする。OH 上に任意の點 M をとり MP を上方に垂直に引き P に於て曲線に交らしめる。數多の封度數が數多購入者の要望度の順序によつて配列されをるものとし、或る封度の購入者の要望度は彼がこの封度の對價として辛うじて支拂はんと欲する價格によつて測定されるものとする。右圖の示す通り OM は價格 PM をもつて賣り得るが、これ以上の價格ではかく迄多數の封度數を賣り得ない。

すれば價格 PM のときに PM 以上のときよりも多くを買はんとする個人があるに相違ない。第 OM の封度はこの個人に賣られるものと見ねばならぬ。例へば PM が四志を表し OM が百萬封度を表すとする。本文中に記述した購入者は價格四志のとき辛うじて彼の第百萬封度を買はんと欲し、第 OM 即ち第百萬封度は彼に賣られるものと言つていゝ。若し AH 從つて RM が二志を表すとすれば第 OM 封度から生ずる消費者餘剩は PM が RM に超過する高である。PM は即ち四志であつて、この封度の購入者がその對價として支拂はんと欲すべかりし價格であり、RM は即ち二志であつて彼が現實に之が對價として支拂ふ價格である。今 PM を高さとし Ox 上に茶一單位即ち一封度を測定する距離を底邊とする極めて細長い垂直平行四邊形を畫くとする。今後價格は PM の如く厚みなき數學的直線によつて測定せず、便宜上極めて細長い平行四邊形或は厚みある直線とも言ふべきものによつて測定するであらう。この直線の幅は如何なる場合にも Ox 上に茶の一單位即ち一封度を測定する距離に等しいとする。即ち茶の第 OM 封度から生ずる全部滿足は厚みある直線 MP によつて表される(或は本文最終段に下した假定の下に於て測定される)と言ふべきであり、この封度の對價として支拂はれる價格は厚みある直線 RP によつて表されると言ふべきである。さてかゝる細長い平行四邊形或は厚みある直線を、O と H との間に於ける M の總ての位置から茶一封度毎に一線づゝ引くものとする。かくの如く MP のやうに Ox から需要曲線に向つて引いた厚みある諸直線は、各々茶一封度から生ずる滿足の總體を表し、之を悉く合すれば DOHA の全面積を占め精密に之を埋めるであらう。從つて面積 DOHA は茶の消費から生ずる滿足の總體を表すものと言つていゝ。更に MR のやうに Ox から上方 AC 迄引いた諸直線は、各々茶一封度の對價として現實に支拂はれる價格を表す。これら直線を合すれば面積 COHA となり、從つてこの面積は茶の對價として支拂はれる全部價格を表す。最後に RP のやうに AC から上方需要曲線迄引いた諸直線は、各々茶の該應封度から生ずる消費者餘剩を表す。これら直線を合すれば面積 DCA となり、從つてこの面積は價格 AH なるとき茶から生ずる全部消費者餘剩 total consumers' surplus を表す。併し玆に繰返しておかねばならぬことがある。それは右本文中に下した假定を下さなければ、この幾何學的測定は單に諸福利の諸測度の一總體に過ぎなくなり、これら諸福利の總てが必ずしも同一尺度によつて測定されなくなることこれである。この假定を下さなければこの面積は單に滿足の一總體を表すのみであつて、この滿足の各量は精密に測定されてゐないのである。この假定の下に於てのみ、この面積は多樣の購入者が茶から收める全部純滿足 total net satisfaction の大さを測定するのである。

この分析はたゞ卑近の觀念に明確な表現を與へんことを期するのみである

この分析は新しい名を帶び精緻な機械(研究手段)を用ひるので一見する所附會のやうであり現實離れがしてゐるやうに見える。之を精細に研究して見ると、之は決して新困難を導くものでなく何等の新假定をも下すものでないこと

が分る。それはたゞ市場地の常用語に伏在する諸困難と諸假定とを光の中に齎すに過ぎぬ。蓋しこの場合に於ても他の場合に於けると同じく、通俗語句の外見的單純性は實質的複雜性を覆ひ隱してをり、玆に伏在する複雜性を見顯はし、之に直面し、能ふ限り之を還約すること卽ち科學の義務だからである。かくすれば研究の程度を進めた後に於て、日常生活の漠然たる思想と言語とをもつてしては到底適確に把捉し得ない諸困難を確乎として處理し得るのである。

日常生活に於て人の通常言ふ所によれば、或る人にとつての物の眞實當價は彼がその物の對價として支拂ふ價格によつて測定されず、又假へ彼が(例へば食鹽よりも茶に遙かに多額を投じるとしてもなほ食鹽は彼にとつて茶よりも大なる眞實當價を有し、又彼から食鹽が全然奪はれゝばこの點は明白に分るであらう。かゝる通俗議論に精確な專門的形式を與へるには外でもない。卽ち吾々は一貨物の限界利用をもつてその全部利用を指示するものと信據し得ないと言ふべきである。難船者が救助の來る迄一年間待たねばならぬと覺悟して、數封度の茶と之と同封度の食鹽とを分配せねばならぬ場合には食鹽は遙かに高く尊重されるであらう。何となれば或る人が年内に僅か少量の食鹽しか得られぬと期待する場合には食鹽一オンスの限界利用は同樣の事情の下に於ける茶の限界利用よりも大だからである。併し通常の事情の下に於ては、食鹽の價格は低廉であつて各人は之を多量に買ひ、ためにその增加封度は殆んど滿足の增加分を生ぜぬ程であらう。彼にとつての食鹽の全部利用は元より非常に大であるが、それにも拘らずその限界利用は低い。之に反して茶は高いから、多くの人々は茶を用ふること少なく茶を煮出すことも長いのである。卽ち茶が略ぼ食鹽程の安い價格で求め得る場合に比すればこの節約の度は大である。彼等の茶に對する願望は決して飽滿することなく、その限界利用は高く、彼等は茶の一增加オンスの對價として食鹽の一增加封度の對價として支拂ふ價格と同額を支拂はんと欲することがある。初めに揭げた日常生活に於て人の通常言ふ所は、この理を悉く暗示する。併しそれは研究の進むに從つて屢々適用する叙述に必要な精密・明確な形式に於て暗示してゐない。研究の出立點に於て學術用語を用ふるは知識に何物をも加ふる所はないが、卑近な知識に堅固な緻

密の形體を與へて研究進行の基礎たらしめる役に立つのである(5)。

(5) ハリス Harris, On Coins, 1757 は言ふ。『物一般は人の必要品を供給するといふ實質的有用性に從つて評價されるものでなく、寧ろ之が生產に必要な土地・勞働・熟練に比例して評價されるものである。物或は貨物が交換されるのは略ぼこの比例に從つてをり、大多數の物の本質價値 intrinsic value が主として評價されるは前記の割合によるのである。水の有用性は大であるが而かも平常は殆んど或は全然價値を持つてゐない。何となれば大多數の場所に於ては水は自然に多量に湧出し私有財產の限度內に置き得ない程であつて何人と雖も十分に之を取得し得、失費を必要とする場合にも水を運び又は引く失費以外には何等の失費を要せぬからである。之に反してダイヤモンドは甚だ稀少であるから殆んど有用性を有してゐないにも拘らず、稀少であるといふ理由によつて多大の價値を有する』。

人を異にするときは必要に應じ受感性の差異を斟酌せねばならぬこともあらう

或は一物の眞實當價は單一個人について論ぜず社會の人々一般について論じてもいゝ。卽ち『先づ最初は』又『反對原因の示してない限り』一英吉利人にとつて一志に當る滿足は、他の一英吉利人にとつて一志に當るものと等しいと見ていゝと假定するは自然であらう。併し何人も知る通り、之は一の推定の下に於てのみ至當の說明法である。その推定とは卽ち茶の消費者と食鹽の消費者とが同一階級に屬し且つ凡ゆる種類の氣質の人を網羅するとの推定である(6)。

(6) 思考上に於ては非常に受感性の強い人があるかも知れぬ。かゝる人は或は殊に食鹽又は茶の缺如に苦しみ、或は一般に受感性が強くて同一生活層の人々よりも強く所得一定部分の喪失に苦しむであらう。併し右何れの場合にも吾々は多數人の平均を考察しつゝあつたのであるから、かゝる個人間の差異は無視していゝと假定してある。尤も(假りに)茶を多く保有する者が殊に受感性ある階級であると信ずべき何等かの特殊理由があるか否かを考察する必要は勿論あるかも知れぬ。若し能ふならば經濟學的分析の結果を倫理上或は政治上の實際問題に應用するに先つて之を別に斟酌せねばならぬであらう。

富の差異も同樣

右は次の考察點を含んでゐる。卽ち一通常貧民にとつて一磅に當る滿足は一通常富豪にとつて一磅に當る滿足よりも遙かに大であるといふ點である。茶と食鹽とは廣く一切階級に用ひられるものであるが、若し茶と食鹽とを比較せずして、その何れか一とシャンペン或はパイナップルとを比較するならば、右の理由に基いて加ふべき修正は單に重要といふよりも以上の結果を來す。それは評定の全性質を一變せしめるであらう。舊時の數代の多くの政治家は、否

一部の經濟學者さへも、この種の考察點を十分斟酌することを怠つた。殊に租稅計畫を立てる場合にさうであつた。彼等の言辭と措置とは貧民の困苦に對する同情の缺如を暗に示す如くであつた。尤も單純に思念の缺如に基く場合の方が多かつた。

併し多數人の大集合體を考察する場合には殆んどその要はない

さりながら大體に於て、經濟學が取扱ふ事件の大多數は略ぼ均等の比例をもつて一切社會階級を左右するものである。故に若し二つの事件によつて生ずる幸福の貨幣測度が等しければ、一般に二つの場合に於ける幸福量は決して大差はない。又この事實あるによつて、一市場に於ける消費者餘剩の精密測定は既に多大の理論的興味を有してをり、又多大の實際的重要性を有するに至るかも知れぬ。

さりながら茲に注意したいことがある。即ち吾々が各貨物の全部利用と消費者餘剩とを評定するにはその需要價格を基礎としてゐるが、この需要價格が稀少性價値 scarcity value 迄騰貴しても他の事情は等しいものと假定してゐることである。同一目的に參加する二貨物の全部利用をこの考案に基いて計算した場合には、この二貨物を合したもの、全部利用はこの各々を分離したものゝ全部利用の合計に等しいとは言ひ得ないのである(7)。

(7) 本書の諸舊版には曖昧な若干辭句があつたため一部の讀者に反對の見解を暗示したやうである。併し一切貨物の全部利用を合計して、一切の富の全部利用の總體を求めるといふことは、最も緻密な數學公式のみの能くし得る所であつて之によらねば不可能である。之を用ひてこの問題を取扱はんとする一企圖は先年行はれた。この企圖によつて著者は、之を理論上可能なりとしても、その結果は多數の假設を含み實際の役には立たぬと確信するに至つた。

或る目的のためには茶・珈琲の如き物は合體して一貨物の如く取扱はねばならぬ。この事實に對しては既に注意を呼んでおいた(第三編第三章六・第四章三、原書一〇〇頁・一〇五頁、譯書二〇八頁・二二〇頁)。又若し茶を求め得ない場合には人々が珈琲の消費を増加すべきは明白である。反對の場合は之に準ずる。人々が茶及び珈琲の兩者を奪はれたために蒙る損失は、その何れか一のみを奪はれたために生ずる損失の合計よりも大であらう。從つて茶及び珈琲の全部利用は、珈琲を用ひ得るとの推定の下に計算された茶の全部利用と茶を用ひ得るとの推定の下に計算された珈琲の全部利用との合計よりも大である。この困難は『競爭』貨物を一共通需要表中に一括すれば理論上避け得る。之に反して燃料の全部利用を計算する場合に、燃料がな

けれぱ茶葉から茶飲料を作るべき湯を求め得ないとの事實を參酌して之を計算したとする。この場合に同樣の考案によつて計算した茶葉の全部利用をこの利用に加算するならば、何物かを二重に計算してゐることになる。更に農業生産物の全部利用は犂の全部利用を含んでゐる。故に例へ犂の全部利用に關聯して論ぜられる問題と小麥の全部利用に關聯して論ぜられる問題とが異なるとしても、この二つを合算せぬがいゝ。これらの二困難の他の方面は第五編第六章に檢しておいた。

パッテン Patten 教授は暗示に富む若干の雄篇に於て右二つの中の後者を主張してゐる。併し教授が一切形態の富の總體利用を言ひ表さんとする企圖は幾多の困難を看過してゐるやうである。

購入者の貨幣支配力の變化を考慮することも殆んど必要ない

四

或る人が何物かに多くを費せば費す程、彼がその物或はその以外の物を購入する力は愈々減少し、彼にとつての貨幣の價値は愈々大となる(學術用語をもつて言へば一々の新支出は彼にとつての貨幣の限界價値 marginal value を大ならしめる)。吾々がこの事實を考慮に加へたとしても吾々の論究の實質は少しも變らぬであらう。併し實質は變らずとも、その形式は一層錯雜し而かもそれに應じた益はないであらう。蓋しこの項目の下に加ふべき修正が何等かの重要性を有するといふ實際問題は甚だ少ないからである(8)。

(8) 數學の言葉で言へば無視された分子は一般に微量の二次に屬する。故に之を無視する通例の科學的方法の正當なるは、ニコルソン教授の異論がなかつたならば問題にならなかつたであらう。エヂウォース教授(Economic Journal, March 1894)は教授に簡單に答へ、バローネ教授 Barone(Giornale degli Economisti, Sept. 1894)は詳細に答へた。この答辯についてはサンガー氏 Sanger (Economic Journal, March 1895)の解説がある。

數學附錄註解六に示す通り、貨幣の限界利用の變化を形式的に考慮するを欲する場合には之を考慮し得る。若し吾々が一切貨物の全部利用を合算せんと企てるならば、吾々はさうせざるを得ないであらう。さりながらこの事は到底實行不可能である。

さりながら若干の例外がある。例へばギッフェン卿 Sir R. Giffen の指摘した通り、パンの價格の騰貴は貧困勞働者家族の資力を著しく吸收し彼等にとつての貨幣の限界利用を著しく高め、ために彼等は已むなく肉類その他の高價な穀粉食料品の消費を切詰めざるを得なくなる。而かもパンは依然彼等の求むるを得且つ求めんと欲する最安價の食物であつて、彼等はパンの消費を減ぜずし

完全なる需要價格表は殆んど求め得ず又之を要する場合も少ない

て反つて增加する。併しかゝる場合は稀である。かゝる場合が生じた際には各場合に應じてそれぞれ特異の取扱をせねばならぬ。

或る物の價格がその物の對價として通例支拂はれてゐる價格と甚しく相違する場合に人は果してその物の何程を買ふであらうか、言ひ換へれば普通の販賣量と甚だしく相違する販賣量に於てその物の需要價格は何程であらうか。之は既に述べた通り到底精確には推測し得ない。從つて吾々の需要價格表は通例價格の近接點を除いては著しく憶測的であつて、或る物の利用の全量如何について吾々の爲し得る最善の評定と雖も大なる誤差あるを免れない。併しこの困難は實際上に於ては重要でない。蓋し消費者餘剰學說の主要な應用は、問題の貨物の價格が通例價格の近接點に於て微動する場合に伴つて生ずる消費者餘剰の變化に關聯するからである。即ちこれらの應用に於ては、吾々は相應に豐富に有する材料のみを用ふるを要するのである。右の言は必要品には殊に力强く當嵌まる(9)。

（9）消費者餘剰の觀念は今でも多少役立つことがある。吾々の統計的知識が更に一層進歩した曉には、茶一封度につき六片の增稅或は鐵道運賃一割の引上が公衆に何程の損害を與へるかを決するに大いに役立つに至るかも知れぬ。尤も茶一封度につき三十志の租稅或は運賃の十倍の値上によつて生ずる損失を評定するには餘り役立たぬが、この事實はこの觀念の價値を殆んど減じない。

第十圖に戻つて之を次のやうに言ひ表していゝ。若しAが該曲線上の點であつて該市場の通例販賣高に該應するものとすればAの兩側の若干の距離に相應正確に曲線を引くに足る資料を求め得る。尤もこの曲線をDに至る迄正確に近く引くことは殆んど出來ない。併しこの點は實際上には重要でない。何となれば價値理論の主要な實際的應用に於ては、例へ需要曲線の全形に關する知識を持つてゐるとしてもこの知識を用ふることは殆んどないからである。吾々は吾々の求め得るものを正に要するのである。即ちAの近接點に於ける曲線の形についての相應正確な知識を要するのである。DCAの全部面積を確定する要は殆んどない。吾々の目的の大多數にとつては、Aを曲線の何れかの方面に向つて僅かの距離だけ移動せしめるによつて生ずるこの面積の變化を知れば十分である。とは言へ吾々は純粹理論に於てこの曲線が完全に引かれてゐると假定する自由を有する如く、暫定的にかく假定すれば煩雜を省くことになるであらう。

さりながら或る種の貨物即ち供給の一部が生活必要品たる貨物の利用の全體を評定するには特殊の一困難がある。若し之を評定せんと企圖するならば、その貨物

の中、必要品たる供給部分を既定視してこの高を超過する供給部分のみの全部利用を評定するを最善の考案とする。併し或る物に對する願望はその代用品を得る困難に著しく依存するを記憶せねばならぬ。(數學附錄註解六を見よ)。

五　但し共同富を考慮する場合に限る。

共同富の構成分子は看過され易い

福祉が物質富に依存する度を評定するに當つて看過され易い別種の考察點が右の外にある。一個人の幸福はその外部條件に依存するよりも往々自己の肉體的・心性的德性的健康に依存すること大であるのみならず、これら外部條件中に於てさへ彼の實質幸福にとつて最も重要な多くの諸條件が彼の富の財產目錄中から除外され易い。これらの諸條件の一部は自由(無償)の自然恩惠である。若しこれらの恩惠が常に一切人に平等ならば之を度外視しても元より左迄害はないかも知れぬ。併し事實としてはこの恩惠は場所によつて差がある。さりながらこれら諸條件の多くは共同富の構成分子である。之は往々個人富の計算から除外されてゐるが、近代文明世界の一部と一部とを比較する場合には重要となり、現代と昔の時代とを比較する場合には更に一層重要となるものである。

所謂消費組合は生產の題目に屬する

共同福祉確保の目的をもつてする共同行爲例へば道路の點燈撒水の如きは吾々の研究の終末に至つて詳論するであらう。個人消費品購買のための協同組合は他國に於けるよりも英蘭に最も進步してゐる。併し農業家その他の營業用品購買のための協同組合は最近に至る迄英蘭では發達が後れてゐた。兩種とも時に消費組合と稱せられてゐるが實は或る種の企業部門に於ける努力節約のための組合であり、寧ろ生產の題目に屬し消費の題目には屬してゐないのである。

六　ペルヌーイの提論。富の利用についての廣汎な方面。

玆では吾々は大所得を取扱つてゐるので大所有を取扱つてゐるのではない

吾々が福祉は物質富に依存すると言ふ場合には、福祉の流入量 flow or stream が、入り來る富の流入量及び之に續く富の使用力・消費力の流入量によつて測定されると言ふのである。一個人の富保有高はその用益その他によつて幸福とい

ふ所得を生じ、この所得中には所有の快樂をも算入すべきは勿論である。併しこの保有高の總體量と總體幸福との間には殆んど直接の關聯はない。この理由あるが故に吾々は本章と前數章とを一貫して、富者・中產階級・貧民をもつてそれぞれ大所得・中所得・小所得——所有に非ず——を有するものと言つて來たのである(10)。

ベルヌーイの提論

ダニエル・ベルヌーイ Daniel Bernoulli の提論に從ひ吾々は次の樣に見てゐる。即ち一個人がその所得から收める滿足は彼が生命を維持するに足るだけを有するときに始まり、その以後彼の所得が均等の逐次增加割合をもつて增加する毎に均等量づゝ增加する。所得喪失の場合はこの反對である(11)。

(10) 附錄註解七を見よ。

(11) 即ち若し三十磅が必要品を表すものとすれば、一個人がその所得から得る滿足はこの點に始まり、その所得が四十磅に達すれば一增加磅は所得の幸福收得力を表す十磅に十分の一を加へるであらう。併し若しその所得が百磅ならば即ち必要品水準を超えること七十磅ならば、所得四十磅の場合に一磅によつて增加するだけの幸福を增加するには七增加磅を要するであらう。他方若しその所得が一萬磅ならば之と等しい結果を生むに千增加磅を要するであらう(附錄註解八參照)。勿論かゝる評定は甚だ杜撰であつて個人生活の種々の事情に適應せしめ得ない。後に明かにする通り、今日最も廣く行はれる租稅制度は一般にベルヌーイの提論の趣旨に從つてゐる。以前の租稅制度はベルヌーイ案による場合よりも遙かに多額を貧民から取立てゝゐた。然るに今日は漸次累進稅制度が諸國に採用されやうとする兆候がある。この稅制は或る程度迄次の假定を基礎としてゐる。即ち必要品に對しベルヌーイの修正を加へても、なほ巨大所得の一パーセントの增加は小所得の一パーセントの增加程に所得者の福祉を增加せぬとの假定である。

序ながら玆に一言しておきたいのは、或る人にとつての一增加磅の利用はその人の既有の磅數に從つて遞減するといふ一般法則から二個の重要な實際的原理が出て來ることである。第一は賭博は完全に公平對等の條件にて行はれてさへ經濟的損失を伴ふことである。例へば六百磅を有する人が公平對等に百磅を賭ける場合には今や七百磅から生ずる幸福の半分と五百磅から生ずる幸福の半分とに等しい幸福を期待する。この期待は六百磅から生ずる幸福の確定期待よりも小である。何となれば假說によつて六百磅及び五百磅から生ずる幸福の差は七百磅及び六百磅から生ずる幸福の差よりも大だからである。(附錄註解九及び Jevons, l. c. Ch. IV. 參照。)第二の原理は第一の原理の直接の逆であつて、理論上公正な危險保險は常に經濟的利得であるといふことである。併し勿論各保險會社は理論上公正な保險料を計算して後、更に自家資本の利潤を支拂ひ自家營業失費(この中には往々廣告及び詐

數による損失のための莫大の費目が算入されてゐる)を償ふに足る額を割付けねばならぬ。保險會社が現に課する保險料を支拂ふのが得策であるか否かの問題は、各場合の特殊の性質によつて決せねばならぬ問題である。

享樂の熱度は親しみによつて鈍る

併し暫くすると新しい富は往々その魅力の大部分を失ふ。之は一には親しみの結果であつて、人は用ひ慣れた快適品・奢侈品を失ふときは多大の苦痛を感ずるにも拘らず、この親しみが出來たためにこの苦痛程の多大の快樂を收めなくなる。之は又一には次の事實に基いてゐる。卽ち富の增加と共に往々老境の倦怠或は少なくも神經緊張の增加を伴ひ又恐らく生理的活力を減損し快樂受容力を減退せしめる生活習性をさへ伴ふといふ事實である。

餘暇と休息との價値

凡ゆる文明國には佛敎敎義の若干信奉者があつた。その敎義によれば澄み通つた靜寂が最高の生活理想であり、自己の本性中から能ふ限り三毒五欲を根絕し去るのが賢者の分であり、眞實の富は多財に非ずして寡欲にある。之と反對の極端に立つ者は、新欲望・新願望の發達は人を刺戟して操作を增加せしめる故に常に有益であると主張する。ハーバート・スペンサー Herbert Spencer の言ふ通り彼等は生活のための作業である所以を忘れ作業のための生活であると推定する誤謬に陷つてゐるやうである(12)。

(12) その The Gospel of Relaxation に關する講演を見よ。

中位の作業によつて得る中位の所得を可とする

眞理は次の點にあるやうである。卽ち人間本性の構成から言つて、人は營むべき何等かの激しい作業、克服すべき何等かの困難を有せぬ限り速かに墮落し、又肉體的・德性的健康のためには何等かの熱烈な努力を必要とする。生活充實性は能ふ限り多數且つ高級の才幹の發展・活動にある。凡そ何等かの目標の熱烈な追求には强度の快樂がある。その目標は企業上の成功たると、藝術・科學の促進たると、或は同胞の狀態の改善たるとを問はぬ。作業は往々過度の緊張の時期と弛緩停滯の時期との間を交互に放浪せねばならぬ。併し通常人にとつては、卽ち低級なると高級なるとを問はず何等の强い抱負を有せぬ人々にとつては、相應に著實な中位の作業によつて收める中位の所得が、眞正幸福の唯一源泉たる肉體的・心性的・靈性的習性を發達せしめる最善の機會を供するのである。

虚飾のための支出

凡そ一切社會層には幾分富の誤用がある。一般的に言へば勞働階級の富の增加はその增加每に人間生活の充實性と高貴性とを增進すると言つてゐる。何となればこの增加部分は主として實質的欲望の滿足に用ひられるからである。とは言へ虛飾の手段としての富に對する不健全な願望も增大する兆候がある。この願望は卽ち各文明國に於ける富裕階級滅亡の主因たりしものであつて、英蘭の技術工の間にさへ生じてをり、諸新國に於ては恐らく更に一層甚だしい。奢侈禁止法は無効であつた。併し若し社會共同體の道德的情操を善導し、人をして個人富の一切種類の虛飾を悉く斥けるに至らしめ得るならば有益であらう。元より賢明に整つた豪宏は眞正・貴重な快樂を生ずる。併しこれらの快樂は一面に於て個人的虛榮と他面に於て羨望との色彩を伴はぬときのみその眞正・貴重の快樂たる所以を發揮する。

富の共同使用は私用より高き高貴性を有する

公共建設物・公園・公共美術館・公共競技娛樂の周圍に集まる快樂の場合の如きである。富が各家族の生活必要品・文化必要品補給のために用ひられ、共同使用のための高級享樂形態を豐かに補給するために用ひられる限りに於ては、富の追求は高貴な目的である。その限りに於ては富の追求から來る快樂は之を用ひて促進された高級活動の發達に伴つて恐らく增加するのである。

生活必要品が既に補給された以上、各人はその所有物の美を增すやうにすべきであつてその數或は豪宏を增すやうにすべきでない。家具・衣服の藝術的性質の改善は、之が製作者の高級才幹を訓練し之が使用者の幸福增進の源泉となる。

嗜好ある購入者は生産者を教育する

併し若し吾々が美の標準を高めやうとせず、增加しつゝある資力を家庭用財の複雜・混雜を增すために用ふるならば、吾々は之によつて何等の眞正福利も何等の持續的幸福をも得ないのである。若し各人が一層少數單純な物を買ひ、これらの物を實質美によつて選擇する勞を吝まず、言ふ迄もないが細心に自己の支出の對償として優良な價値を求め、さりとて薄給勞働の粗製品を多數に買はずして高給勞働の精製品を少數買ふならば、世界は一層良く改まるであらう。

かくて吾々は廣汎な研究の一端に觸れ之を後に讓らねばならぬ

併し吾々は既に本編當然の範圍を越えやうとしつゝある。各個人の所得費消樣式が一般福祉に及ぼす影響如何の論究は、生活術上に於ける經濟科學應用の中でも重要なものゝ一である。

附錄

第一附錄　自由産業・企業の發達

一　初期文明階段に於ては外界的原因が最も力强く作用する。初期文明階段は必然溫暖な氣候に生じた。

第一編第一章最終節は第一附錄・第二附錄の目的を述べてをり、この兩附錄の開題としていゝ。

個人的行爲と人種的性格とは互に作用し反作用し兩者とも外界的原因に著しく影響さる

歷史上の主要事件の近因は個人の行爲中に在るとしても、これらの事件を可能ならしめた諸條件の大多數は遺傳的制度・人種素質・外界的原因の影響に求め得る。さりながら人種素質自體は主として多少とも遠い過去の個人の行爲及び外界的原因によつて生じたものである。强い一民族は往々、事實の上に於ても名稱の上に於ても肉體上・性格上卓絕した强固性を有する若干祖先から起つてゐる。平和及び戰爭に於て一民族を强固ならしめる習俗は往々少數大思想家の叡智に基いてをり、これらの大思想家は恐らく形式的の戒告により或は恐らく殆んど目に見えぬ靜かな感化によつて民族の慣習・制法を解釋し開展した。併し若し氣候が活力に不好適ならば、右の如きは何れも永續的の効果を持たぬ。氣候の與へる自然恩惠・土地・水・空は民族の作業の性質を決定し、之によつて社會的・政治的制度に音調

を與へる。

野蠻生活は慣習と本能とに支配される

　これらの相違は人が依然野蠻な間は明白に現れて來ない。野蠻種族の習性について吾々の知る所は僅かであり依賴し難いが、吾々の知る所をもつてしても、これらの習性が細目の非常な多樣性の間に一般性質の奇しき統一性を示すことだけは確かである。その氣候の如何を問はず、その先祖の如何を問はず、野蠻人が慣習と衝動との支配の下に生活しつゝあることが分る。彼等は殆んど曾て自ら進んで新機軸を出さない。曾て遠い將來を豫見することもなく、手近な將來のためにさへも殆んど備へることがない。慣習に服しながらも突變的で瞬間の氣紛れに支配され、時には最も猛烈な操作を行ひながら着實作業を長く續け得ない。長く續く苦しい仕事を能ふ限り避け、避け難い仕事は女子の強制勞働によつて營まれる。

初期文明階段に於ては外界的原因が最も力強く作用する

　野蠻生活から初期文明形態に進むときに、初めて外界的周圍の影響が最も吾々の注意に迫つて來る。その理由は一には初期の歷史が貧弱であつて特定事件及び強固な個人性格の影響を殆んど語つてゐないことにある。かゝる性格の影響は國民進步の進路を嚮導し制規しその前進を促進し或は後退せしめた。併しその主たる理由はこの進步階段に於ては人間の對自然爭鬪力は微弱であつて自然の豐かな助力がなければ何事をも爲し得ないことにある。自然は人間が野蠻狀態から向上せんとする最初の企圖を爲すに殊に好適な少數の場所を地球の表面に區劃してくれた。文化及び產業術の最初の發達はこれら好適地の外界的條件に嚮導され制規されたのである(1)。

(1) 外界的自然は人種の主要職業の性質を決定し、之によつて直接・間接に人種の性格に影響するが、この影響に關する一般問題については Knies, Politische Oekonomie; Hegel, Philosophy of History; Buckle, History of Civilization を見よ。なほ Aristotle, Politics; Montesquieu, Esprit des Lois 參照。

初期文明階段は必然溫暖な氣候に生じた

治者世襲階級はその精力を產業に注がずして戰爭と政治とに注いだ

　最單純の文明と雖も、人間努力が生活必要品を供するに足る以上でない限り不可能である。進步は心性的努力の中から起り來るものであつて、この心性的努力を支持するには必要品以上に若干餘剩を要する。從つて殆んど一切の初期文明は溫暖な氣候にあつた。溫暖な氣候に於ては生活必要品は微小であり自然は最も粗野な耕作に對してさへ豐かな收穫を與へる。初期文明は往々一大河流の流域に集つた。大河流は土壤に水分を與へ簡便な交通手段を供した。一般に治者は近時遠國或は近隣山岳地の寒冷な氣候から移り來つた人種に屬してゐた。蓋し溫暖な氣候は精力を破壞するものであつて、支配を得せしめる力は殆んど總ての場合彼等の以前の鄉國の中和な氣候の產物であつたからである。彼等は被征服人種の勞働の餘剩生產物によつて奢侈の生活を營みつゝも、實に新鄉國に於て數代に亘りその精力の多くを持續し、治者・戰士・僧侶の任務にその能力を發揮した。彼等は本

溫暖な氣候の影響

來無智ではあつたが、被治者の敎ふる所を速かに學んで被治者以上に進んだ。併しこの文明階段に於ては敢爲力ある知性的性格は殆んど常に少數治者のみに限られ、產業の主要負擔を負つて立つてゐた人口の間には殆んど曾て存しなかつたのである。

その理由は初期文明を可能ならしめた氣候が亦た之を衰弱せしむべく運命づけたことにある(2)。寒冷な氣候に於ては自然は爽快な大氣を與へる。人は出立點に於てこそ苦鬪せねばならぬが、その知識と富との增大につれて豐富な食物と暖かな衣服とを求め得る。後の階段に至れば人は質實な大建設物を備へる。この建設物は氣候の峻烈な場所に於ける文化生活の最高價の要件であつて、かゝる場所に於ては氣候が峻烈なため必要上殆んど一切の家庭奉仕及び社交的會合は屋根の保護を要する。併し生活充實性に必要な新鮮爽快な空氣は自然が自由に與へてくれなければ全然求め得ぬものである(3)。元より熱帶太陽の下にも、勞働者は肉體的苦痛作業を營み、手工業者は藝術的本能を持ち、聖人、政治家或は銀行家は銳敏緻密であることもある。併し高溫度は持續的な肉體的苦痛作業と高級な知性的活動とを並存せしめぬ。氣候と奢侈との結合影響の下に、治者階級は漸次强固性を失ひ、彼等の中偉業を爲し得る者の數は愈々減少し、遂に一層强大な人種に壓倒され終るのである。この强大な人種は―最も蓋然的に―寒冷な氣候から移り來るものである。治者階級は時に從來の被治者と彼等の新治者との間の中間世襲(カスト)階級を形成する場合もあるが、無

精神の大衆の間に沈降する場合の方が多い。

(2) モンテスキュー(Bk. XIV. ch. II.)が奇しくも言ふ所によると、寒冷な氣候に基く强固性の優越性は種々の結果を生む中にも『優越感が大であり―即ち復讐願望が少なく―保安尊重の意見が大である―即ち一層淡白であり猜疑心・策略・狡猾が少ない』。これらの美點は著しく經濟進步の助けとなる。

(3) ゴルトン F. Galton の考が正しいものとすれば、右は少しく修正せねばならぬことになるが、それは少しの修正たるに過ぎない。ゴルトンの考へる所によると、熱帶國に於ける少數治者人種、例へば印度に於ける英吉利治者人種も、人造氷を豐かに用ひ或は壓搾空氣の猛烈な膨脹の結果たる涼味を豐かに用ひて、數代に亘り體質的活力を損ふことなく維持し得るであらう。彼の一八八七年人類學協會會長就任講演を見よ。

初期文明に於ては運動は緩慢であるが運動はある

かゝる文明は往々哲學的歷史家にとつて興味ある點を多く持つてゐる。その文明の全生活には無意識の間に少數單純な觀念が滲み渡つてゐる。かゝる觀念はかの快い調和の中に織り交ぜられてをり、この調和は東洋絨緞にその魅力を與へてゐる。これらの觀念をその根源に遡れば得る所が多い。その根源は人種、外界的周圍、宗敎・哲學及び詩、戰爭の附帶事情强烈な個人的性格の主要影響の結合影響の中にある。總てこれらは多くの點に於て經濟學者を敎へる。併し經濟學者の特殊硏究領域たる動機に餘り直接の光明を投じてく

れない。蓋しかゝる文明に於ては最有能者は作業を賤しめるからである。そこには大膽な自由企業心ある作業者もなく、冒險的資本家もない。産業は輕蔑され慣習によつて制規され、産業は慣習をさへ無法な暴政に對する唯一の保護者と見た程である(4)。

(4) Bagehot, Physics and Politics 參照。なほハーバート・スペンサー及びメイン Maine の諸作參照。

慣習は決して全部强者に與したのではない

慣習の大部分は疑もなく壓迫と迫害との結晶形態に過ぎぬ。併し慣習の中でも弱者を虐げる以外何事をも爲さぬ部分は長く存續し得なかつた。蓋し强者は弱者の扶助を基礎として立ち、彼等自身の强固性と雖も弱者の扶助なくしては强者を支持し得ないからである。若し强者が弱者に程度を超えた無法な負擔を課する如き社會制度を組織するならば、强者は之によつて自らを破滅せしめる。その結果慣習中の持續する部分は、最も無謀な危害に對して弱者を保護する諸條項を含んでゐるのである。

慣習は交通手段の不備な場合には實に必要な保護である

事實に於て殆んど企業心なく實效ある競爭の餘地もない場合には、慣習は一の必要な楯である。この楯は民族を一層强い他の民族に對して守護するのみならず、同一生活層に屬する隣人に對しても守護する。若し村鍛冶屋がその犂頭をその村以外に賣り得ないとし、若しその村がその犂頭を彼以外の者から買ひ得ないとすれば、慣習によつてその價格が中庸水準に固定的に定められるは一切人の利益である。かゝる手段によつて慣習は神聖性を得る。原始的慣習は革新者を不敬視し敵視し、進步の初步階段に於てはかゝる原始的慣習を破る傾あるものは何物もない。即ち諸經濟原因の影響は表面以下に押込められて、そこで確實に徐々に働いてゐる。これらの原因が結果を現すには數年では足りずして數代を要する。これら原因の作用は非常に微妙であつて全然觀察の目を脫し易い。近代に於ける同樣の原因は一層著しく一層速かに働くのであるから、この働きを注視してかゝる原因の作用を何處に求むべきかを修得した者でなければ殆んど右の原因を辿り得ないのである(5)。

(5) 即ち慣習は犂頭の價格を『中庸水準』に固定的に定めるが、この『中庸水準』を分析して見れば、鍛冶屋と同等困難の作業を營む隣人の受ける報酬に略ぼ等しい報酬彼の一切の特權及び餘祿を考慮する)を結局に於て與へる水準を意味することが分る。言ひ換へればこの水準は自由作業と簡便交通と實效ある競爭との制度の下に於て正常報酬率と稱すべきものである。若し事情の變化によつて鍛冶屋の報酬(一切の間接餘得を含む)がこの水準よりも多くなるか少なくなるかすれば、殆んど常に慣習の實體の上に變化が起り―この變化は殆んど認められず且つ一般に形式の變化を伴はぬものであるが―之を右の水準に引戾すであらう。

二　分割所有は慣習の力を强め變化に抵抗する。

分割所有は慣習の力を

初期文明に於ける慣習のかゝる力は一には個人財産權制限の原因であり一にはその結

強め變化に抵抗する

果である。個人の權利は一般に狹義の家族と家計との權利から派生しこの權利に制限され凡ゆる點に於てこの權利に從屬した。之は一切財產について多少ともさうであつたが、殊に土地についてさうであつた。同樣に家計權も村落權に從屬した。村落は事實上は然らずとも傳統的擬制に從つて往々擴大し發達した家族に過ぎなかつた。

初期文明階段に於て自己の周圍に行はれてゐる慣行を甚だしく離れやうとする願望を持つ者が殆んどなかつたのは眞である。自己の財產に對する個人權が如何に完全に且つ鋭く定まつても、彼等は革新を起して隣人の怒を買ふことを欲せず、又自ら祖先以上の賢者をもつて任じて嘲笑を浴せられることを欲しなかつたであらう。併し多くの小變化は大膽な精神の中に擡頭するであらう。若し彼等が自己の計算に於て實驗を自由に行ひ得たとしたならば、變化は殆んど目に見えぬ小階段によつて發達し、漸時實行上の變差が確立して慣習的規制の明白な輪廓を崩し個人的選擇に著しい自由を與へたかも知れなかつた。さりながら當時各家計主は單に上級出資者兼家族財產保管者としてのみ認められてゐたに過ぎず、祖先の風を少しでも離れゝば、一切微細事項について評議權を有する人々の反對に會つたのである。

なほ又家族の權威ある抵抗の裏面には村落の權威ある抵抗があつた。蓋し各家族は一定期間その耕作地を單獨に使用してゐたが、なほ幾多の動作は一般に共通に營まれ、ために各家族は他の家族と同時に同じ事を營まなければならなかつた。各耕地は順番によつて休閑地となり共同放牧地の一部となり、村落の全部の土地は時々割替へられた(6)。從つて村落は如何なる革新をも禁止する明白な權利を持つてゐた。蓋し革新は村落の共同耕作計畫を妨害し、終極に於て土地の價値を損ひ、かくて次期の割替の時に村人に損害を與へるかも知れぬからである。その結果往々極めて複雜な規則網が生じて、各耕作者は嚴重に束縛され、最も些細な微細事項についてさへ自己の判斷と裁斷とを用ひ得ぬ程であつた(7)。恐らく之は人類の間に自由企業の精神の發達を遲くした一切原因中の最も重要なものであつた。玆に注意したいのは財產の共同所有は多くの東方宗教に行はれる靜寂主義の精神と調和し、又ヒンドゥー人 Hindoos の間に共同所有が永く殘存してゐたのはその宗教書に說いてある寂滅に基く所もあるといふことである。

(6) テユートン系マルク制度 Teutonie Mark system は元より今日は一部歷史家が推定したよりも遙かに一般的でなかつたものと知られてゐる。併しこの制度が全幅の發展を遂げてゐた所では、一小部分卽ち自家マルク home mark は永久に生計のために分離され、各家族はその中の自己取得分を永久に保持してゐた。第二の部分卽ち耕地マルク arable mark は三大耕地に分割され、各家族はこの耕地の各々の上に一般に數多の分散條地を持つてゐた。この三大耕地中の二つは每年耕作され、一つは休閑地となつてゐた。第三の最大の部分は全村落共通の放牧地であつた。耕地マルク內の

休閑耕地も同樣であつた。或る場合には耕地マルクは時々放棄されて牧場となり、新耕地マルクとする土地は共同マルクから切り取られ、之は割替を伴つた。即ち各家族が行ふ土地の處理は善きにも惡しきにも村落全員に關係を及ぼしたのである。

（7） Duke of Argyll, Unseen Foundations of Society, ch. IX. 中のランリグ耕作 Runrig cultivation の說明を參照。

慣習が產業方法に及ぼす影響は累積的である。

一面に慣習が價格・賃銀・地代に及ぼす影響は過大視され、慣習が生產形態及び社會の一般經濟制度に及ぼす影響は過小視されて來たといふことは有り得ることである。前の場合にはその結果は明白であるが累積的ではない。後の場合にはその結果は明白ではないが累積的である。殆んど普遍的な原則として、一原因が或る時に於て小であつてもその結果が同一方向に絕えず作用する場合には、その結果の影響は一見して可能と思ふよりは遙かに大である。

併し初期文明に於ける慣習の影響が如何に大であつたにしても、希臘人と羅馬人との精神は企業心に滿ち滿ちてゐた。吾々にとつて非常の興味である經濟問題の社會面を何故に彼等が殆んど知らず又殆んど注意しなかつたかを探究するは右よりも一層興味あることである。

三

希臘人は北方の精力を東方の文化に結び付けたが、產業をもつて殊に奴隷のものと見た。

古の文明は主として國內的であつた

多くの初期文明の鄕國は河川の大流域にあつて、その水分多い平野は殆んど飢饉に襲はれなかつた。蓋し熱を缺かぬ氣候に於ては、土壤の地味は殆んど直接にその水分に伴ふからである。河川は亦た簡便な交通手段を供し、この手段は交易・分業の單純形態に好適であり、又中央政府の專制力を維持する大軍隊の移動を妨げなかつた。フェニキア人が海上に住んでゐたのは眞である。この大セミティック人は、幾多の民族の間に自由交通の途を準備し、筆書・美術・重量・尺度の知識を普及せしめて多大の功績があつた。併し彼等はその主精力を商業・工業に投じた。

海は希臘人に知識と自由と變化力とを與へた

海上の自由の息を胸一杯に呼吸すること、及び舊世界の最優秀思想と最高藝術とを自己の自由生命內に吸ひ込むことは、希臘人の溫雅な同情心と清新な精神とに殘された。小亞細亞、マグナ・グレーチア、ヘラス本土に於けるその無數の殖民地は、彼等の上に突如として起つた新思想の影響の下に彼等自身の理想を自由に伸長せしめた。彼等は互に不斷に交通したのみならず舊學藝の鍵を握つてゐた地と不斷に交通した。彼等は互に他と經驗を共にしたが、權力者に少しも壓へられなかつた。傳統的慣例の重壓に壓迫さるゝことなく、精力と企業心とは刺戟されて新殖民地を發見し、無制肘に新觀念を進めた。

その氣候は文化を安價

彼等の氣候は彼等に身を創るやうな作業の必要を免除した。彼等は爲すべき苦役があ

ならしめ而かもなほ彼等の強固性を急に弱めなかつた

れば悉く之を奴隷に一任し、自らは自己の趣好を自由に恣にしてゐた。住居・衣服・暖房は殆んど費用を要しなかつた。その晴明な空は彼等を招いて屋外生活に導き、社會的・政治的目的のためにする交際を容易・無費用たらしめた。而かもなほ地中海の冷凉な微風は彼等の活力を著しく清新にし、彼等は北方の鄕國から齎した性情の發動力と彈力性とを數代に亘つて失はなかつた程であつた。二度と世界が知るべくもなかつた一切形態に於ける美の觀念、微妙な趣好と思索上の獨創性、政治生活上の精力及び國家に個人を從屬せしめる喜悅はこれらの條件の下に成熟したのである(８)。

（８） Neumann and Partsch, Physikalische Geographie von Griechenland, ch. I. 及び Grote, History of Greece, Part II. ch. I. 參照。

彼等は多くの點に於て近代的でありながら勞働尊嚴の念と共に生じた諸經濟問題を豫想しなかつた

希臘人は多くの點に於て中世歐洲の諸民族よりも近代的であつた。或る點に於ては吾々自身の時代にさへも先んじてゐた。併し彼等は人間の人間としての尊嚴の念に到達しなかつた。彼等は奴隷を自然の命法と心得た。彼等は農業を默認したが、その以外の一切産業を墮落せるものとして蔑視した。彼等は吾々自身の時代に非常の興味である諸經濟問題を殆んど或は全然知らなかつた(９)。

（９） 上記八頁（原著四頁、第一編第一章二末段）を見よ。即ちプラトーさへも言ふ―『自然は靴屋も鍛冶屋をも作らなかつた。かゝる職業は之に從事する人々を墮落せしめ、賤しい傭兵は彼等の地位そのものによつて政治的權利から除外されたのである』(Laws, XII.)。又アリストートルは續いて言ふ―『最も良く統治された國家に於ては、市民は……機械師或は商人の生活を送つてはならぬ。蓋しかゝる生活は卑俗であり德義に反するからである』(Politics, VII. 9. なほ III. 5. を見よ)。これらの箇所は業務についての希臘思想の基調を示すものである。併し古代希臘には殆んど獨立資産はなかつたから、その最優秀思想家の多くも少しは業務に與はらざるを得なかつたのである。

彼等は著實な産業の鍛錬に忍耐を持たなかつたからその沒落を來した

彼等は曾て貧乏の極端な壓迫を感じなかつた。地と海、太陽と空とは集つて、完全生活の物質的要件を得るを容易ならしめた。彼等の奴隷さへも多大の文化の機會を持つてゐた。然らずんば、希臘的性情の中にも、その時に世界が學んだ教訓の中にも、奴隷をして眞劍に働かしめるものは何もなかつたのである。希臘思想の優秀は希臘思想を試金石たらしめ、この試金石によつて後の時代の嚮導的思想家の多くは一々の新探求を試みたのである。學問研學者は往々經濟學を研究する忍耐を持たないが、之は大部分希臘人が業務上の不安な心痛と忍苦的作業とに忍耐を持たなかつたのに基いてゐる。

而かもなほ希臘の衰退から教訓を學ばうとすれば學び得た。希臘の衰頽は堅固な目的誠意性の缺乏によつて生じた。如何なる人種と雖も、著實な産業の鍛錬なくしてこの目的誠意性を數代續いて維持したものはない。社會的・知性的には彼等は自由であつたが、彼等

はその自由を善用することを學ばなかつた。彼等は自制を持たず堅忍不拔の決意を持たなかつた。彼等は營利的企業の分子たる著眼の敏速と新暗示の自在とを悉く持つてゐたが、企業上の目的堅固性と強い忍耐力とを持たなかつた。濕和な氣候は徐々に彼等の肉體的精力を弱めた。苦痛作業上の斷乎たる著實な持久力は性格を強固ならしめる守護者であるが、彼等はこの守護者を持たなかつた。遂に彼等は顧みられざるに至つた。

四　羅馬人と近代世界との間の經濟狀態の外見的類似は表面的である。併しストア派哲學と後期羅馬法律家の世界的經驗とは經濟思想・經濟行爲に著しい間接影響を與へた。

羅馬人の性格強固性は彼等をして業務に適せしめたが彼等は一般に戰爭と政治とを好んだ

文明は依然西に移動して羅馬を次の中心とした、羅馬人は一大國民と言ふよりは寧ろ一大軍隊であつた。彼等は業務を能ふ限り奴隷に一任する點に於て希臘人に似てゐたが、それ以外の多くの點に於ては希臘人との對照をなした。羅馬人は堅固な意思と鐵の如き決意とを示し成年男子は眞劍な確定目標へ傾倒した。アテネ人が淸新な生活充實性を示し、青春の歡喜をもつて一切才幹を自由に活躍せしめ自身の特徴を發達せしめたのとは反對である(10)。

(10) 希臘性情と羅馬性情との間の右の根本的反對はヘーゲルによつてその『歷史哲學』Hegel, Philosophy of History 中に明かにされた。『自由の最初の純眞な形式中にあつた希臘人については、彼等が自識を持たなかつたと斷じていゝ。何等の分析或は顧慮なくして國のために生きる習性は彼等の間に於ける最强力の原理であつた……主觀性は希臘世界を破滅に投じた』。又希臘人の調和ある詩の後に『羅馬人の散文生活』が續いた。この散文生活は主觀性と『若干任意目標の冷い無味な沈思』とに滿ちてゐた。ヘーゲルが間接に歷史的經濟學に盡した功績についてはロッシァー Roscher, Gesch. der nat. Oek. in Deutschland, §. 188 が親切な―但し偏頗な―讃辭を呈してゐる。なほモムゼン Mommsen, History の宗教についての諸章參照。本書はヘーゲルの影響を多大に受けてゐるやうに見える。なほ Kautz, Entwickelung der National-Oekonomie, Bk.I 參照。

羅馬の經濟狀態は或る點に於て形式は近代的であつた

特異なことには慣習の制肘から解き放たれてゐたため、彼等はそれ迄曾て知られてゐなかつた計慮的選擇を行つて自身の生活を自身のために形作つた。彼等は強健・豪膽であり、目的著實にして智略に富み、習性に於て秩序的であり、判斷に於て明快であり、かくて戰爭と政治とを好んだにも拘らず營利的企業に要する一切才幹を絶えず用ひてゐたのである。

團結の原理も亦た働いてゐないのではなかつた。自由民たりし技術工は貧窮であつたにも拘らず、商業ギルドはやゝ活力を持つてゐた。企業目的のためにする結合行爲の方法、及び工場奴隷勞働による大規模生産の方法に於ては、希臘人は東方諸國の弟子であつたが、これらの方法は羅馬に輸入されて新しい力を得た。羅馬人の才幹・性情は株式會社の經營に殊に適してゐた。比較的少數の大富豪―中產階級はなかつた―は訓練ある奴隷と奴隷

出身者との助力を借りて、國內・國外の陸上海上の大契約を行ひ得た。彼等は資本を嫌惡すべきものたらしめながらも、資本を强力ならしめ能率あらしめた。彼等は多大の精力をもつて貨幣貸附の機關を發達せしめた。又一には帝國々力の統一と羅馬言語の廣汎な流布との結果、羅馬帝國時代の文明世界を通じて若干重要點に於ては今日に比してさへ一層大なる商業自由・移動自由があつた。

然らば羅馬が如何に大なる富の中心であり、個々の羅馬人の資產が如何に巨大であり(この資產を凌駕したのは漸く近時である)その軍事・民事所要物資及び交通機關の如何に大であつたかを想起して見れば、多くの著述家が羅馬の經濟問題と吾々自身の經濟問題との大類似を見出したと思つたのは不思議であり得ない。併しこの類似は表面的であり錯覺的である。その類似はたゞ形式上にのみあつて、國民生活の生ける精神の上にはない。その類似は平民の生活の眞價を認知する所迄は行つてゐない。吾々の時代に於てはこの眞價の認知が經濟科學に最高興味を與へつゝあるのである(11)。

(11) 上記第一編第一章二を見よ。ロッシアーは一般には判斷の偏せぬ鋭い人であるが、右の誤解は或る程度迄彼の影響に歸し得る。彼は古代問題と近代問題との間の類同を指摘することを殊の外好んだのであつて、差別點をも指摘してはゐるが、なほ彼の諸著作の一般影響は誤解に導く傾を持つた。(彼の立場をよく批評してゐるのはクニース Knies, Politische Oekonomie vom geschichtlichen Standpunkte である。殊に第二版三九一頁を見よ)。

併し實質は全くさうではない

產業・商業は近時に至つて生命力を得來つたのであつて、古代羅馬の產業・商業にはこの生命力が缺けてゐた。古代羅馬の輸入品は劍によつて勝ち得たものである。それは熟練作業の生產物をもつて買つたものでなく、ヹニス或はフローレンス或はブリューヂュ Bruges の輸入品が、市民の尊い誇りとする熟練作業の生產物をもつて買はれたのとは違ふのである。交通も產業も共にそれから生ずる貨幣利得のみを眼目として追求された。業務生活の品位は世の蔑視によつて墮落してゐた。元老院議員が土地に關聯する業務を除いて一切形式の業務から『法律上且つ實際上實效的に制限』(12)されてゐたのは即ちこの蔑視の現れである。武士はその最も豐かな利得を收稅請負・屬國掠奪及び後には皇帝の寵愛から收め、一大國民的交易形成に要する廉直の精神と徹底的作業とを愛撫しなかつた。遂に私人企業は增加して已まぬ國家の陰影によつて窒息して了つたのである(13)。

(12) Friedländer, Sittengeschichte Roms, P. 225. モムゼン(History, Book IV. ch. XI.)は次のやうに迄言つてゐる—『交易・工業については言ふべき程のものは何もない。たゞ伊太利國民がこの點に於て野蠻に近い程不活動の中で辛棒してゐたと言ふだけである。……羅馬の私經濟學の唯一の光彩面は貨幣取引と商業とである』。ケアンズの『奴隷力』Cairnes, Slave Power の多くの箇所はモムゼンの『歷史』の近代的改譯を讀む觀がある。都市に於

てさへ貧困な自由羅馬人の運命は南部奴隷諸州の『見る影もない白人』mean white の運命に似てゐる。『ラティフンディアは伊太利の衰頽を招致せり』（譯者―坂西由藏教授著『經濟生活の歴史的考察』一一一頁の譯による）。併しラティフンディアは南部諸州の農場のやうな農場であつて英蘭の農場のやうなものではなかつた。羅馬の自由勞働の弱點はリーベナム Liebenam, Geschichte des römischen Vereinswesens に示してある。

(13) 右の一面はシュモラーによつてその古代商業會社論中に記述されてゐる。之は短かいものではあるが優れてゐる。彼は先づ一家族に屬する團體員のみから成る商業團體が原始民の間にさへ隆昌する所以を示して、更にその論ずる所によると(Jahrbuch für Gesetzgebung, XVI, pp. 740-2)近代型の如何なる企業團結と雖も、ソシエターテス・プブリカノルム Societates Publicanorum が持つてゐたやうな若干例外的特權或は特典を持たなかつたならば、到底古代羅馬の如き狀態の下には長く盛へ得なかつた。古代は多くの人々を『同じ帽子の下に』集め且つそこに留めて作業を共にせしめ得なかつたのに、吾々近代人が之に成功する理由は『今日は當時よりも知性的・德性的强固性の水準が高いこと、及び社會的同情によつて人の利己的商業精力を結束せしめる可能が當時よりも大なることにのみ之を求むべきである』。なほ Delomme, Les Manieurs d'Argent à Rome ブラウンの論文 W. A. Brown, State control of Industry in the fourth century, Political Science Quarterly, Vol. II; Blanqui, History of Political Economy, chs V. and VI; Ingram, History, ch. II を見よ。

併し彼等は近代財産法を創立した

ストア哲學と後期羅馬法律家の世界的經驗とにより

併し羅馬人は直接には經濟科學の進歩に殆んど寄與しなかつたとは言へ、なほ間接には近代法律の基礎を置くことによつて善きにも惡しきにもこの進歩に深い影響を及ぼした。羅馬にあつた哲學思想は總て主にストア派であつて、羅馬ストア派の大學者の多くは東洋出身であつた。彼等の哲學は、羅馬に移植されるに及んでその感情の强烈性を失ふことなくして非常な實際力を發揮した。その峻嚴味にも拘らず、その哲學は近代社會科學の暗示に類した多くのものを内に藏してゐた。その帝國の大法律學者の多くは卽ちこの思想の信奉者であつて、之によつて後の羅馬法の風を定め羅馬法を通じて一切近代歐洲法の風を定めた。今や羅馬國家は强固性を持ち、之によつて國家權利は希臘に於けるよりも早い階段に於て羅馬に於て民族・種族の權利を消滅せしめた。併し財産に關する原始的なアリアン思考習性は羅馬に於てさへ永い間殘つてゐた。家族員に對する家長の權力は强大ではあつたが、家長の管理した財産は個人としての家長に屬せずして寧ろ家族代表者としての家長に屬するものと長い間見られてゐた。併し羅馬が帝國となるに及んで、その法律家は多くの國民の法律上の權利の終極解釋者となつた。彼等は一切特定法典の基底に基本的な自然の法が隱れて存するものと信じ、ストア的影響の下にこの法の發見に取りかゝつた。之は正義の普遍的分子―偶然的分子に反對するものとして―を探求することであるが、この探求は共同保有權に對して有力な一分解藥として作用した。共同保有權に對しては地

方的慣例といふ理由以外には何等の理由をも與へ得なかつたのである。從つて後期羅馬法は徐々ながらも著々と契約の範圍を擴大し、契約に一層の精確性・彈力性・强固性を與へた。遂に殆んど一切の社會施設は契約の支配の下に立つに至り、個人財產は明白に分離され、個人は思ふ儘に之を取引し得るに至つた。近代法律家は、ストア的性格の廣汎性と高貴性とから高い義務標準を繼承し、ストア的性格の嚴肅な剛直性から個人財產權を鋭く確定する傾向を誘導した。從つて吾々現在の經濟制度の善利と害惡との多くは間接に羅馬的影響、殊にストア的影響にその根源を求めてゐる。一面に於て個人が自ら事に處するに當つての無拘束な活力の多くもさうであつた。他面に於て羅馬の法律系統は本來賢明・正義な主要原理を持つてゐたが故に堅い基礎を維持したものであるに、この法律統系によつて確立された權利を楯に少なからざる冷酷な不善も行はれたのである。

彼等は漸次契約範圍を擴大するに至つた

ストア主義はその東洋の鄉國から强烈な義務の念をも齎したが、この義務の念も亦た東方的靜寂主義の俤を持つてゐた。ストア派は善行に於ては主動的であつたとは言へ、世界の俗塵に超然たることを誇つた。ストア派が生活の俗務に携つたのは、かくすることが義務なるが故であつて、決してこの俗務に融和したのではない。その生活は哀調を帶びて犯し難く、自己の過失を悔いて心重苦しかつた。ヘーゲルの言ふ通り、內面的完成はたゞ自己放拋を通じてのみ到達し得る對象であると認められるに至る迄は、この內面的矛盾は消滅し得なかつた。かくして內面的完成の追求は一切社會作業に必然的に伴ひ來る過失と調和されるに至つた。この大變化のためには猶太人の强烈な宗教感情が途を準備してくれた。併し獨逸人種の深い對人愛情が基督教精神に新音調を與へるに至る迄は、世界は基督教精神の充實性に入る準備がなかつた。獨逸人の間に於てさへ、眞の基督教は徐々に步んでゐた。羅馬沒落の後長い間に亘つて西部歐洲は混沌としてゐたのである。

併し一新精神の要があつた

五

テユートン人は自ら征服した諸民から學ぶこと遲かつた。學藝を保存したのはサラセン人である。

テユートン人は自ら征服した諸民から學ぶこと遲かつた

テユートン人は强固であり決斷的であつたが、慣習と無智との束縛から身を解き放つに非常な困難を感じた。誠意性と忠實性(14)とはテユートン人に特殊の强固性を與へたものであるが、この誠意性・忠實性は家族・種族の制度・慣習を餘りに愛惜せしめる傾があつた。自ら征服した諸民―征服者よりも弱くはあるが文化は高い―から新觀念を採用する上に於ては、如何なる大征服人種と雖もテユートン人の如く受容性を缺いたものはなかつた。彼等はその粗野な强固性と精力とを自ら誇り、知識と藝術とを白眼視した。併し知識と藝術とは地中海の東海岸に一時の遁走所を求め、他の一征服人種が南から來つて之に新生命と新活力とを與へるのを待つてゐた。

(14) ヘーゲル (Philosophy of History, Part IV.) は問題の根柢に迄突き進んで、彼等の精力、彼等

の自由精神、彼等の絶對的剛直性（Eigensinn）、彼等の眞情性（Gemüth）、を語り『自由が彼等の第一標語である如く忠實性はその第二標語である』と附言する。

サラセン人に負へる吾々の負債

サラセン人は被征服民が教へる最善の教訓を熱心に學んだ。彼等は藝術と科學とを育成した。基督教世界が學藝の篝火の消える消えないに殆んど無關心であつた時代に、彼等はこの篝火を點じ續けたのである。之に對しては吾々は常に感謝せねばならぬ。併しその徳性的本性はテュートン人の徳性的本性のやうに充實してゐなかつた。溫暖な氣候と彼等の宗教の感覺性とは彼等の活力を急速に衰頽せしめ、彼等は近代文明の諸問題に殆んど全く直接影響を及ぼさなかつたのである(15)。

(15) 彼等の業績について光彩ある讃辭を述べてゐるのは Draper, Intellectual Development of Europe, ch. XIII である。

文明は後に北方及び西方に移動した

テュートン人の教育は右の場合よりも徐々にではあつたが確實に進歩した。彼等は文明を北方に齎し、その氣候に於ては繼續的苦痛作業は剛健な文化形態の徐々たる發達に伴つて進んだ。彼等は文明を太西洋に向つて西方に齎した。文明は久しい以前に河流の岸を去つて大內海の岸に移つてゐたが、遂に渺茫たる太洋の上を行くことになつた。

古の都鄙の爭鬪は復活した

併しこれらの變化は徐々に行はれた。この新時代が吾々にとつて興味ある第一の點は古の都市對國民の爭鬪が再開されたことである。この爭鬪は曾て羅馬の世界覇權によつて消滅したものであり、羅馬は實に一都市に參謀本部を置きながらその力を廣大な土地から引き出しつゝあつた一軍隊であつた。

六　人民自治は自由都市に於てのみ存し得た。

電信及び印刷機がなかつたため大國に於ける自由は貴族にのみ限られた

極く近年に至る迄、完全直接的な人民自治は一大國民に於ては不可能であつて、たゞ一都市或は極小領域に於てのみ存し得た。政府は必然少數者の掌中にあり、この少數者は自ら特權上流階級をもつて任じ作業者を下層階級として取扱つた。その結果作業者は、自身の地方事務の處理を許されてゐた場合に於てさへ、往々營利的企業の基礎として要する勇氣自立心及び心性的活動の習性を缺いてゐた。又事實の問題として、中央政府も地方大官も共に產業自由に直接干涉し、移住を禁止し、性質上最も負擔重い煩雜な租稅・通行稅を徵集した。名目上自由であつた下層階級の人々さへも、凡ゆる口實をもつてする恣意的な課金・公課によつて掠奪され、不公平な司法により、又往々直接暴力と公然の强奪とによつて掠奪された。これらの負擔は恰かも隣人以上に勤勉節約な人々の上に主として振り懸つた。若し國が自由であつたならば、大膽な企業精神は漸次これらの人々の間に起つて傳統慣習の束縛を切り放つて了つたかも知れないのである。

併し人民自治は都市に於ては可能であつた

都市に於ける人民の狀勢は甚だ違つてゐた。玆に於ては產業階級は數の上に於て强く彼等が支配權を全部握り得なかつた場合に於てさへ、田舍に於ける兄弟達とは違つて、治者

人民自治は今や初めて大國に於て可能となつた

と全く違つた人間階級に屬する如き取扱は受けなかつた。フローレンス及びブリューヂュに於ては古代アテネに於ける如く、全人民はその公共政策指導者からその方策と方策の理由とについて陳述を聽取し得たのであり、時には聽取したのであり、次の一歩に進む前に賛同或は不賛同の意を表して署名し得たのである。全人民は時々集つて時の社會問題産業問題を討論するを得、互に他人の忠言を知り、互に他人の經驗によつて利し、共同に斷乎たる決斷を與へ各々自己の行爲によつて之を實現した。併し電信・鐵道・安價印刷の發明ある迄は、この樣な事は總て廣大な地域に亘つては一つも行ひ得ないのであつた。

電信・鐵道・安價印刷の助けにより、今や國民は前日の夕方に國民指導者の發した言を翌朝讀むことが出來、一日を經ずして之に對する國民の判斷は相當よく知れ渡るに至つた。これらの助けにより大勞働組合の幹部會は僅かな費用をもつて、難問題を全國各地の組合員に傳へ、數日内にその判斷を求め得るに至つた。併し今日に至る迄は『人望ある政府』と呼ばれてゐたものも—外界的に必然に—多少とも廣い寡頭政治による政府であつた。僅かに政府の中心に頻繁に赴き得る少數者或は少なくともその中心から絶えず通信を受ける少數者のみが、直接政府に關與し得たのである。又政治の進行を十分に知り代表者の選出を通じて自己の意思を廣く實現した人の數は右よりも遙かに多數であつたとは言へ、なほこれらの人々さへも極く近年に至る迄は國民中の少數者であつた。代表制度そのものは近時のものに過ぎないのである。

七

中世都市は近代産業文明の直接先驅者であつた

中世に於ては、都市興亡の歴史は進歩の潮流の上に現れる逐次の波の高下であつた。中世都市は原則として交易・産業に淵源を有し、之を輕蔑しなかつた。富裕な市民は作業者を參與せしめずして時に一致した政府を樹立し得たが、長くその權力を保持することは稀であつた。住民の大多數は屢々全幅の市民權を持ち、市の對外・對內政策を自決し、同時に自ら手を下して作業しその作業を誇りとした。彼はギルドを組織し、之によつて彼等の結合力を强め自治を自修した。又ギルドは往々排外的でありその交易規制は終極に於て進歩を後れしめたとは言へ、なほこの衰頽的影響の現れる以前に優秀な任務を盡したのである(16)。

(16) 實際上自治權を持つてゐた大自由都市について眞なることは、英蘭の所謂自由區 free borough についても—程度は弱いが—眞である。自由區の自由の淵源は甚だ多樣であるが、自由區の構成に至つてはなほ一層多樣であつた。併し今日に至つて見れば、恐らく自由區は一時推定されてゐたよりも一般に民主的であり又それ程に寡頭政治的でなかつたものと思はれる。殊に Gross, The Gild Merchant, ch. VII. を見よ。

市民は精力を失ふことなくして文化を得た。彼等はその業務を疎かにすることなくして、業務以外の多くの事物に聰明な興味を持つことを學んだ。彼等は美術上の先導者とな

り戰爭の上に於ても後れを取らなかつた。彼等は公共目的のためにする巨額の失費を誇りとした。彼等は公共財源の細心の節用と明白清廉な國家財政と健實な業務原則に基いて公平に徵集される租稅系統とをも同樣に誇りとした。即ち彼等は近代產業文明への道を先導したのである。若し彼等が無障害にその進路を進んでその最初の自由愛好心社會平等を持續したならば、彼等は吾々が今になつて漸く直面し始めたのみなる多くの社會問題經濟問題の解決を恐らく遠い以前に行つてゐたであらう。併し長く動亂と戰爭とに煩されて後、彼等は遂に周圍の諸國の勢力增大に屈從した。實に彼等がその隣接者を支配した際には彼等自身の統治は往々殘忍壓迫的であつたから彼等が終極に於て田舍のために覆滅されたのは或る程度迄正義的な應報の結果である。彼等は自らの惡行に苦しんだ。併し彼等の善良な業績の果實は殘存し、吾々の時代が先行時代から繼承した社會傳統經濟傳統上の最善のもの丶多くの源泉をなしてゐるのである。

八　騎士道と教會との影響。大軍隊の發達は自由市の覆滅を來した。併し印刷の發明、宗教改革及び新世界の發見によつて進步の希望は再び生じた。

騎士道は貧民を保護しなかつた

封建制度は恐らくチユートン人種發達の一必要階段であつた。それは勢力階級の政治的能力を發揮せしめ下民に規律と秩序との習性を教へ込んだ。併しそれは外部的にやゝ優美な形式の下に肉體上德性上の多大の殘忍と不潔とを藏してゐた。騎士道の慣行は世間體の極端な婦人守護と家庭的暴政とを結び付けた。騎士階級に屬する鬪士に對しては厚い禮儀の細則を設けたが、この細則は下層階級取扱上の殘忍と誅求とによつて維持された。治者階級は素直且つ義狹的に責務を果すべきものと期待されてゐた(17)。治者階級の持つ生活理想は必ずしも高貴性を缺いてはゐなかつた。從つて彼等の性格は思想深い歷史家をも、又花々しい劇的戰爭と小說的出來事との年代記述者をも常に若干引付けるであらう。併し彼等の良心は自らの階級が要求する義務法典を守つて行動したときに滿足し、この法典の一條文は下級民をその地位に壓へ付けておくためにあつた。尤も彼等は日常接觸してゐる家臣には往々親切であり場合によつては情深かつたものである。

(17) 併し陰謀は伊太利都市には普通であつて北方地方の城砦にも極く稀ではなかつた。人は暗殺と毒殺とによつて知人の死を計つた。主人役はその賓客に進める飮食物を毒味すべきものと往々期待されてゐた。畫家が見出し得る限りの最も高貴な顏を畫布に畫き高貴ならざる點を能ふ限り隱すのは正しい。同樣に通俗歷史家が歷史的繪畫を畫き、高貴な男女の生活を高く浮彫として表し他面彼等の周圍の邪惡を多く面紗(ヹール)をもつて覆ひ隱し、之によつて青年の競勵心を鼓舞するも正當視してよからう。併し吾々が世界の進步の棚卸しをしやうとする場合には、過去の時代の害惡を事實在りの儘に計上せねばならぬ。吾々の先祖を買ひかぶることは即ち人

類最善の希望を値切ることである。

教會は或る點に於て經濟自由の發達を助けた

個人的困苦の場合については教會は弱者を守り貧民の困窮を減じた。教會の僧職は高潔な人物を引付けてゐたから、若し彼等が獨身誓言から解き放たれて巷に出で得てゐたならば、恐らく彼等は往々一層廣い一層良い影響を與へたかも知れなかつた。併し之は決して僧侶、更に著しくは修道僧が貧民階級に致した福利を輕視する理由にはならぬ。修道院は產業の鄉土であり、特に農業の科學的取扱の鄉土であつた。修道院は知識者の安全な大學であり、困窮者の病院であり慈惠院であつた。教會は大小の事件に當る和解者であり、教會の權威の下に開かれた祭典と祭市とは交易に自由と安全とを與へたのである(18)。

(18) 吾々は『ウズラ』usury 及び或る種の交易に對する教會の非難を恐らく餘りに重視し勝ちである。當時は企業用資本貸附の範圍は極く狹く、例へ禁止があつても多くの拔け道があり、この拔け道の若干は實に教會自身が默認してゐたのである。聖クリソストムSt Chrysostom はかう言つた―『少しも手を加へずにその儘處分して利潤を收めるために一物品を求める者は神の殿堂から追放される』と。さは言へなほ教會は商人が祭市及びその他で財を買ひ少しも手を加へずに之を賣ることを奬勵した。教會及び國家の權威と人民の偏見とは合して、利潤を得て小賣せんがために財の大量を搬入した者を妨害した。併しこれら人民の企業は多く合法的交易であつたとしても、中には確かに近代物產市場に於ける『聯合買占』及び『買占申合』に類同してゐた。カノニスト Canonist 學說に關するアシュレー Ashley, History の優れた章及び之についてのヒューインス Hewins (Economic Review, Vol. IV) の論を參照。

併し之を妨げた點もある

更に教會は世襲階級(カスト)的排他性に對する常設的抗議であつた。教會はその組織に於て民主的なること恰かも古代羅馬の軍隊の如くであつた。それは人の身分を問はず最能力者を常に喜んで最高の地位に引上げた。その僧侶及び修道僧階級は民衆の肉體的・德性的福祉に盡す所大であつた。それは時に彼等をして公々然と治者の暴政に反抗せしめることさへあつたのである(19)。

(19) 教會は十字軍を起して間接に進歩を助けた。之についてイングラム Ingram, History ch. II. の言ふ所は當つてゐる。それによると十字軍は『封建領主の所有物を多くの場合に產業階級に移し、之によつて力強い經濟結果を引起した。他面諸國民及び諸人種を接觸せしめ、人の眼界を擴大し想念を廣め、又特に航海を刺戟し、之によつて國際貿易に新活動を與へる傾があつた』。

併し他面に於て教會は民衆を助けてその自己信賴と剛直との才幹を養ひ眞の內面的自由を得せしめやうとはしなかつた。一面に非凡の天賦技倆を有する者がその地位を通じて最高の地位に上るを許しながら、封建制度の力が作業階級を蔑視して之を無智な集團として企業心を缺き凡ゆる點に於て上位者に依賴するものとしておかうとする努力を妨げずして反つて助けたのである。テュートン人種の封建制度はその本能に於て古代羅馬の軍

事的支配よりも親切であつた。俗人も僧侶も人間の人間としての尊嚴については基督教の教へ—例へ不完全に理解されてゐたにしても—に影響されてゐた。それにも拘らず中世初期の田舎地方の治者は、神政的世襲階級(カースト)の東洋的煩瑣性と規律決斷の羅馬的威壓力とに於ける最も力强いものを兼備してゐた。彼等は力を合せ、民衆中の下層階級の强固性と性格の獨立性との發達を大體に於て害する如くにこの力を用ひたのである。

都市の衰滅

　さりながら封建制度の軍事的威壓力は長く地方的嫉妬心によつて弱められてゐた。一カール大帝の天才の下に一大地域の政府を生きた一個の全體に合一するに甚だ適してゐた。併しその先導的天才が去るや否やその構成分子に解體する傾も同樣に强かつた。伊太利は長く自國諸都市に支配されてゐた。その諸都市の一は實に羅馬の系統に屬し羅馬的野心と頑强な目的とを持つて極めて近時に至る迄一切攻撃に對してその水路を保持し來つた。和蘭その他大陸諸地に於ては自由都市は永く周圍の王侯の敵對心を無效ならしめ得た。併し遂に安定な王國は墺太利西班牙佛蘭西に建設された。專制王國は少數の有能者を登用して無智剛健な田舎人の非常な多數を集めてその軍力を訓練し組織した。自由都市の企業的精神、その產業と文化との高貴な結合は、その初期の誤謬の埋合せをする暇もなく中斷されて了つたのである。

印刷の發明

　若しその時恰かも新しい力が起つて束縛の絆を斷ち廣大な地域に亘つて自由を普及せしめなかつたならば、世界は退步したかも知れなかつた。極めて短い期間内に印刷の發明、文藝復興、宗教改革及び新世界と印度とへの海路の發見が起り來つた。これらの事件はその何れか一だけでも既に歷史に一時代を劃するに十分であつた。併しこれらは一時に起つて而かも總て同方向に作用したため、これらの事件は完全な革命を實現したのである。

宗教改革及び新世界の發見

　思想は比較的自由になつた。知識は民衆の全然近づき難いものではなくなつた。希臘人の自由な性情は復活した。强固な剛直精神は新たな力を得て他にも影響を及ぼし得るに至つた。又新大陸は思慮深き人に新問題を暗示し、同時に大膽な冒險者の企業に新天地を與へた。

九　海上發見の福利は最初先づ西班牙半島に歸したが、やがて移動して和蘭、佛蘭西及び英蘭に歸した。

海上發見の福利は最初先づ西班牙半島に歸した

　新海上冒險を先導した諸國は西班牙半島の諸國であつた。世界の指導權は最初先づ地中海の最東の半島に歸し、そこから中央半島に移動したが、この當時は暫くこの指導權が地中海と太西洋とに跨る西部半島に再び歸するかの如くであつた。併しこの時迄に產業の威力は北方の氣候に於ても富と文明とを維持するに足る迄になつてゐた。西班牙葡萄牙は北方民族の一層持久的な精神と一層寛大な精神とに對して長くその地位を保ち得なかつたのである。

併しやがて移動して和蘭に移り

和蘭人の初期の歷史は實に輝かしい小說であつた。彼等は漁業と機織とに基礎を立てゝ藝術と文學、科學と統治の高貴な構造物を立てた。併し西班牙は、昔波斯が行つたやうに、この擡頭しつゝある自由精神を破碎しやうとかゝつた。波斯がイオニアを抑壓しながら反つて希臘本土の精神を高揚せしめたのみなる如く、墺西帝國は伯耳義系和蘭を克服しながら獨逸系和蘭と英蘭との愛國心と精力とを强めたのみであつた。

英蘭は和蘭の商業に嫉妬を感じ、和蘭はこの嫉妬に苦しめられたが、更にそれよりも佛蘭西の已み難ない軍事的野心に苦しめられた。やがて和蘭が佛國の侵掠に對して歐洲の自由を擁護しつゝあることが明かとなつた。併し和蘭はその歷史上の危機に於て新教的英蘭から正に期待すべかりし援助を奪はれて了つた。尤もこの援助は一六八八年以後豐かに與へられたが、その時は既に和蘭の最勇敢な最沒我的な子供達は戰場の露と消えてゐて和蘭は過重の債務に苦しんでゐた。和蘭はその地位を落した。併し他の一切諸國民は和蘭が何を爲したか又和蘭が自由と企業とのためにそれ以上何を爲し遂げるであつたらうかを認めざるを得ない。分けても英吉利人はさうである。

佛蘭西に移り

かくて佛蘭西と英蘭とが殘つて海上帝國を爭ふことゝなつた。佛蘭西は他の北方諸國の何れよりも豐かな自然資源を持ち、南方諸國の何れよりも强い新時代精神を持ち、暫くの間世界の最强國であつた。併し佛蘭西は絶え間ない戰爭にその富を浪費して了つた。宗

教的迫害によつて未だ佛蘭西から驅逐されてゐなかつた市民中の最優秀の人々の血を空費した。覺醒は增進したが被治者に對する治者階級の雅量及び支出上の賢明は齎されなかつた。

英蘭に歸した

虐げられた佛蘭西人は治者に對して反抗したが、この反抗の主な刺戟は革命的なアメリカから來た。併し佛蘭西人はアメリカ殖民者の特色であつた自制的自由を著しく缺いてゐた。彼等の精力と勇氣とは再び大ナポレオン戰爭に現れた。併し彼等の野心は大に過ぎて終極に於て海上企業の指導權を英蘭に讓つた。即ち新世界の諸產業問題は英吉利人の性格の直接影響の下に發展しつゝある。舊世界の諸產業問題も或る程度迄その間接影響の下に發展しつゝある。然らば轉じて吾々は英蘭に於ける自由企業の發達を右よりもやゝ詳細に辿つて見たい。

一〇　英吉利人の性格は既に早く組織行爲に適する近代的才幹の徵を示した。資本主義的農業組織は資本主義的工業組織の前驅をなした。

英吉利人の性格

英蘭はその地理上の位置によつて北方歐洲の諸最强人種の最强者の住む所となつた。自然淘汰過程は最も豪放であり自己信賴的であつた逐時の移住者の波に屬する人々をその海岸に引寄せた。その氣候は北半球の何れの氣候よりも精力を維持するに適してゐた。

英蘭は高山によつて細分されてゐない。その領土の何れの部分も通航水路から二十哩以上は隔つてゐない。かくてその各部分間の交通の自由には何等の物質的障害がなかつた。他方ノルマン王朝及びプランタヂネット王朝の諸王の强固性と賢明な政策とは地方の大官が人爲的妨害を設けることを防いだ。

羅馬が歴史上に於て勤めた役割は、一大帝國の軍力と一都市にあつた寡頭政治の敢爲力と目的把持性とを兼備してゐたのに主として基いてゐる。同樣に英蘭は、中世都市の自由な性情の多くと一國民の强固性及び廣汎な基礎とを兼備してゐた——恰かも和蘭がその以前に小規模に之を兼備してゐた如く——がためにその大を來した。英蘭の諸都市は他の諸國の都市程に顯はれてゐなかつた。併し英蘭は他の何れの諸國よりも容易に都市を同化し、かくて結局に於て都市によつて最も利益したのである。

長子相續の慣習は貴族家庭の次男以下の子弟をして自己の運命を開拓せしめる傾があつた。彼等は何等特殊の世襲階級的特權を持たなかつたため直ぐ樣平民の間に交つた。かくの如き各種社會層の混和は政治を業務的にする傾があつた。他方之は高貴な血に萢る豐かな豪放な小說的憧憬を企業冒險の血管に加へて之に熱を與へた。英吉利人は一面に於て暴政に決然反抗し他面に於てその理性が正當視する場合には權威に決然服從する。之によつて英吉利人は多くの革命を起したが、その革命は何れも明確な目的を持たなかつた。

未だ農業國民であつた際にその組織行爲に適する近代的才幹の徴を示した

た。一面に憲法を改正しながら法律を遵奉した。秩序と自由とを如何に結合するかを知つてゐたのは（和蘭人を除けば）彼等のみであつた。過去を徹底的に追慕しながら過去よりも寧ろ將來に生きる力を兼備したのは彼等のみであつた。併し英蘭をして後年工業進步の指導者たらしめた性格强固性は最初先づ主として政治・戰爭・農業に現れた。

英吉利のアーチアー archer は英吉利技術工の前驅者であつた。彼は技術工と同樣にその大陸競爭者に比して食物と體格との優秀なるを誇りとした。彼は手の完全な扱ひ方を知る上に同樣の不撓不屈の忍耐力を持つてゐた。同樣の自由獨立性と同樣の自制力と同樣に一旦緩急時に處する力とを持つてゐた。適當な場合には諧謔に耽りながら、危機に當つては艱難・不幸に直面してもなほ規律を保つといふ同樣の習性を持つてゐた(20)。

(20) 統計的比較の目的のためにはヨーマン yeoman は今日の中產階級と同列に置くべきであつて技術工と同列に置いてはならぬ。何となれば彼以上に豐かな生活をしてゐた者は非常に少數であり、他方社會の大衆は遙かに彼以下であり殆んど總ての點に於て今日よりも貧しい生活をしてゐたのである。

併し英吉利人の產業才幹は長い間潛伏してゐた。英吉利人は文明の快適品・奢侈品を知ることも之を求めることも先祖から繼承しなかつた。一切種類の工業に於て彼等はラテン諸國・伊太利・佛蘭西・西班牙にも後れ、北方歐洲の諸自由都市にも後れた。漸次富裕階級は

英吉利人の貿易は生産上及び航海上の活動の結果であつた

輸入奢侈品にやゝ嗜好を覺え、英蘭の貿易は徐々に增加した。

併し長い間に亘つて英蘭の將來の商業の徴候は表面に現れなかつた。之は實にその特殊事情の產物であると共に—例へこれ以上に有力なものではなくとも—英吉利人の何等かの生來の性向の產物である。英吉利人は取引及び契約を殊に好んだのではない。又金融業務の最も抽象的な部面即ち猶太人・伊太利人・希臘人・アルメニヤ人の間に見る如き部面をも殊に好んだのではない。本來この性質を持たなかつたのであり今日も持つてゐない。これらの人種との交易は常に牽制的・投機的結合の形式を取らずして寧ろ行爲の形式をとつた。今日に於てさへ倫敦株式取引所の最も微妙な金融投機は英吉利人の行爲才能と同樣の交易才能を相續した人種によつて主に行はれてゐる。

資本主義的農業組織は資本主義的工業組織の前驅をなした

英蘭は後の時代に至つて種々の事情の下に世界を踏査し他の諸國のために財を作り之を運搬した。英蘭をして之をなさしめた素質は既に中世に於て近代農業組織の前驅をなさしめ、之が模範となつて他の大多數の近代業務は之に從つて成型された。英蘭は卒先して勞働徭役を貨幣支拂に轉化した。この變化は各人が自己の自由選擇によつて生活方針の進路を定める力を大いに增加した。善いにも惡いにも、人は解放されて土地の權利及び土地附屬の義務を交換し得るに至つた。かくの如き慣習の束縛弛緩は次の事情によつて促進された。即ち十四世紀の黑死病に續く實質賃銀の大增加により、なほ銀の減價により、鑄貨の惡化により、修道院の收入を宮廷豪奢の目的のために沒收した結果として十六世紀に生じた實質賃銀の大低落にもよる。なほ最後に飼羊農業の發展にもよる。飼羊農業の發展は多數勞働者をその故鄉から流出せしめ、故鄉の殘存者の實質所得を減少し生活樣式を變化した。この運動はテューードル王朝の手に王權が增大したによつて更に擴大した。この王權の增大は民間戰爭を鎭定せしめ貴族（バロン）及び豪族が共に養つてゐた家臣を無用ならしめた。當時の風として、不動產は長子に讓り動產は家族全員に分配する習性であつたが、この習性は一面に於て土地財產の大さを增大し、他面に於て土地所有者が土地經營のために有する資本を減少した(21)。

(21) ロージァースの言ふ所によると、十三世紀に於ける耕作地の價値は之が經營に要する資本の三分の一に過ぎなかつた。又彼の信ずる所によると、土地所有者が自作の習性を持つてゐた間は長子は往々種々の拔け道を作つて弟達にその土地の一部を割讓し之と交換に弟達の資本の一部を得やうとした。Rogers. Six Centuries of Work and Wages, pp. 51, 2.

これらの原因は英蘭に於て地主と耕作者との關係を作り上げる傾を持つた。他方英吉利工作品に對する外國の需要があり外國製奢侈品に對する英吉利の需要があつたため、多數の保有地は大飼羊場に集中して資本主義的農業家に經營された。殊に十六世紀に於て

さうであつた。卽ち農業家の數は大いに增加した。農業家とは農業經營を行ひ危險を負擔し、若干の自家資本を供給しながら定額年支拂によつて土地を借り賃銀を支拂つて勞働を雇用した人々である。恰かも後に新英吉利企業家階級が工業經營を行ひ危險を負擔し、若干の自家資本を供給しながら殘餘の資本は利子を支拂つて之を借り賃銀を支拂つて勞働を雇用したと同樣である。自由企業は急速猛烈に發達し、その作用に於て一面的であり貧民に對して殘酷であつた。併し借入資本によつて經營される英吉利大農場―耕作農場及び牧畜農場―が英吉利工場の前驅者であつたのは依然として眞である。恰かも英吉利アーチァーが英吉利技術工の熟練の前驅者であつたと同樣である(22)。

(22)　この平行關係(パラレリズム)は更に第六編に開展してある。殊に第九章五を見よ。

二　宗敎改革の影響。

英蘭の産業は宗教改革の基礎精神に著しく影響された

その間に英吉利的性格は深化しつゝあつた。英蘭の海岸に定著した嚴格な人種は生來沈著・勇敢であつた。この性質はこれらの人種をして宗敎改革の敎義を包容せしめるに至つた。これらの敎義は更に彼等の生活習性に反作用し、彼等の産業に音調を與へた。人は言はゞ何等の人間的媒介者なしに創。造。者。の面前に導かれ、玆に初めて多數の粗野・無敎養の民衆は絕對的靈性的自由の神秘に憧れたのである。各人の宗敎的責任が同胞の宗敎的責任から遊離してゐること(正しく解して)は最高の靈性的進步の一必要條件であつた(23)。併しこの觀念は世界にとつて新しいものであつた。それは赤裸々な裸體であつて、未だ快い本能の衣を著けてゐなかつた。情深い性質の人々に於てさへも、個性は輪廓の堅い鋭さをもつて現れた。他方無情な性質の人々は自己意識的となり主我的となつた。殊に淸敎徒の間に於ては宗敎的心情に論理的固定性・精確性を與へんとする熱心が傾倒的熱望となつて一切の輕い思想と輕い娛樂とに反對した。一旦事ある場合には彼等は團結行爲を爲すことが出來、この行爲は彼等の斷乎たる意思によつて當る可からざる底のものであつた。併し彼等は餘り社會を樂しみとしなかつた。彼等は公共娛樂を避け、家庭生活の靜かな慰安を好んだ。又彼等の一部が藝術に敵對する態度をとつたことも告白せねばならぬ(24)。

(23)　宗敎改革は『個。性。の……肯定であつた……個性は生活の合計ではない。それは吾々の本性及び作業の凡ゆる部面に於ける又部分のため及び全體のためにする吾々の作業に於ける生活の一本質的部分である。我々が孤獨で―神と共に―生死せねばならぬといふことは必ずしも全部の眞理ではないが眞である』。Westcott, Social Aspects of Christianity, p. 121. なほ Hegel, Philosophy of History, Part IV. sect. iii. ch. 2 參照。

(24)　若干形式の藝術の放縱性は眞面目な―但し狹量な―精神の中に一切藝術に對する偏見を作つた。その復讐として今日社會主義者は宗敎改革を罵倒し人間の社會的本能と藝術的本能との兩者を害したとしてゐる。併し宗敎改革が生んだ感情の嚴肅性が藝術を害したよりも以上にこの感情の强度が藝術を豐かにしたのではな

この精神は次の社會生活階段に必要な強固性を作つた

いかは問題としていゝ。この感情は特有の文學と音樂とを發達せしめた。例へこの感情は人をして人間自身の手に成る勞作の美を輕視せしめたとしても、確かに自然美尊重の力を增した。風景畫が改革宗教の行はれた諸國に最も負ふ所あるは決して偶然ではない。

強固性の最初の發達はその當時何等か粗暴・野卑な點を持つてゐた。併しこの強固性は進步の次の階段のために必要であつた。それは多くの災厄によつて淨化され緩和されるを要した。その周圍に新本能が發達して舊共同傾向中の最優美・最健實なものを一層高級な形態で復活せしめる以前に、この強固性は脆弱とならずして而かも我執の度を減ずるを要した。それは現世感情中の最も豐かな最も充實したものたる家族的愛情を強めた。恐らくこれ以前には社會生活の高貴な構造物を立てる材料としてかく迄強いと同時に精巧な組織材料は未だ曾てなかつたのである。

かくの如く大試錬は中世を終結せしめた精神飛躍によつて開始され、和蘭その他の諸國は英蘭と共にこの大試錬を受けた。併し多くの視點から殊に經濟學者の視點から見れば、英蘭の經驗は最も敎訓に富み最も徹底的であり他の一切諸國の典型的なものであつた。英蘭は自由且つ剛直な精力と意思とによつて產業企業の近代的進化の魁となつたのである。

一二

英吉利人の性格の冒險性は大陸からの逃亡技術工を吸引したことによつて強められた

英蘭の產業的・商業的特性は次の事實によつて強められた。それは他の諸國に於て新敎義をとつてゐた者の多くが宗敎的迫害を避けて英蘭の海岸に安全な避難所を求めたことである。佛蘭西人・フランダース人その他の中には英吉利人に最も近い性格を持ちその性格によつて工業技術的作業の徹底性を研究するに至つたものがある。これらの人々は一種の自然淘汰によつて英吉利人と混和し英吉利人にその性格上生來適する技術を敎へた(25)。十七世紀・十八世紀を通じて宮廷と上流階級とは多少とも不眞面目であり放縱であつた。併し中產階級と勞働階級の一部とは嚴肅な生活觀を採つてゐた。彼等は作業を中斷する娛樂を餘り喜ばず、間斷なき苦痛作業によつてのみ得られる物質的快適に關して高い標準を持つてゐた。彼等は單に祭禮と虛飾との目的に適するのみなる物よりも、寧ろ質實な耐久的利用を持つものを生產しやうと努めた。この傾向は一旦生じた後は氣候によつて促進された。何となればその氣候は甚だしく峻烈ではないが輕い娛樂には殊に不適當であり、衣服・住居その他この氣候に於ての快適な生存の要件は殊に高價な性質の物であるからである。

(25) 歷史家は英蘭がこれらの移住民に負ふ恩義を常に重要視してゐたが、スマイルス Smiles の示す所によるとこの恩義は歷史家が推定したよりも更に大である。

以上が卽ち英蘭の諸條件であつて、これら條件の下に於て英蘭の近代産業生活は發達したのである。物質的快適に對する願望は、毎週から得られる限りの最大作業量を略取するため絶えず苦心を要求する傾を持つた。英吉利人は斷乎たる決意をもつて一々の行爲を理性の計慮的判斷に服せしめるのであるが、この決意は各人をして自己の業務を變じ或は業務を營む方法を變じて自己の地位を改善し得るや否やを絶えず自問せしめる傾がある。又最後に完全な政治的自由と保安とがあるため、各人は自己の行動を利害の打算によつて調節し自己の一身と財産とを恐るゝ所なく遠い新企業に傾倒し得たのである。

要するに英蘭及びその殖民地をして近代政治に音調を與ふるを得せしめた原因と同じ原因が、近代企業にも亦た音調を與へしめたのである。彼等に政治的自由を與へた素質と同じ素質が産業・商業上の自由企業をも與へたのである。

一三

英吉利企業は海の彼方に消費者が增大して單純型の多量財を欲したために促進された。企業者は最初單に供給を組織するのみで産業を監督しなかつたが、後にはその職工を工場に集めるに至つた。

英吉利自由企業は自ら分業を來す

産業・企業の自由は、その作用の及ぶ限りに於ては、各人をして最有利所に自家勞働・資本の雇用を求めしめる傾がある。之は更に各人をして所要品の購入手段を得る途たる若干特定任務に於て特殊の熟練と便宜とを得んことを試みさせる。玆に於て複雜な産業組織と之に伴ふ多くの細密な分業とが生じたのである。

傾があつた

若干種の分業は元より如何なる文明にも生ずるに違ひない。如何に文明形態が原始的であらうとも文明が長く歸一してゐればいゝ。極めて未開の諸國に於てさへ高度の特化生産業を見る。併し各生産業內の作業が分割されて、企業の計劃・配置、その經營及び危險が一類の人々に負擔され、他方之に要する手工作業は雇用勞働によつて營まれるといふことは未だ見ない。この分業形態は近代世界の一般特色であると同時に特に英吉利人種の特色である。それは單に人間發達上の一通過部面であるかも知れぬ。それは之を發生せしめた自由企業の今後の發達によつて一掃されるかも知れぬ。併し現在としては、それは善きにも惡しきにも顯著に現れてをり、近代文明形態に於ける主要事實であり近代經濟問題の核心である。

殊に企業經營上の分業への傾向

今日迄産業生活に起つた變化の中で最も致命的な變化は右の企業者 Undertaker (26) の發達を中心としてゐる。吾々は既に英蘭の農業の初期階段に企業者が現れた所以を明かにした。農業家は地主から土地を借り必要勞働を雇用して、自らは企業の經營と危險とに對して責任を負つた。農業家の淘汰は元より完全な自由競爭に支配されてゐなかつた。それは或る程度迄相續その他の影響に制限され、これらの影響によつて農業的産業の指導

權は農業に特種の才能を持たぬ人々の手に落ちたこと往々である。併し英蘭は自然淘汰が何等かの程度に於て著しく働いた唯一の國である。大陸の農業制度に於ては出生の偶然が土地耕作或は耕作統制上の各人の役割を決定した。かくの如く英蘭に於ける淘汰力は狹かつたがなほ之によつて得た精力と彈力性とは他國に於けるよりも大であつて、英吉利農業が一切他國の農業よりも進歩するに十分であり、英蘭は之によつて歐洲の如何なる他國に於けるよりも遙かに多くの生產物を等量の勞働によつて同樣の土壤から收めることが出來たのである(27)。

(26) この用語はアダム・スミスの權威を帶びてをり大陸では慣用されてゐるものであつて、組織的產業の作業上に於て企業の危險及び經營を任とする者を指示するに最もいゝやうである。

(27) 殊に十八世紀後半に於て農業改良は非常に急速に進歩した。一切種類の農具は改良され、排水は科學的原理に基いて行はれ、農場家畜の飼育はベークウェル Bakewell の天才によつて革命された。蕪菁・ツメクサ・ライ草その他が一般に用ひられるに至り、休閑による土地更新法を廢して『交替耕作』法を採用するを得せしめた。右その他の諸變化は絕えず土地耕作用資本を增加した。他方貿易によつて財產が增大したため、大財產を買ひ取つて地方社會に入り込むことが出來且つ之を欲する人々の數は增加した。かくの如く凡ゆる方面に於て近代商業精神は農業上に普及したのである。

及び產業地方化への傾向

併し企業し組織し經營するについての最適者の自然淘汰は右よりも工業に於て遙かに大なる力を發揮する。工業上に於ける企業家發達の傾向は英蘭の外國貿易の大發展に先つて生じた。事實に於てその痕跡は十五世紀の羊毛工業にも見る。併し新國に於ける大市場の開放はこの運動に一大刺戟を與へた。それは直接の影響により、同時に產業地方化即ち特定生產部門の地方的集中に及ぼす影響を通じてゞあつた。

海の彼方に消費者が增大して單純型の財を欲したためこれらの傾向は促進された

中世の祭市及び遊動商人についての記錄の示す所によると、一二の地方にのみ生產されて、そこから全歐洲に亘つて東西南北に分配された物が多く存した。併し地方化生產によつて遠隔地に移動した商品は、殆んど常に高價な小形品であつた。安價な重量財は各地方で之を自給した。さりながら新世界の殖民地に於ては、人は常に必ずしも工業品を自給する餘裕を持たなかつた。彼等は往々自製し得る物さへもその製作を許されなかつた。何となれば英蘭の殖民地取扱方は如何なる他の諸國の殖民地取扱方よりも寬大であつたにも拘らず、なほ英蘭は殖民地のために費した失費を理由として殖民地を强制し殆んど一切種類の工業品を英蘭から買はしめていゝものと考へたからである。なほその外に印度及び野蠻人種に賣るべき單純財の大需要があつた。

これらの原因は重工業作業の多くを地方化せしめるに至つた。職工の高度訓練ある熟

企業者は最初單に供給を組織するのみで産業を監督せず之は依然小親方によつて行はれてゐた

練と微妙な意匠とを要する作業に於ては、組織は時に二次的重要性を持つのみである。併し多數人を組織する力量は、少數單純型の財の全船腹積荷に對する需要がある場合には、不可抗的な長所を與へる。卽ち地方化と資本主義的企業者制度の發達とは兩々相並ぶ平行運動であつて、何れも同一の一般原因に基き、何れも互に他の進行を促進するものである。

工場制度と工業上の高價要具使用とは後の階段に於て起つた。これらは企業者が英吉利産業に於て把握する勢力の根源であると思はれてをり、疑もなくこの勢力を增大した。併しこの勢力はこれらのものゝ影響が感ぜられる以前に旣に明かに現れてゐた。佛蘭西革命の當時は、水力によつて運轉されると蒸氣力によつて運轉されるとを問はず、機械に多大の資本が投下されてゐなかつた。工場は大ならず、工場の數も多くなかつた。併し英蘭の殆んど一切の纖維工業は當時下請制度の下に營まれてゐた。この産業は比較的少數の企業者によつて統制されてをり、これら企業者は何を何處に何時賣買するが最も有利なるか、何物を作らしめるが最も利益なるかを見出さうとしたのである。それから彼等は全國に散在する多數の人々にこれらの物の製作を下請けさせた。企業者は一般に原料を供給し、時には單純な使用用具迄も供給した。下請けをした者は自身及び家族の勞働によつて之を履行し、時には―併し常にではなかつた―少數の補助者をも用ひた。

時の經過すると共に、機械的發見が進步して勞働者は層一層と水力に近い小工場に集められるに至つた。蒸氣が水力に代用されるに至つては大都市の大工場に集められるに至つた。卽ち大企業者は富裕な雇主に地步を讓り始めた。前者は工業の主要危險を負擔しつゝも直接に經營・監督を行はなかつた。後者は工業の全業務を大規模に營んだ。最も不注意な觀察者と雖もこれら新工場に注意を引かれた。實際その生産業に從事せぬ者でさへも右の最後の運動は看過し易くなかつた。この點はその前の運動の場合とは異なるのである(28)。

(28) 一七六〇年をもつて始まる四分の一世紀に於て、工業上の改良は農業上に於けるよりも一層速かに續出した。この期間に於て重量財の運送は安價となつた。之を安價ならしめたのは、ブリンドリー Brindley の運河であり、ワット Watt の蒸氣汽罐による動力生産であり、コート Cort 式錬鐵・輾鐵過程と當時稀少となつてゐた木炭に代へて石炭を用ふるローバック Roebuck 式熔鑛法とによる鐵の生産である。ハーグリーヴズ Hargreaves クロムプトン Crompton アークライト Arkwright カートライト Cartwright その他は多軸紡績機・走錘精巧紡績機・梳毛機・力織機を發明し或は少なくも經濟的に有用ならしめた。ウェッヂウッド Wedgwood は當時旣に急速に發達しつゝあつた陶器業に大刺戟を與へた。輪轉機印刷、化學藥品による漂白その他の過程にも重大な發明があつた。この期間の最終年たる一七八五年に初めて一工場が直接蒸氣動力によつて運營された。十九世紀初頭には蒸氣船・蒸氣印刷機が起り都市點燈用に瓦斯が

併し漸次企業者は多數勞働者を工場に集めるに至つた爾來工業勞働は卸賣的に雇用された

用ひられた。鐵道運轉・電信・寫眞はやゝ之に後れた。これ以上の詳細についてはクラプハム教授 Clapham, Cambridge Modern History, Vol. X 中の光彩ある章を見よ。

かくて既に永く進行しつゝあつた産業組織上の大變化は遂に世上の注意を促したのである。作業者自身によつて統制される小企業制度が資本主義的企業者の特化能力によつて統制される大企業制度のために驅除されつゝあることが明かとなつた。この變化は、例へ工場がなかつたとしても、事實進展した通りに進展したであらう。又例へ電氣その他の動力が小賣的に配給されて今日工場に於て營まれる作業の一部を作業者の家庭に移すとしても、この變化は進展するであらう(29)。

(29) Held, Sociale Geschichte Englands, Bk. II. Ch. III を見よ。

一四　それ以來工業勞働は卸賣的に雇用され、この新組織は大害惡を伴つた。さりながらその害惡の多くはそれ以外の諸原因に基いてをり、他方この新制度は英蘭を佛國軍隊から救つた。

從來の束縛は、殆んど總ての人を拘束して自己の生れた教區に住ましめたのであるが、右の新運動は—その初期の形態に於ても後期の形態に於ても—絶えずこの束縛を解く傾があつた。この新運動は勞働の自由市場を發展せしめ、この市場は人を引寄せて雇傭を求める機會を捕へさせた。この變化の結果として勞働價値決定原因は新性質を持ち始めた。

この新組織は大害惡を伴つたがその害惡の多くはそれ以外の諸原因に基いてゐた

十八世紀に至る迄は工業勞働は原則として小賣的に雇用された。尤も卸賣的に雇用し得る流動的な大勞働階級はそれ以前に於て大陸及び英蘭の特定場所の産業史上に著しい役目を勤めてゐた。十八世紀に入つては右の原則は少なくも英蘭については轉倒した。勞働の價格は慣習或は小市場の懸引によつて力強く動かされなくなつた。過ぐる百年間に於て勞働の價格は大地域—一都市・一國或は全世界—に亘る供給・需要の事情によつて愈々力強く決定されるに至つたのである。

この新産業組織は生産能率を著しく增進した。蓋しこの組織によれば、適材を適所に用ひて各人の勞働を能ふ限りの最高種類の作業に投ぜしむるに非常に適してをり、又各人の作業を有能に指揮し且つ時代の富と知識との與へ得る限りの最善の機械的補助その他の補助を各人の作業に補給するに非常に適してゐたからである。併しこの新組織は大害惡を伴つた。これらの害惡の中何れが不可避であつたかは吾々の言ひ得ない所である。蓋し右の變化が最も急速に進行しつゝあつた當時、恰かも英蘭は歷史上殆んど未曾有の災厄の頻發に會つてゐたからである。英蘭はその諸大殖民地を失ひ、直ちに之に續いて佛國大戰爭が起り、この大戰爭は戰爭の當初に英蘭が有してゐた蓄積富の全部價値以上の費用を要した。未曾有の大兇作が續いてパンは恐るべく騰貴した。又右の總てよりも有害であつたのは、當時採用された救貧法施行方法が人民の獨立性と活力とを滅ぼしたことである。

從つて十九世紀初期に於ては自由企業は有利な事情の下に英蘭に確立されつゝあり、その害惡は外部的不幸によつて强められ、その福利ある影響はこの不幸によつて妨げられたのである。

一五

舊勞働秩序を復活せしめんとする若干の企圖があつたが無效であつた

過去の時代に於ては弱者は交易慣習・ギルド規約によつて保護されてゐたが、これらの慣習・規約は新産業に適しなくなつた。場所によつては一般の同意によつて之を撤廢した所もある。場所によつては暫くその保存に成功した所もある。併しそれは致命的成功であつた。蓋し新産業は舊束縛の下に繁榮し得ないため、これらの場所を去つて一層自由な場所に移つたからである(30)。その後勞働者は生産業の經營法を規定する舊議會法の强行を政府に求め、治安裁判官による價格及び賃銀規制の復活さへも求めるに至つた。

(30) 産業は過度のギルド規約に抑へられてゐた場所から逃走する傾向があるが、この傾向は古くから存し既に十三世紀に比較的弱いながらも現れてゐた。Gross, Gild Merchant, Vol. I. pp. 43, 52. を見よ。

この舊秩序には其の當時は善利も害惡も共にあつたが近代の急變時代には適しなかつた

これらの努力は失敗せざるを得なかつた。舊規約はその時代の社會的・道德的・經濟的觀念の表現であり、考へ出されたものではなくて寧ろ感じ出されたものであり、殆んど變化ない經濟狀態の下に生死した數代の人々の經驗の殆んど本能的な結果であつた。新時代に於ては變化は非常に急速であつて、もはやかゝる結果を待つ餘裕がなかつた。各人は自ら見て正しとする所を爲さねばならず、過去の時代の經驗は殆んど指針とならなかつた。舊傳統に固着せんと努めたものは迅速に滅んで行つた。

工業家は主に强固な獨立成功者であつて競爭の良い方面のみを見てゐた

企業家といふ新人種は主に强固・敏速な企業的精神に富み自ら資産を成した人々から成つてゐた。彼等は自己の精力によつて得た成功を顧み、貧民及び弱者の不幸は憐むべきに非ずして反つて恥づべきであると推定し易かつた。進歩の流れが破壞し去つた經濟制度を維持せんと試みるは愚であつたが、彼等はこの愚擧の印象を受け、何よりも先づ競爭を完全に自由にし最强者をして欲する儘に驀進せしめるよりも必要なことはないと考へ易かつた。彼等は性格の個性を讃美し古の時代に於て人間を協力せしめた社會的産業的束縛に代るべき近代的代用物を求めるに焦ることもなかつたのである。

戰時税の壓迫と食物の缺乏とは實質賃銀を引下げ

その間に不幸は英吉利人民の全部純所得を減少せしめた。一八二〇年に於てはその十分の一は單に國債利子を支拂ふために吸收された。新發明によつて低廉となつた財は主に勞働者を極く僅かに消費者とする製造貨物であつた。當時英蘭は殆んど工業獨占を把持してゐたから、工業家が自由にその商品を外國産穀物と交換することを許したならば、元よりその食物を安價に求めたかも知れぬ。併し之は議會に勢力を占めてゐた地主によつて禁止されてゐた。勞働者の賃銀は—通常食物に費されてゐた限り—彼の勞働が非常な

不健康な過度作業を伴ひ之は賃銀收得力を減殺した

劣等地—即ち優等地の產する不十分な供給を僅かながらに補ふため强ひて耕作される劣等地—に於て生產する物の當價に過ぎなかつた。彼は市場に於て勞働を賣らなければならず、この市場に於ては供給と需要との力が例へ自由に作用してさへ勞働者に極く僅かな賃銀を與へるのみであつた。併し彼は經濟自由の全幅の特典を持たず、實效ある同僚勞働組合を持たなかつた。彼は市場についての知識も持たず、貨物の販賣者が提供する最低限度價格を得るために堪へる力をも持たなかつた。彼は已むなく作業し、彼の家族を長時間不健康な狀態の下に作業せしめた。之は勞働人口の能率從つて彼等の作業の純價値に反作用し、從つて彼等の賃銀を低下せしめた。極く幼ない兒童を長時間雇傭するは決して新しい事ではなく、ノルウィッチ Norwich その他に於ては旣に十七世紀に於てさへ普通であつた。併し不良の條件の下に於ける過度作業によつて生じた德性的肉體的困窮疾病は十九世紀の最初の四分の一に於ける工場人口の間に於て最高點に達した。第二の四分の一に於ては徐々に減少しそれ以來一層迅速に減少した。

併しこの新制度は英蘭を佛國軍隊から救ひ勞働者は之を承認した

產業を規制する舊規約を復活せしめんとする企圖は愚であるが、勞働者が之を認めて以來もはや企業自由の制限を望む者はなかつた。英吉利人の困苦はその最も甚だしかつた場合にも、革命以前の佛國に自由の缺乏によつて生じてゐた困苦には到底比較すべくもなかつた。人の論じた所によると、英蘭がその强固性を新產業から收めてゐなかつたならば、英蘭は恰かもその以前に自由都市が屈從した如く恐らく外國の軍事的專制主義に屈從したかも知れない。英蘭は人口は少なかつたが、大陸の殆んど一切物資を支配してゐた一征服者に對する對抗戰の負擔を時には殆んど單獨で負つたのである。又時には英蘭よりも大でありながら一層貧しかつた諸國を助けてこの征服者に對抗し奮闘せしめた。若し英吉利產業の自由精力がこの共通の敵に對する戰爭の支持力を供給しなかつたならば、歐洲は昔羅馬の支配下に下つた如く、永久に佛蘭西勢力の下に下つたかも知れぬ。正しいか正しくないかは知らず、當時はさう考へられてゐた。從つて過度の自由企業に對する非難は殆んど聞かず、反つて自由企業の制限は英吉利人が今やかく迄容易に生產し得る工業品と交換に外國から食物を得ることを妨げる故に大いに非難されたのである。

勞働組合の政策の變化

勞働組合は當時その花々しい—但し浮沈多い—行路を始めつゝあつて、この行路は英吉利史上に於ける殆んど他の何物よりも興味あり敎訓に富むものであるが、この勞働組合さへもたゞ放任を望むの外殆んど何物をも當局から求めないといふ時期に入つた。勞働組合は苦い經驗によつて政府が產業の進路を指定した舊規約を强行せんとする企圖の愚なるを悟り、當時未だ自己の行爲による生產業規制について遠大な見解を得てゐなかつた。勞働組合は勞働者團結禁止法の撤廢によつて組合自身の經濟自由を增加せんことに主として意を用ひたのである。

經濟自由が放縦に墮するとき經濟自由の害惡が如何に大であるかは吾々が見得る所であるが當時の人は見得なかつた

一六　今や電信・印刷機により人は自己の害惡に對し自ら救濟策を決し得るに至つた。吾々は漸次集産主義形態に向つて進みつゝあり、この形態は強固な自律的個性に基く點に於て舊の形態よりも高級である。

經濟自由のかゝる增進の突然性から生ずる一切害惡は今の時代者に至つて初めて認知された。今や初めて吾々は、新義務のための訓練なき資本主義的雇主がその勞働者の福祉を自己の利得願望に從屬せしめやうとする程度を理解し始めつゝある。今や初めて吾々は、富者がその個人的可能力と共同的可能力とに權利を有すると共に義務をも有することを唱道するの重要なるを學びつゝある。今や初めて新時代の經濟問題はその眞相を曝露しつゝある。之は一には知識の擴大と誠意の發達とによる。併し吾々の祖父達が如何に賢明有德であつても、吾々が見る如く事物を見るを得なかつた。蓋し彼等は切迫的必要と恐るべき災害とによつて焦つてゐたからである(31)。

(31)　平時には何人も公然とは、貨幣をもつて人間生命よりも高い重要なものとは敢てしなかつた。併し高價な戰爭の危機に於ては常に貨幣を用ひて彼等を救ひ得た。何人も平時に於ては少數軍隊備品を救ふために兵卒の生命を犧牲とするを公然と辯護せぬであらう。さは言へ、戰時にあつて、或る材料の喪失が多數人の喪失を來す場合に、一將軍が危機的時點に於てこの材料を保護するために多くの生命を犧牲としても、正しく行動したとされる。

今や吾々は一層大なる手段を持つてをり一層の高所を目指さねばならぬ

吾々は一層峻嚴な標準をもつて吾々自身を判決せねばならぬ。蓋し例へ英蘭は近時再び國民存立のために奮鬪する地位に立つたにしても、英蘭の生產力は非常に增加したからである。人口は著しく增加したが自由貿易と蒸氣交通の發達とは輕微な條件によつて十分の食料供給を受くるを得せしめた。民衆の平均貨幣所得は二倍以上となつた。他方獸肉性食物及び住居を除いては、殆んど一切重要貨物の價格は二分の一或は更にそれ以上低落した。假りに富が平等に分配されてゐるとしても、英國の全部生產は今日に於てさへ民衆のために必要品と最も切迫的な快適品とを給するに過ぎぬは眞である。又現在の狀態に於ては多くの人々が單なる生活必要品を有するのみなるも眞である。併し英國民は富に於て、健康に於て、敎育に於て又道德性に於て發達した。吾々はもはや產業の全部生產物を增加する必要のために殆んど總ての他の考察點を從屬せしめざるを得ぬといふ域を脫してゐるのである。

自由の新制限は主として女子及び小兒の利益のためである

特にこの繁榮の增大は自由企業に新制限を課するに足る迄に吾々を富裕、強大にした。若干の一時的・物質的損害は一層高級な且つ終極に於て一層大なる利得のために受容さるるに至つた。併しこれらの新制限は昔の制限とは違ふ。これらの新制限は階級支配の手段として課せられてゐるのではない。弱者殊に小兒と小兒の母とは或る事項に於ては競

爭の力を用ひて自身を保護し得ないが故に、この弱者をかゝる事項について保護せんことを目的とする。その目標は近代産業の急變事情に適應した救濟策を計慮的に迅速に案出し、之によつて以前の時代には漸次慣習によつて發達し來つた昔の弱者保護の害惡を除いて善利を收めやうとすることにある。

今や電信・印刷機により人は自己の害惡に對し自ら救濟策を決し得るに至つた

　産業が數代に亘つて殆んど性質を變へなかつた場合に於てさへ、慣習は發達餘りに緩慢であり餘りに盲目であつたため、壓迫が福利的であつたときに限つて壓迫を加へるといふことは出來なかつた。この後期階段に於ては慣習は殆んど善利を與ふることなく多大の危害を加へた。併し電信・印刷機と代表政府・職業團結との助力により人は自己の問題の解決を自ら講じ得るに至つた。知識・自己信頼の發達は人に眞の自制を與へ、人はこの自制によつて自己の自由意志に基き自己の行爲に制限を加へ得る。共同生産・共同所有・共同消費の問題は新生面を開きつゝある。

吾々は漸次共同行爲形態に向つて進みつゝありこの形態は強固な自律的個性に基くが故に舊形態よりも高級である

　突發的大變革案は失敗し反動を來すべく豫め運命づけられてゐる。之は今も從前も變りはない。吾々の新生活考案が全然吾々の本能を驅け拔ける程急速に進むならば吾々は安全に進み得ない。人間本性を改變し得るは眞である。新觀念・新機會・新行爲方法は歷史の示す通り僅か數代の間に於てさへ著しくこの本性を變化する。かゝる人間本性の變化は恐らく未だ曾て現時代者の場合の如く廣大な範圍に及び且つ迅速に進みはしなかつた。併しそれにしてもなほそれは發達であり從つて漸次的である。又吾々の社會組織の變化は人間本性の變化に待たねばならぬのであり從つて社會組織の變化も亦た漸進的でなければならぬ。

　併し社會組織の變化は人間本性の變化を待つとは言へ、前者は常に後者よりも少しく前進していゝ。常に何等かの高級な新作業を與へ、追求すべき何等かの若干實際理想を與へ、もつて吾々の高級な社會的本性の發達を促進する。卽ち漸進的に吾々は高級な社會生活秩序に到達するかも知れぬ。個人主義が蕩々として行はれる以前の初期時代に於ても共同善利は個人的氣紛れよりも力强かつたのであるが、この新秩序の下に於てはこの時代に於けるよりも更に一層力强くなる。併しその時には沒我は計慮的意思の結果となるであらう—舊生活秩序に比すれば喜ばしい對照である。この舊秩序の下に於ては慣習に服する個人的奴隷制は共同的奴隷制を生じ、專制主義の氣紛れ或は革命の氣紛れによつて打破されるのみであつた。

一七

米國は或る種の經濟問題に多大の

　吾々はこの進行を大英國的視點から見て來た。併し他の諸國民も同一方向に驀進しつゝある。米國は非常な勇猛性と直接性とをもつて新實際的困難に直面し、ために米國は若

干經濟事項については先導者の地位に立つてゐる。米國は凡ゆる形式の投機形態・職業團結の發達の如き、現代の最新經濟傾向の最も教訓に富む事例の多くを供し、恐らく爾餘の世界の進路開拓の上に於て遠からず主役を勤めるに至るであらう。

光明を投じつゝある

濠洲

濠洲も亦た活力の兆を示し、その住民の同質性の大なる點に於て實に合衆國にも勝る若干長所を持つ。蓋し濠洲人は―カナダ人も略ぼ同じと言つていゝが―多數の諸國から渡來してをり、かくて多樣の經驗と思考習性とによつて思想と企業心とを互に刺戟し合ふには違ひないが、なほ彼等の殆んど全部は一人種に屬してゐるからである。社會制度の發展も、相互殆んど類似性を持たぬ住民の受容力・性情・嗜好・欲望にこの制度を適合せしめねばならぬ場合に比すれば、或る點に於て容易且つ速かに進行し得るのである。

大陸に於ては自由團結による重要結果收得力は英語國よりも弱い。その結果產業問題の取扱上にもそれ程の智略も徹底性もない。併し彼等の取扱は何れの二國に於ても決して全然同一ではない。彼等の各々が採用する方法には何等かの特性と教訓とがある。特に政府行爲の範圍に關してさうである。この點に於ては獨逸は一步拔んでゝゐる。獨逸の製造工業が英蘭に後れて發達したことは獨逸の大利得であつた。獨逸は英蘭の經驗を利用して英蘭の誤謬の多くを避け得たのである(32)。

(32) リスト List が開展した觀念は多大の暗示性に富む。その觀念によると、後進國民は先進諸國民の同時代の行動から教訓を學ぶべきではなくして、その先進國が後進國と同一狀態にあつた際の行動から教訓を學ばねばならぬ。併しクニース Knies (Politische Oekonomie, II. 5) がよく示してゐる通り、貿易の發達と交通手段の改善とによつて各國民の發展は同時化しつゝある。

獨逸は政府が人民のために行ふ事業の經營上に實驗を行ふ特殊の便宜を持つてゐる

獨逸に於ては國民中の最善知識者の例外的大部分は官廳に就職を求める。恐らく如何なる政府と雖もかくの如く訓練ある最高級の能力者を持つ政府は他にない。他面に於て精力獨創性・膽力は英米に於て最善の實業家を作るが、獨逸では漸く近時に至つて全幅の發達を遂げたのみである。之に對し獨逸人は服從の大才幹を持つてゐる。かくの如く彼等は英吉利人と違つてゐる。英吉利人はその意思の强固性によつて一旦緩急ある場合には徹底的規律に服し得るものであるが、生來は柔順ではない。政府の產業統制の最も興味ある最善形態は之を獨逸に見る。同時に私人產業の特殊美點・活力・彈力性・機略は獨逸に於て全幅の發達を遂げ始めてゐる。その結果政府の經濟機能如何の問題は獨逸で非常に細心に研究され、その研究の結果は英語國民にとつて非常な教訓に富んでゐることがある。但し獨逸性格に最適當の施設も恐らく英語國民にとつて必ずしも最善の施設でないことを忘れてはならぬ。何故かと言へば英語國民は、實着な柔順性と安價な種類の食・衣・住・娛樂を易々として甘受する點とに於て獨逸の敵たらんとしても到底能はぬからである。

又獨逸はかの驚歎すべき人種—宗敎的感情の强烈と企業投機の銳敏とに於て世界の先導者たりし人種—中の最も文化的な諸員を他の何れの國よりも多數に有してゐる。總ての國、殊に獨逸に於ては、經濟實踐・經濟思想上の最も光輝あり暗示あるものゝ多くは猶太的起源を持つ。特に個人對社會の利害衝突及びその利害の終極經濟原因とその可能な社會主義的救濟策とに關する多くの大膽な思索は獨逸系猶太人に負ふ所である。

併し吾々は第二附錄の題目に侵入しつゝある。以上吾々は經濟自由の發達が如何に近時のものであるか、經濟學の今日取扱ふべき問題の實體が如何に新しいものであるかを知つた。次に吾々はこの問題の形式が事件の進展と大思想家の個人的特異性とによつて如何に着色されたかを定めねばならぬ。

第二附錄　經濟科學の發達(1)

(1) 第一編第一章五を見よ。

一

近代經濟科學は間接には古代思想に負ふ所大であるが直接には殆んど負ふ所がない

近代經濟科學は間接には古代思想に負ふ所大であるが直接には殆んど負ふ所がない。古の交易拘束はマーカンティリストによつてやゝ解かれた。

吾々は經濟自由がその根を過去の中に持つてゐながらも主として極めて近時の一產物なる所以を明かにした。次に吾々は經濟科學の平行的發達の跡を辿るべきである。今日の社會狀態は古代のアリアン制度とセミティック制度とに發し希臘思想と羅馬法との助力によつて發展し來つたものである。併し近代經濟思索は古代人の理論の直接影響を殆んど受けて來なかつた。

近代經濟學が他の諸科學と同じく古典作家硏究復活時代に淵源を有するは眞である。併し奴隷制度を基礎とする產業制度と工業・商業を蔑視する哲學とは堅忍なブルガーburgherに適性なるものを殆んど持つてゐなかつた。これらのブルガーはその手工業と交易とを誇ると共に國家の統治に參加したことをも同樣に誇りとした。これらの剛健な—併し

―無教育な人々は過去の大思想家の哲學的氣質と興味の廣さとによつて大いに得る所あらんとすればあり得たのである。併し事實としては、彼等は自己の諸問題を自ら解かうと努めた。ために近代經濟學はその淵源に於てはやゝ粗野であり範圍も限定されてをり、富を人間生活の一手段と見ずして一目的と見る傾向を持つた。その直接關はつた事は一般に公共歳入と租税の效果收納であつた。

新世界との交易の影響

交易が擴大し戰爭が高價となるに從つて、諸自由市と諸大帝國との政治家は等しく玆に彼等の經濟問題が最も切迫的であり最も困難なるを知つたのである。

一切の時代に於て政治家商人は交易規制によつて國家を富ましめんとする努力に熱中した。併し殊に中世初期に於てさうであつた。彼等の關はる事の一主要目的は貴金屬の供給であつた。彼等は貴金屬をもつて物質的繁榮―個人の場合たると國民の場合たるとを問はぬ―の主要原因とはせぬ迄も最善の指示者とした。併しヴスコ・ダ・ガーマとコロンブスとの諸航海は西部歐洲諸國民の間に於て商業問題を二次的地位から主要地位に引上げた。貴金屬の重要性とその供給を受ける最善手段とに關する理論は或る程度迄公共政策の審判者となつた。これらの理論は戰爭と平和とを嚴命し、諸國民興亡の結果となつた諸同盟を決定し、時には地球表面上の民族移住に大いに影響した。

初期交易規制

貴金屬交易についての規則は非常に多數の法令中の一部類に過ぎなかつた。これらの法令は、精細の度と嚴格の度とには差があつたが、各個人が何を生產すべきか、如何に生產すべきか、何を收得すべきか、如何にその收入を費消すべきかを指定せんとした。テュートン人種生來の執着力は中世初期に於て慣習に例外的の强固性を與へた。この强固性は、新世界との交易によつて直接・間接に發生した休みなき變化への傾向に對抗しやうと努めた際に、商業ギルド・地方權力者・國民政府の側に力を現した。佛國に於てはこのテュートン的性向は制度上の羅馬的天才に指導されて、父權的政府は絕項に達し、コルベア Colbert の交易規制は諺となる迄に至つた。經濟理論が初めて形を成したのは恰かもこの時代であつた。所謂マーカンティル制度（システム） mercantile system は顯著となり、規制は未曾有の峻嚴味をもつて遂行された。

マーカンティル理論は交易拘束を解く傾向があつた

年代の經つと共に經濟自由への傾向が起つて來た。新觀念の反對者は過ぐる時代のマーカンティリストの權威を借りて自說を守つた。併し彼等の制度（システム）中に見出される規制制限の精神はその時代のものであつた。彼等が招來しやうと努めた變化の多くは企業自由の方向に向つてゐた。特に彼等は、貴金屬輸出の絕對禁止を欲した者に反對して、交易が結局に於て國内から引出す以上の金銀を引入れる場合には總てその輸出を許すべきであると論じた。かくの如く彼等はこの特定の場合に於て交易者が自己の企業を意の如く處理するを許すことによつて國家が利するや否やといふ問題を起し、之によつて彼等は新思想

傾向を起し、之は見えざる程の段階を經て經濟自由の方向に動いて行つた。その進行を助けたものは當時の狀態であつた。西部歐洲の人心の風潮と氣質とも右に劣らずこれを助けた。この擴大運動は進み進んで十八世紀後半に至り、遂に時は熟して新學說を生んだ。その學說とは、各人が自らの事を意の如く處理する『自然的』自由に對し國家がそれ自身の人爲的規制をもつて反對するときは殆んど常に社會共同體の福祉を害するとの說である(2)。

(2) 同時に『官。房。學。的。』Cameralistic 研究は公共事務の科學的分析を發展せしめつゝあつた。それも最初は財政的方面のみに於てゞあつたが、一七五〇年以降諸國民の富の物質的―人間的と區別す―狀態についても漸次發展した。

二　フィジオクラット。アダム・スミスは彼等の自由交易說を開展し、價値理論をもつて經濟科學を統一體たらしめる共通中心とした。

フィジオクラットは制限をもつて人爲的であり自由をもつて自然的であるとした

廣大な基礎の上に一經濟科學を形成せんとする最初の系統的企圖は佛國に於て略ぼ十八世紀の中葉に行はれた。之を行つたのは政治家哲學者の一團であつて、之を指導したのはルイ十四世附の侍醫たりし精神高貴なるケネー Quesnay であつた(3)。彼等の政策の基石は自然への從順であつた(4)。

(3) カンティヨンが一七五五年に書いた論文『商業の本質について』Cantillon, Sur la Nature de Commerce は廣い範圍に亘つてゐて、實にやゝ系統的と呼ぶに足るものである。この論文は銳いものであり、或る點に於ては彼の時代に先んじてゐる。尤も今日に至つては、六十年早く著作を出したニコラス・バーボン Nicholas Burbon が數多の重要點に於て彼に先鞭をつけてゐるやうである。カウツ Kautz はカンティヨンの業績の重要性を認めた最初の人であつた。ジェヴンスは彼をもつて政治的經濟學の眞の建設者であると宣言した。彼の經濟學上に於ける地位の公平な評定については、ヒッグスの論文を見よ Higgs (Quarterly Journal of Economics, Vol VI.)。

(4) 過ぐる二世紀に於て經濟問題を取扱つた著述家は絕えず自然に訴へた。論爭者は各々自己の考案をもつて他の人々のものよりも自然的であると主張し、十八世紀の哲學者―その一部の人々は經濟學に多大の影響を與へた―は自然に合致した權利の標準を見出さうと欲した。特にロック Locke は自然に訴へる一般學風に於て、又その理論の若干重要細目點に於て、佛國經濟學者の業績の多くに先鞭をつけた。併しケネーその他彼と共に研究した佛蘭經濟學者は英蘭以外に働きつゝあつた諸種の力に押されて社會生活の自然法則の追求に沒頭した。

佛國宮廷の奢侈と上流階級の特權とは佛國を破滅せしめつゝあつて人爲的文明の最醜惡面を曝露し、之がため識者は一層自然的なる社會狀態への歸還に憧れるに至つた。法律家―その中には佛國の最善の心性的・德性的强力者が多かつた―は後期羅馬帝國のストア派法律家の發展せしめた自然の法を溢れる程持つてゐた。世